建築ト社會

大正六年九月十四日（第三種郵便物認可）
大正九年八月一日編輯兼發行一回一月發行



第三輯
第八號

大正九年　八月一日

日本建築協會

日本建築協會會則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ堅實ナル發展ヲ期スルニ在リ

第二條　本會ハ日本建築協會ト稱ス

第三條　本會ハ事務所ヲ大阪市ニ置ク

地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ハ人格、學識、經驗アル建築家ヲ以テ會員トス

會員ノ氏名住所ハ會員名簿ニ之ヲ記錄ス

會員タラムト希望スル者ハ會員五名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會ニ於テ議決ス

第五條　本會ハ其目的ヲ贊成シ事業ヲ援助スル者ヲ賛助員トス

賛助員ヲ分ケテ左ノ四種トス

一　名譽賛助員―地位又ハ學識アル名望家

二　終身賛助員―金參百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家

三　特別賛助員―建築ニ關係スル特種ノ技術家又ハ事業家

四　普通賛助員―建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル者

賛助員ノ氏名住所寄附ノ金額又ハ物件ハ各賛助員名簿ニ之ヲ記錄ス

第六條　名譽賛助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會之ヲ推薦ス

終身賛助員タラムトスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

特別賛助員タラムトスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

普通賛助員タラムトスル者ハ會員ノ紹介ヲ以テ申込書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第七條　會員ハ會内ニ於ケル其資行ニ付會外ニ於テ資ニ任ゼザルコトヲ得

名譽賛助員ハ本會ノ優遇及第十九條ニ基キ相當ノ利得ヲ受ク

終身賛助員、特別賛助員及普通賛助員ハ第十九條ニ基キ會誌ノ配布其他各相當ノ利得ヲ受ク

第八條　會員ニシテ脫會セムトスル者ハ其旨ヲ本會ニ申込ムベシ

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第九條　本會ハ會員ニシテ本則ノ規定ニ違背シ又ハ本會ノ名譽ヲ汚スノ行爲アリト認メラルル者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經タル其權利ヲ停止シ若ハ之ニ脫會ヲ勸告シ又ハ例會ノ決議ヲ經テ除名スルヿヲ得

第十條　賛助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會之ヲ推薦ス

終身賛助員タラムトスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

特別賛助員タラムトスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

普通賛助員タラムトスル者ハ會員ノ紹介ヲ以テ申込書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第十一條　賛助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會之ヲ推薦ス

終身賛助員タラムトスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

普通賛助員タラムトスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第十二條　賛助員ハ會費ヲ納ムルノ義務ヲ有ス

賛助員ハ會費ヲ納ムルノ義務ヲ有ス

賛助員ハ會費ヲ納ムルノ義務ヲ有ス

建具金物と塗込暖爐

ストーブと
建具金物は
堀商店の最も
得意とする處
御安心の上御
申聞被下度候

型錄贈呈
一塗込暖爐と附屬品
一錠前と金物
一家具の金物



歐風建築金物商

堀金物店

東京芝區兼房町
電話長新橋一九五番
振替東京二四七二番

出張所 大阪南區日本橋通り五丁目
電話長南七九〇番



『建築と社會』第參輯第八號

目次

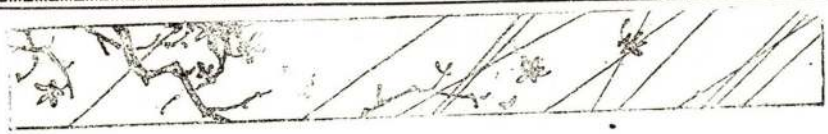
口繪（神戸海洋氣象臺（三色版）／同上内部（寫眞版一）／懸賞改良住宅設計案選外一等選（寫眞版自二至四））

〔卷頭〕
□夏漸く深し ……一

〔論說〕
□財界の混亂と都市建築(二)……日本建築協會理事長 工學博士 片岡安……二
□市民の建康に及ぼす住宅難の影響……京都帝國大學醫科大學教授 戸田正三……九
□路面電氣軌道に關する私見……大阪市技師 工學士 花井文太郎……一四
□都市計畫と天物の保全……醫學博士 石原保……一八
□建築職工組合設置に就て……會員 建築技師 小笠原鈔……二二
□懷感二三……大阪土木建築組合常任評議員 山本辰五郎……二六
□かき葉（其の一）……二九

〔研究〕
□米國建築界の同盟罷業に就て(一)……（在米）會員 大林組技師 本田登……三〇

〔住宅〕
□居構百選(八)……會員 葛野建築事務所主 工學士 葛野壯一郎……三六
□新聞記者の見たる名士の邸宅(6)……讀賣新聞記者 梅谷孫吾……三九



〔庭園〕
□日本庭園考（五）……會員　大阪府都市計畫地方委員令技師・農學士　大屋靈城……四五
□かき葉（其の二）
〔都市〕
□將來の市加古市(3)……ウオルター●デイ●ムウデイ著　ZY生譯……五〇
〔談叢〕
□生活の改造といふ事ども……ドクトル川瀨元九郎夫人　川瀨ふみ子……五八
〔資料〕
□大阪市都市計畫參考資料（其五）
〔紹介〕
□神戸海洋氣象臺建築工事概要……六〇
〔漫錄〕
□フランク・ロイド・ライト氏を紹介す……會員・建築技師　伊藤清造……六二
□太平洋を横ぎりて（三）……會員・工學士　波江悌夫……六七
〔訪れ〕
□島定次郎氏婦人きぬ子の君……七三
□四宣草堂漫筆……會員・工學士・建築士　佐藤四郎……七八
〔藻苑〕
□建築と俳句……蘆田秋双……八五
□俳句▲▲時報……蘆田秋双選……八八
會報……九三

附錄

□巴里市衛生警察令……六頁

大阪煖房商會
大阪電氣商會

營業課目

房暖氣電。燥乾。生衛。風通。房暖

負請計設事工

賣販作製トフリ及機降昇

賣販料材械機諸氣電
負請督監及計設事工氣電
賣販托委品所作製燈電阪大

工事代理
社會式株燈電阪大
社會式株氣電川治宇
社會式株氣電本日
社會式株氣電屋古名

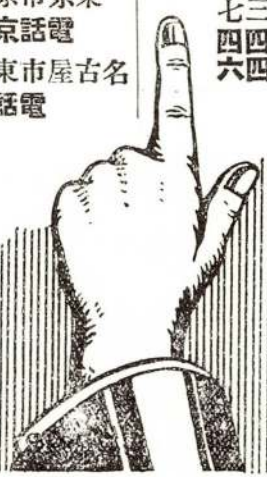
本店

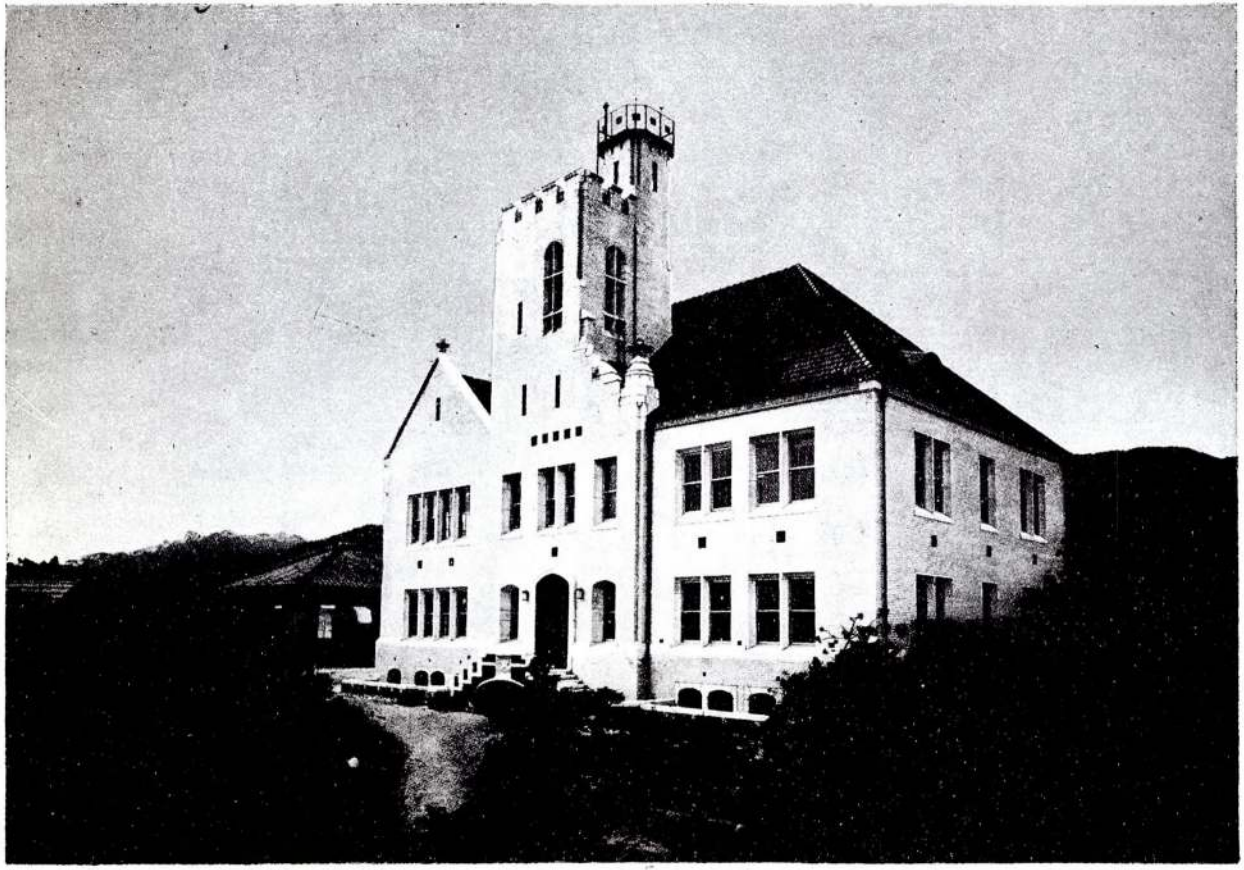
大阪市西區江戸堀
南通一丁目三七
電話 長五四四 土佐堀 四一四六

出張所

五町屋紺西區橋京市京東
電話京橋 長三二〇六

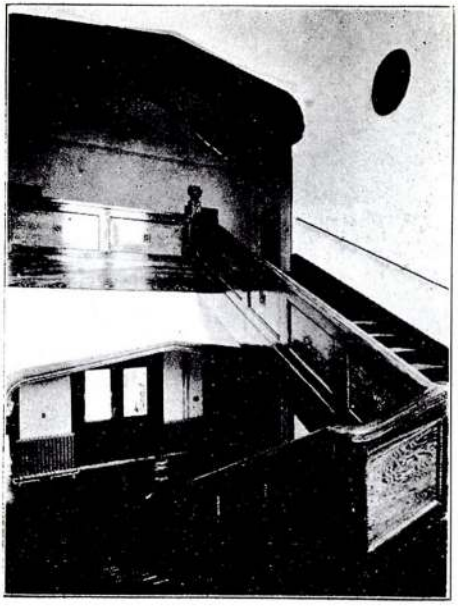
目丁二町重本東區東市屋古名
電話長三二六二



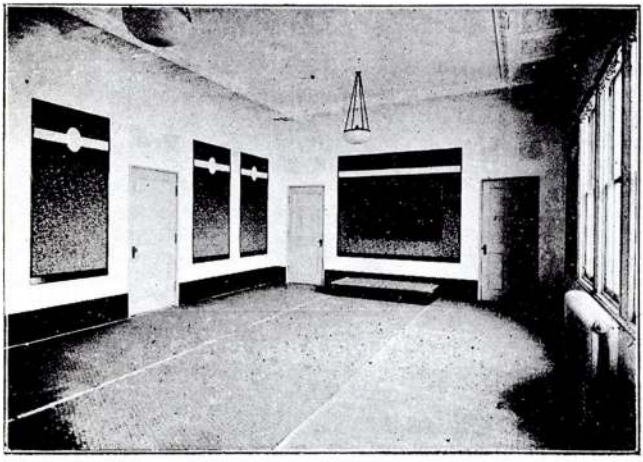


神戸海洋氣象臺　（設計者工學士 渡邊節氏＝本文說明參照）

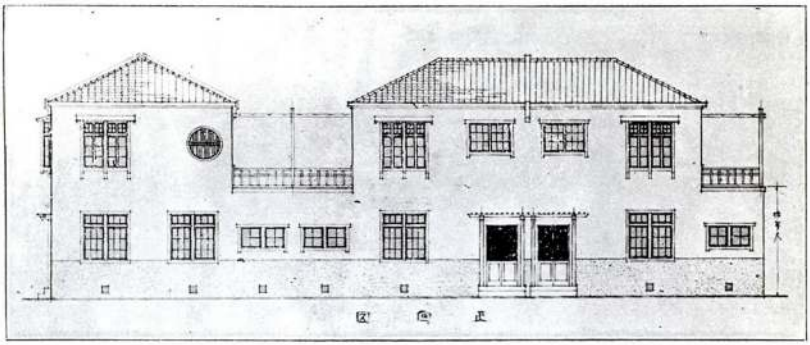
神戸海洋氣象臺內部二大階段



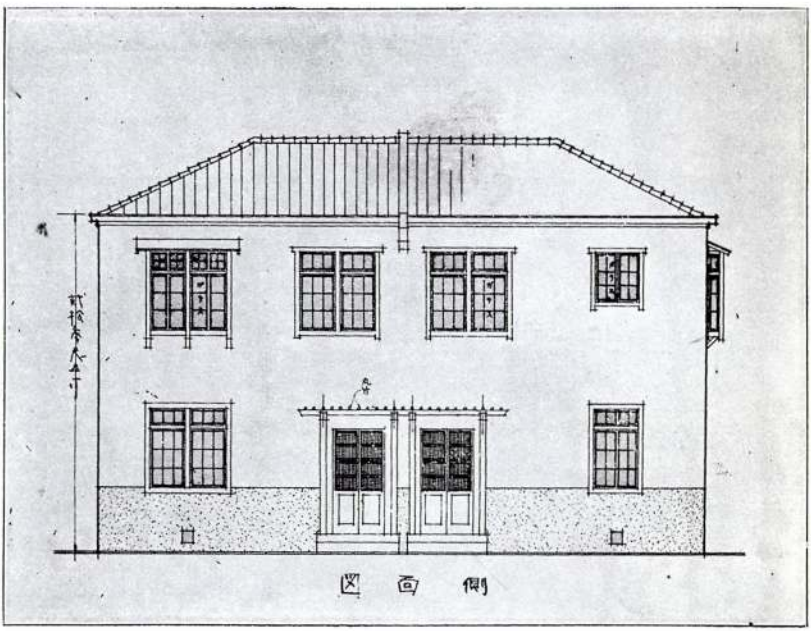
神戸海洋氣象臺內部會議室



懸賞改良住宅設計選外第一席當選二設計者川島良一君

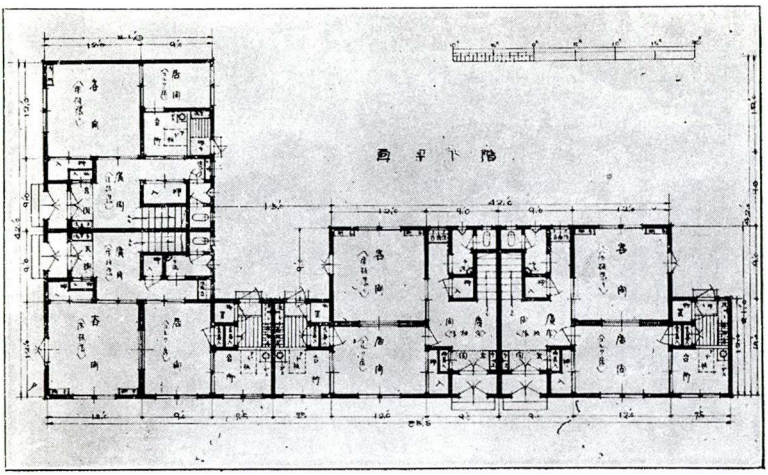


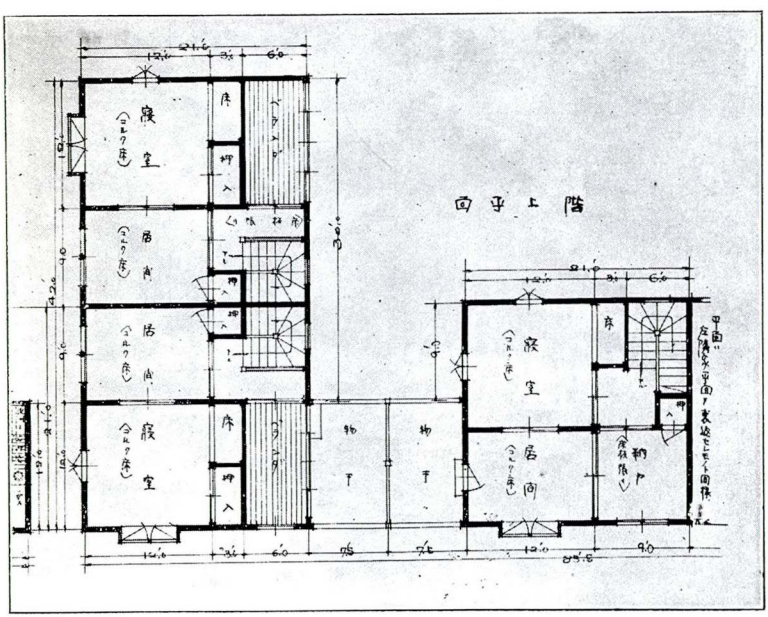
図面正



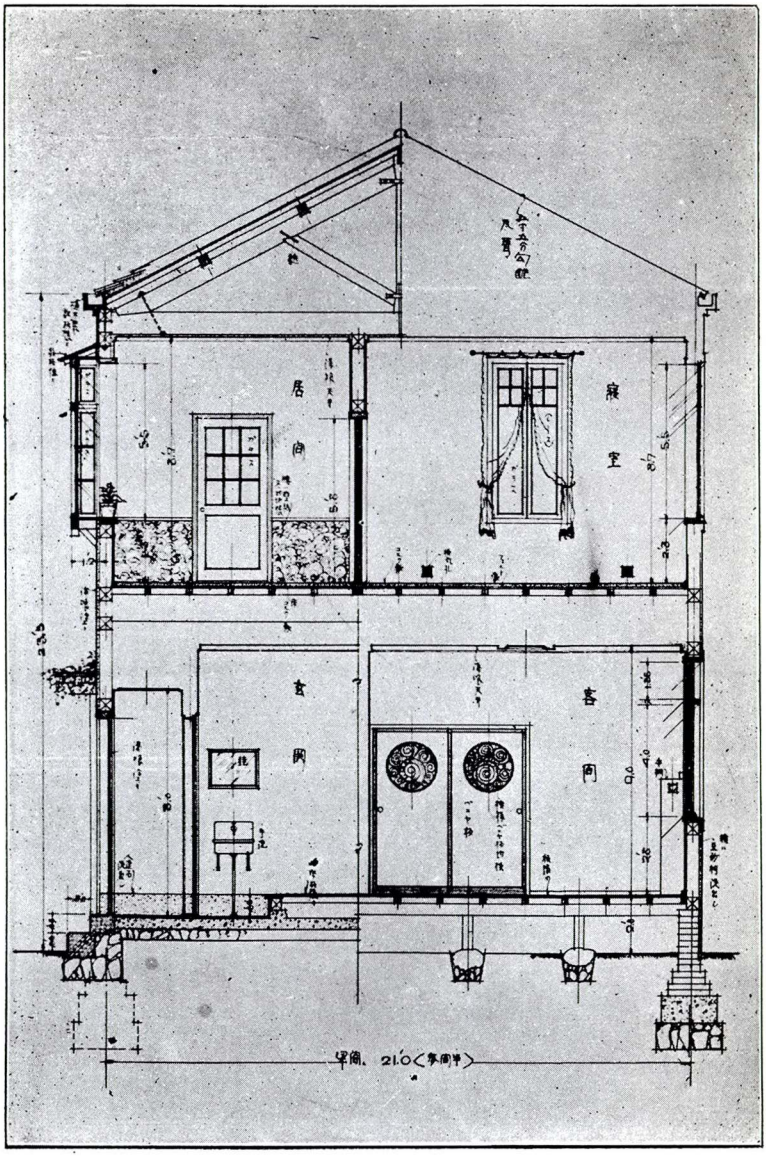
図面側

二　其





三　其



事務所設備費寄附收納

當協會新事務所設置に就て其設備費寄附續々御申込相受け候處其内既に御拂込被下候分左に掲載して篤く謝意相表し候と共に更めて領收の証と致候（大正九年七月廿九日正午現在）

大正九年八月一日

日本建築協會主計

（領收の順序に依る）

氏名	金額	片岡 安殿	一〇〇〇	秋吉鐵五郎殿	三〇〇	小川久太郎殿	五〇〇
野澤幸三郎殿	一〇〇〇	齋藤 又吉殿	一〇〇〇	木村梅次郎殿	一〇〇	西岡 道臣殿	一、一〇〇
熊取谷熊次郎殿	一〇〇〇	田中 豊輔殿	一〇〇〇	金剌森太郎殿	一〇〇	鴻上 佐藏殿	一、一〇〇
中川辰次郎殿	一〇〇〇	設樂 貞雄殿	一〇〇〇	岡村德一郎殿	五〇〇	井上與左衞門殿	三〇〇
辰己吉之助殿	一〇〇〇	前田 直正殿	一〇〇〇	八尾德太郎殿	五〇〇	深尾 義昌殿	三〇〇
葛野壯一郎殿	一〇〇〇	内藤 栄殿	五〇〇	森 篤次郎殿	五〇〇	宗兵 藏殿	一〇〇
村井工業所殿	五〇〇	山脇友三郎殿	一〇〇	倉崎太三郎殿	五〇〇	池田 實殿	一〇〇
舟橋喜一殿	一〇〇〇	平塚 鎗吉殿	一〇〇〇	吉岡與平治殿	五〇〇	吉井 長七殿	一〇〇
松尾和介殿	一〇〇〇	毛利 泰三殿	三〇〇	山本 潔殿	一〇〇	松浦 基二殿	三〇〇
山本辰五郎殿	一〇〇〇	大村 大道殿	三〇〇	黒瀨事務所殿	三〇〇	荒木 賢治殿	一五〇
能村知二殿	一〇〇〇	宮崎三之介殿	一〇〇	高柳 宗一殿	五〇〇	内藤 多仲殿	五〇〇
矢島一雄殿	一〇〇〇	荒木 茂夫殿	一〇〇	佐藤 清八殿	五〇〇	中村角之介殿	五〇〇
島田良馨殿	五〇〇	中川 彌八殿	三〇〇	千賀 正人殿	三〇〇	伊東宗太郎殿	五〇〇
有山福重郎殿	一〇〇〇	中村 昌三殿	三〇〇	衛藤 官殿	三〇〇		
泉谷千秋殿	五〇〇	菅谷 元治殿	一〇〇〇				

（電話使用權壹箇）

池田勘造殿

合名會社 橋本料左衛門商店殿

株式會社 大倉土木組殿

株式會社 大林組殿

合名會社 竹中工務店殿

株式會社 松村組殿

株式會社 鴻池組殿

株式會社 安藤組殿

株式會社 木村組殿

合資會社 清水組殿

合資會社 錢高組殿



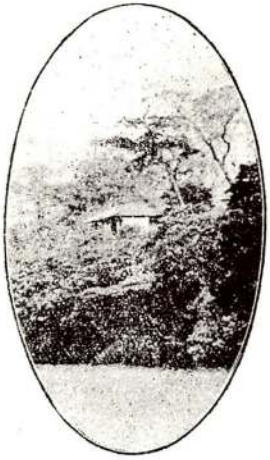
夏漸く深し

日ごと日ごと

黒みかたまる窓の前の

欅のわか葉見つつ惜めり

……『さびしき樹木』より……





論說

財界の混亂と都市建築 (二)

日本建築協會理事長 工學博士 片岡安

四

今や都市建築は其勃興の機運を阻止されて、漸く沈衰の狀況に向ひつゝあるは事實である。凡て社會の人事物情は一盛一衰を免かれぬものであり、殊に經濟界の波動に並行して其盛衰を繼續する社會的事業は、其波動の一高一低によりて或は榮へ或は衰ふるは當然の事であつて、之を人爲的に調節せんとするも到底その目的を達し得られるものではないのである。その意味に於て我建築界の現時の沈衰の狀態を見る時は、之れ全く當然の成行であつて、敢て憂ふるの要なきが如くにも見られるのである。然しながら之を實際的に觀察する時は必ずしもそう簡單に見逃がすを容さぬのみならず、斯の機會を利用して我建築界の從來の不節制、不統一及び技能の熟達を企畫し、又一面將來の奸商の暴利手段を拒否し、建

築勞働者の訓練と其生活安定の方法を攻究するを以て最も策の得たるものとする。

現時の都市建築熱の冷却は二方面より之を促進したようである。其一は金融梗塞の爲めに事業家の手元苦しきに基因し、其二は物價低落の趨勢は奈邊にまで迫ぶや豫知すべからざる時代には如何なる人もその建築物の施工を手控ふるに基因する。金融梗塞の因つて來りし根本理由は、我國の財政經濟の政策と民間事業家の投機的企業熱とが長らく常軌を逸して居た其反動であるから、急に其梗塞が圓滿に開かれるものではないと見ねばならぬ。近時各方面に於ける堅實なる事業の爲めに特殊銀行をして相當の融通をなすべく計畫されて、稍其端緒は開かれたけれども、到底斯かる姑息なる手段では我國社會一般の金融が直ちに戰前の如く圓滑に流通するように立至ることは期待出來ないのである。先づ少くとも二三年の時日を藉さねばならぬかも知れぬ。即ち自然の回復力によりて金融梗塞が漸次に融通圓滿の狀態に回復するを待つより外に途はないのである。して見れば金融梗塞より來れる都市建築の沈衰が今後再び勃興の機運に際會するには少くとも二三年の期日を要するように思はれる。而して其二三年間の沈衰期こそ我建築界の最も多事多幸の時であつて、所謂禍を轉じて福となすには或は斯の時期を措ては再び見出し得ないかも知れぬ。又現時物價低落の趨勢を見送りて緊急を要する建築物さへも之を見合せ、其底値に達するを待つが如きは、人情の常にして致方なき順序ではあるが、其の人爲的に我建築界の沈衰を助成すること著しきものあるは嘆はしき現象である。若し斯かる成行の見送りが建設者に大なる利益を招徠するならば或は之を忍ぶべしとするも、事實は却て不利益なる結果を生じ、底値なるものは何時までも到來せず、己むを得ず着手する時は已に物資勞力共に甚しき缺乏を感じ、再び不自然なる生産と建設の關係を生ずるや明かである。

五

金融梗塞より來る現時の都市建築沈衰の時期に於て、我建築界の整理統一及訓練を要すること多々あるけれども、之を大別すれば三つの方面に分類出來る。其一は建築材料供給の方法、其二は設計の統一と訓練、其三は施工の整理及訓練である。

建築材料の適當なる供給が建築物の根源であるは言ふまでもなきことながら、我國に於ける從來の建築材料生産者及取扱者の態度並に之に對應する建設者及設計者の應策は實に幼稚にして、陰險ならざれば偏狹、我利ならざれば放漫を極め、都市建築の發達を助長して文化向上の爲に努力するてふ遠大の希望は殆んど之を見出し得なかつたのである。唯射利以外何等の目的なき素町人式の販賣方法が瀰蔓して來つたのみならず、之を開發指導すべき建築專門家の態度亦狹量偏局の嫌なき能はず、自己關係の責任を無事に通過さるを以て能事了れりとしたのは事實である。最近に至るも未だ主要材料の寸法品質の統一なきは其實証の一であるとも見られる。最近二三年間に建築材料の價格暴騰して其止まるところを知らざるが如きは、建築材料取扱者が世の投機的企業家と其歩調を一にせる結果であるとは明かにして、之を社會時弊の反映であると見れば何等咎むべきことでないかも知れぬが、建築物の如き永遠の經濟的打算と並行すべき物に向つて投機的態度を以て臨むことは、最後に自己の面上に唾すると同樣の結果に陷るものと言はねばならぬ。譬へばセメントの如き或は煉瓦の如き其取扱者は戰前の價格の四倍乃至五倍を唱へ、殆んど禁止的價格を以て建築界に臨みつゝあり、あらゆる建築物の計畫を何處迄も閉塞せざれば已まざらんとするの態度である。若し冷靜なる建設者が經濟的に打算し相率ひて其建設を當分見合

すとせんか、彼等製作業者は全く自からを閉塞することゝなるは明かである。セメント及煉瓦の如きは一例に過ぎざれども、建築材料取扱者が製造業者と言はず、販賣業者と言はず、何れも大体に於て建築の促振及助長に其業務の基礎を有しながら、建築勃興機運に一大障害を與へて知らざるが如き態度は吾人が之を偏狹にして放漫なりと唱ふる所以である。人或は物價騰貴の趨勢は竟に建築材料も騰貴の已むなきに至らしめたりと言はんも、そは曾々口實を假るに過ぎざること明かであるから、今此處にその妄を辯ずるの要はないが、他のものは或は曰はん、物資需給の關係は斯かる暴利を得せしむるの順序となり、成金企業者は其建築物の永久的經濟の打算を忘却して、其材料の價格如何に高きも頓着なきに乘じて極度の相場を現出せるに過ぎず、其罪はむしろ需要者にありと、それ或は然らん、商人としては極度の利益を獲得するの權利あるべし、吾人は斯る企業家や商人の得意の時代に稍道學先生めきたる理論は之を唱ふるの愚を知る。乍併時は來れり、金融梗塞の此の時機は來れり、此時こそは斯かる偏狹にして放漫なる連中を敎育するの時である。即ち彼等をして堅實なる思想の下に、我國建築界の向上發展を圖るの大方針を立て、其機關を統一して正々堂々の産業組織を樹てしむるを要する。

我國は不幸にして天然資源に乏しく、天然材料の隨一たる石材と木材とは今後其濫費を愼むの要あるべく、又製造品たる鐵材、セメント、煉瓦、塗料等にても其原料に於て貧弱なるの嫌がある。斯の事情の下に於て世界的文化の都市を建設することの困難は凡そ想像され得るのである。都市建設に關するあらゆる人士が協心戮力以て其向上發展を企圖するも、或は世界的に見れば尙其足らざるを恐るゝのであるにも拘らず、其進展を阻害して顧みざる建築材料取扱者をたとへ一人にても又一時にても見出すことは、吾人の甚だ不快とするところである。又建設者側に於て殊に設計者に於て斯の大勢を理解せざる者

の多きは事實であつて、現時の混沌たる情勢に立至り初めて氣の付いた連中も、或は多くないかも知れぬ。要するに、建築材料供給の方法は供給者及需要者共に從來は姑息にして偏狹なる態度であつたとは事實であるから、此次の金融梗塞に際して此處に覺醒し、目前の利益或は方便にのみ拘泥せず、我國の都市建築促振の一大方針の下に、其組織を改め、近代式の產業組織に依り需給者共に其眞實の進路を樹立せねばならぬのである。

六

建築物の設計に就ても其統一と訓練を要求すべき最好適の時期が此處に生れて來たのである。投機的企業勃興に際して各方面に各種の建築物が實施さるゝ際には、それ等建築物の設計も凡て拙速を尊ぶは已むを得ぬのであつて、濫作粗製は益甚しく、文化的進運の進歩と並行して其永久の伴侶たる價値乏しき建築物の多く實現したのは事實である。而してそれ等の建築物は最近殊更に統一を缺ぎ或は社會の文化的要求殊に經濟上の要求と十分一致せざるようになつたと言ふのではなく、從來久しきに亘りて現代の文化的要求に對する訓練を缺ぎたるをその儘唯徒らに襲踏したに過ぎないのである。吾人はその態度又は情況が沼徠する不利不幸を高唱せんとした時は已に遲し、企業熱勃興の高潮押し寄せ來り、工費の騰高や、設計の實質的價値は顧みられず、唯一時の目的を貫徹せんとしたのであつた。然るに近來急激なる財界の恐怯來に遭遇し、投機的企業と並行せる凡ての建築物は一齊に其計畫を放棄せざるを得ざる

に立至つたのは、其局部に種々なる悲劇もあらんが、我國都市建築の前途の爲めには非常に幸福であつたのである。

都市建築の唯一の生命とする處は、都市文化の進運と並行して其經濟的價値を發揮するにあると言ふを妨げぬのである。而して其の計畫は凡て其基礎の上に樹てられたものであつて、其建設も亦投機的企業と並行して急激に濫興すべきものではない。殊に其設計には現代の科學を最もよく適用し、生產狀態の實際と並行して經濟上最も有利なる徑路を辿り、其實施の適當なる運用を期すべきである。然るに從來我建築界にありては其設計や監督に從事する者の多數は、都市建築の本來の性質を十分に理解せず、注文主の粗漫なる企畫に依りて唯命之を奉じて來たようの形跡なきにあらず、從つて都市建築の價値を一般社會に知らしむるの手段を採らず、自からも其眞實の價値を發揮すべき努力を缺いだのである。抑都市建築の設計には其地方の生產能力や地理的狀態と全く並行して其案を立つるを第一とし、周圍の環境に對する調和はもとより其實質的價値を十分ならしめて、しかも安價施工の方法を講ぜねばならぬのである。然るに實際に就て之を見るに、或は生產能力の乏しき材料を蒐集して市場を困亂せしめたり、勞働者の不足を顧みずして施工を急ぎ一般勞働界の必迫を起すなどはまだしも、其設計の放縱粗漫なる果して將來永久に我都市文化の進運の伴侶たり得るや否やを疑はしむるものをも見るに至つては、吾人は我建築界の幼稚なる情態を愍まざるを得ないのである。

要するに都市文化の進運と常に並行して其活動力を助長すべき都市建築の設計者は、其材料の生產情

態や勞働訓練の事情に關して十分の理解を有し、その指導向上を企て、以て其設計實施の基礎となすべきは當然の任務である。斯の點に於て我國從來の建築界に於ける實際を見れば、其設計者の無理解なりしは著しき事實と言つてよろしいのである。又都市建築を理解し其向上改善を圖り其適用を企畫する能力に於て設計者以上の者はないのであるから、吾人は常に建設者の指導者となりて都市文化を益向上せしむべく努力せねばならぬのである。最近亞米利加合衆國に於ける大ホテル建設の如きは、そが建設者はその經營上の基礎を殆んど全部其設計者たる建築士の計畫に俟つと傳へられて居るのも或は事實であるであろふ。

都市建築が都市發展の中樞物件であり、其建設の巧拙が其發展の運命に至大の關係あるを稽ふれば、建築技術家がそれを取扱ふ上に於ける責務の如何にも重大なるを感ぜざるを得ない。我國の都市は幸福にも其建築の建設は主として今後にあるが故に、吾人は其今後に於ける其建設に對しては從來の如き遊戲的個人的創作慾に甘んぜず、現代の科學應用と經濟生活の理法に適合せる雄大にして恒久的の建設を實現すべく努力せねばならぬ。而して其時期は實に此財界の混亂の時よりして緊褌一番其方針に出發すべきである。（續く）

市民の健康に及ぼす住宅難の影響（上）

京都帝國大學
醫科大學教授
戸田正三

近來の保健住宅難＝輓近都市發展の趨勢＝人口の都市に適應すべき秩序と組織＝都市の健否と市民の健否＝市民の保健政策は都市の基礎的條件也

題して『市民の健康に及ぼす住宅難の影響』としましたが、それは、單に輓近に所謂『住宅難』の謂ひのみにあらずして、住宅の缺乏に連れ、不健康家屋又は病弱家屋の續出と、延いて起る都市民の不健康生活に就て述べむとするのである。換言すれば『保健住宅難』の意味である。

輓近我邦に於ける都市發展の趨勢に鑑るに、未だ都市てふ有機體の組織的發達を成さしむるに足るべき何等基礎なくして、唯交通機關の部分的發達と一時の景氣に紛れたる商工業の發展とは、急激に其人々を都市に集中せしめ、益々其建設を高からしめむとしつつあるもの、如し。固より地方の人々が或は商工業に要求せられ、又は文化に誘はれて都市に集中するは、輓近の文化に伴ふ必然の趨向とは云へ、之れが發展の狀況にして、それに適應すべき秩序と組織とを有せざるに於ては、實に烏合の感なき能はざるのである。

都市は、一國又は一社會小にしては一地方の政治、經濟、商工業は勿論、敎育並に文化の中心である。從つて、之が發展上の組織と秩序とは、克く其國勢の羅針盤たるべきものである。併し乍ら、都市も元と是れ個人の集合に外ならざるものにして、都市の健否は、市民の健否に左右せらるべきものである。加之、都市の發展は、市民の活動力に正比例すべきものにして、健全なる市民は都市の要素であると同時に、最も價値ある都市の資本であらねばならぬ。斯くの如きが故に、市民の保健政策を講ずることは、都市の完全なる發展を期するに缺ぐべからざる基礎的要件であらねば

ならぬ。

我邦の都市は生活要素を供給しつゝあるや＝都市民の生活要素と勞働者の住宅＝住宅の目的＝吾人の研究

然るに、今我國の都市に集中せる多數の人々は果して彼等の要求に應じ、又應せんとして集まり又は集まりつゝある各所に彼等の保健生活を營維し、同時に活動力を養成するに足るべき範圍内に於て、彼等の生活要素を供給せられつゝありや否や。尤も、予が此處に述べむとする生活要素の範圍なるものは、何分其對照物が人間といふ適應能力の最も發達せる者に對して示さんとするものなるが故に甚だ漠然たるものにして、之れを一定の標準量又は質を以て律する能はざるは明かなることなるも、吾人は今日吾人の生活に要する衣食住就中食住等の最少限に就ては之を求むるに難からず。斯くの如くして予等が保健生活の最少限と信ずる處のものを、市民の最大多數を占むる勞働者が供給せられつゝありや。就中、予は今此處に勞働者の住宅に就て一言せむとするのである。

元來、住宅の目的たる。畢竟氣候適應策に在る。即ち、各種の氣候に適應して、吾人人類の生活能力を增進せしめ、外、敵害を排し、内、疾病の防備を爲さんとすべきものである。飜て歷史に徵するにも、民族の發展又は文化と、其處に於ける住宅の進化とは正比例をなし、植民策の成否と、これとは克く一致してゐるのである。穴居の民族が漸次退化せるも、其食の爲にあらず、又其衣の爲にあらずして、所詮は主として住の不完全に皈する事多く、住の不完全なるが爲に肺結核の如き病に冒され、又は之等に對する生存競爭に破れたるが如き感無きを得ない。

斯くの如きが故に、住宅其ものは、恒に其氣候並に習慣等に左右されて、他方に依りて多少の差異あるべきは當然である。

之等の點に鑑みて、予等が各種の勞働者又は貧民の宿舍に就き、之を本邦の氣候に順應せしめて各其建築の狀況並に材料の配合が奈何なる程度に於て必要なるものなるか、又奈何にせば可なるものなるかに就き、之を綜合的に解決せんため、之等の研究事項に着手せるは近々數年の事にして、

日尚ほ甚だ淺く、此の廣漠なる問題に關し未だ以て何等明確なる斷案を下し能はざるは、遺憾ながら讀者諸君の御諒察を希ふ次第である。

現代都市の勞働者等は住に禍されつゝあり＝保健住宅問題は主として寢室の問題也＝勞働者住宅の最小要求量＝所要換氣量より推算せる家屋の大さ＝過住生活と過密家屋＝建坪と敷地の關係

唯だ予等が現狀に於ける各種の建築方法並に材料に於て研究せる一部の成績を實地の調査に應用して推斷するに、彼等多數の市民は、住居に伴ふ生活要件を辛うじて充たしつゝあるものゝ如く、之を詳言すれば、本邦都市内に於ける多數の勞働者又は貧民は、住に於て彼等の健康を損じ、彼等の能力を漸次減退せしむべく余議なくせられつゝあるものと認めざるを得ないのである。

今遽かに之等の事項に就き、此處に數字を以て詳細に書き現はさんことは困難なるも、現在都市民の最大多數が生活要件不足の爲めに蒙りつゝある第一の弊害は、彼等の住宅、切に云へば彼等の寢室其ものにあることは、予が今日信じて疑はざる處である。

茲に於て、予は、寢室より起算して、都市民の最大多數を占むる勞働者住宅の最小要求量を次の如く定めたのである。先づ、夫婦及び滿十二歳以下の子女三人を市民の平均一家族と見做し、次で之と成年男子を一標準單位とせる所要量に當つるときは、右一家族の所要量は三單位方、即ち成年男子三人分となる。而して、成年男子一人分に要する寢室の最小限は、普通の日本家屋にて二疊半洋舘なれば約四疊を要する。

今、該起算法の大要を述べんに、冬季、室の内外に於ける温差約十度にて、風無き場合に、和室の平均換氣量は、吾人の數年間に渉れる概算方法に據るときは三―四回、洋舘なるときは、多くとも二回と見做して可い。而して、疊一枚に相當する和室の容積は約四立方米であるから、疊一枚に相當する室の毎時換氣量は約十六―二十立方米、洋舘なるときは約八立方米に相當することとなる、次に、成年男子が安靜時に於ける毎時所要換氣量を冬季に於て三十三立方米とする。然るときは、

一單位に要する寢室の大きさは和室にて約二疊半洋館にては約四疊の割合となる。

今又斯の關係を應用して住宅の大きさを算出せんに、

一單位に要する寢室の最小限 二疊半 ┐平均して座敷の部九疊を要す
寢室以外の居室 二疊半 ┘

之を建坪とするときは、和室の通常は建坪一坪に就き疊座敷六坪の比であるから平均五坪となる。然るときは、一家族平均三單位として、建坪拾五坪、就中疊敷の部拾五疊は其最小限とする。

而して、吾人は、是れ以下の場合を過住生活と看做して可いと想ふ。

次に、住宅地域に於ける建坪と敷地との關係を案するに、建坪は少くとも敷地の⅔を超へてはならぬ。望むらくは½を以て限度とするを可とする然るときは、大凡建坪拾五坪に就き、平建家にては二拾五—三拾坪、二階建なるときは、拾五坪以上を要する譯である。それ以下の場合を稱して過密家屋と認め得べく、共に輓近の衛生學上、人類生活に最も忌むべき現象を認められてゐるのである。處が、大阪市の如き大都市の市民の幾割が斯る平均要求線以上、換言すれば、貧乏線以上の生活を爲しつゝあるであらうか。

本邦の發展しつつある都市の一人當地宅面積＝空地は呼吸要路＝家屋と結核罹病の關係＝結核病の爲に死す者年々三百萬人＝生活要素の生理的缺乏と罹病

顧れば、農村は青年の出稼により、居住者の一戸平均數漸次減退しつゝあるに拘はらず、都市に於ては一般に其數を超過し、就中、最近大都市に於ける住宅の缺乏は其度愈々甚しく、爲に市民は左なくとも狹隘なる家屋に益々多人數を集合せしめ、所謂過住生活（overcrowding）を成しつゝあるのである。加之輓近に於ける地價暴騰の結果は從來平面的發達をのみ事とせる本邦都市に向ては其負擔の過大なるが爲に、住宅の裏と裏とは恐ろしく密接せしめられ、一定面積に對する住屋の密設過大と成り、明かに過密家屋（overhousing）を現出しつゝあることは、新舊市街の現狀に徹し明かである。現に今發展しつゝある本邦都市には、人口一人に對する宅地面積拾坪内外の處多く、更

に狹少なるものも亦少なからず。斯くの如きは、歐米の都市に於けるが如き立體的の發達を來せるものに於ても稀れにして、晩近彼等に於ける都市住宅の經營法として唱導し實現せられ居る田園都市法及び之等と相類似せる經營方法の如きは、今尙ほ我邦に於て見る能はざるのみか、却て密度を高からしめつつあるのである。

實に、市內の空地例へば住宅の前庭及び後庭就中裏庭は、住宅の呼吸要路に相當し、其他市內の自由空地、公園、廣場、遊園、道路等は、大呼吸管に相當し、相俟つて吾人の肺臟に相當すべきものである。曾て、サルフォードに於けるタサム氏の所見を初めとして、歐米諸國に於ける諸家の統計に徵するも、常にバック、ツー、バック、ハウス（back to back houses and tubereuloses）と結核罹病との間に密接な關係あるは疑ふの余地なく、并は恰も吾人の肺尖が肺結核の原發所たると同一の關係に在るものと看做して可い。

讀者諸君、既に業に御承知の通り、此の肺結核とは、現代に於ける人類最大の敵にして、佛國の推算せる處に據り世界の現住人口を拾六億と做し又、人口動態統計の稍明かなる文明諸國の結核死亡率より推算するときは、世界に於て、本病の爲め死亡する者年々約三百萬人を算し、我邦に於ても、亦本病の爲に一箇年少くとも拾二萬內外の犧牲者を出しつゝあり。加之、本病の常として、社會の生產事業と最も密接の關係を有する生產第一期の者、換言すれば、青年男女を永年病臥に苦しめ、其上病芽を親族知已に傳染せしめ、財盡きて鬼籍に入らしむるを常とする。素より、結核は、結核菌の傳染によりて起るべき病ではあるけれども、其發病並に經過の奈何は、主として生活要素の生理的缺乏に左右せられ、就中、住宅の如何と最も密接なる關係を有するものにして、吾人は、今日之を家屋に關する特殊の傳染病と稱するに至つたのである。

（つづく）

× × × ×

路面電氣軌道に關する私見

大阪市技師
工學士 花井又太郎

路面電氣軌道の新設若くは改設の場合、街路車道幅員中何れの部分に設置すべきやの問題に關して之が利害長短を比較し併せて一私見を提出すること左の如し。

一、問題の範圍

問題の範圍を複線軌道の場合に限定し、隨つて複線軌道の設置を許さゝる二等大路第二類以下を省略す。

二、軌道位置の種類

街路車道幅員中軌道配置の位置を分ち大要次の三種とす。

(イ)車道中央に設置するもの假に中央式とす。

(ロ)車道の一側に併置するもの假に一側二線式とす。

(ハ)車道の兩側に各一線を配置するもの假に兩側一線式とす。

三、各式長短

(イ)**中央式** 這は現今英米に於て最も普通に採用せらるゝが如く、本邦亦本式に據るを普通とす、之が長所と認むべきものには、對稱的にして排水上の故障比較的尠きの利あり、且軌道は自然の分劃を形成して比較的交通整理を容易とすべく、又自動車により兩側軌道敷の利用を可能とし、商業地區其他に最も必須要件たるべき貨物積卸に便すべく、側溝邊石に沿ひ貨物運搬車輛の停止を許し且つ客自動車を横付昇降に便する等の利あり、而して短所

として擧ぐべきものには電車昇降の爲走行車輛間を縫ふて車道幅員二分の一を横過するの危險を犯し、且昇降に際し近接走行する自動車其他危險車輛に對し不斷の顧慮を拂ふの要あるべく、時に衝突等の不祥事を醸す虞あり又車道により車道幅員二分さるゝを以て各道狹く反向交通量を調節し得ざるの不利を伴ひ且自動車は兩側共に電車と走行相交錯して各其平速度を脅かさるべく時に衝突を惹起するの傾向ある等缺點の著しきものたるべし。

(ロ)**一側二線式**、本式は、獨逸墺太利に採用せらるゝが如く（朝鮮京城に本式ヶ所の例あり）之れが長所と認むべきものには街路の半側即軌道側の市民並に歩道歩行者は走行車輛を縫ふて車道横斷の危險を免かれ、歩道より直接或は單に軌道敷横斷により電車に昇降するを得て危險の全部若くは一部を除き得べく、又路面上危險且一大障害物たる電車を一隅に壓し幅員全部を合して車道を廣濶にし、斯くて反向交通量調節の利あるも、之が短所とし

ては街路の對稱を缺ぎ、路面排水中央式に比し狀態惡しく、路面維持不良なるに於て、路面中央より兩分せる雨水は軌條の阻止する所となり軌條に沿ふて流下し或は軌道基礎に滲潤して其破壞を招くべく、將來地下導渠送電式の採用問題となるの曉は排水上一層の困難を惹起すべく、又側溝排水不充分なるとき軌道は側溝に近く車道中低部に在るを以て豪雨時軌條頭を水中に浸して車輪水中に沒するの傾向あり、自然的交通分界を缺ぎ中央部に於て反向交通錯綜するの弊あり、其他自動車等により邊石側軌道敷の利用を不可能たらしめ電車の樹梢に觸るゝを避くる爲街路並樹の剪摘宜しきを得るか或は邊石より相當距離を保たしむるの要あり。而して自動車其他車輛の邊石に沿ひ停止し得ざるは本式の最も大なる短所とす。

(ハ)**兩側一線式**、本式は、廣路（ブールバード）に於て其の例を見るも一般に採用せるもの尠く、對稱的にて一側二線式の利害を兩側公平に分つの長所を有するも、要は主要利益を公平に頒ち主要

短所を重ぬるに過ぎず、且つ建設費を増加するの弊あり。

四、結　論

叙上長短を比較し一決定を下すに方り大阪市に決定せる廣路は幅員廿四間の定めにして將來に於ける大大阪に對して恰も歐米各大都市に於ける「ブールバード」と匹敵すべく、單に交通量のみの要求に充てらるべきものにあらず、市の誇りとし又一大美觀として特種斷面を與へらるべきものと推定せらるゝを以て別途の考慮を拂ふの要あるべく後日の研究に俟つべきものとして之を除外し、一等大路各類二等大路第一類に就て述るものとす。側線式は交通保安上相當長所を有するも該長所たるや片側に普ねく對側に及ばざるものあり、而して車道兩側邊石に沿ひ車輛の停止し得ざるは本式の最も大なる短所にして、市街道路中幅員決定の一要素たる邊石に沿ひ車輛の停止を許容し貨物積卸に便すべき主要條件を沒却するものとも稱するを得んか、故に軌道の配置は原則として從來と等しく中央式を採用し、是が必要を認めざる鐵道、河川、運河、公園等に沿へる街路若くは比較的低級住宅地街路に在りては交通保安上其優を採り特に側線式を採用して鐵道、河川其他の一側に歩道敷を殘して軌道を偏寄し、斯くて一側二線式を採用するとゝし、其他高級住宅地、工業地域殊に商業地域に在りては家屋に對し最も近く最も便利の位置に於て貨物積卸に便し且つ自動車昇降に便する爲中央式を採用を可とすべく、就中既設街路に於ては兩側公正を保つ必要上特に然るを惟ふもの也。中央式は叙上の如く電車昇降に際し走行車輛に不斷の顧慮を拂ふの要あるべく、保安上時に危險を伴ふ場合あり、之が防止策としては停留場に於て複線軌道の外側若くは兩側中間に邊石を設置し安全所（セーフテイアイランド）若くは安全島式昇降場の設備により完きを得べきも、幅員十六間以下の街路には前法による施設は車輛交通上の障碍甚しかるべく、前門虎を禦いで後門狼に襲はるゝの憂あり、之に反し後法には路上の突起街路の中央にあるを以て車輛交通上の阻碍比較的尠く電車停留時以外車輛は軌道

敷を利用し得るの利あり而して本法は平面的に軌道を蛇行せしむるの要あり停留場間の距離近接せる場合に於て多少外觀を殺ぐの嫌あるも交通保安上其の弊や忍ぶに餘りあるべく街路幅員十二間以上に於て電車の昇降を右側に變じ本式の採用を提唱するものなり。

街路幅員十一間以下にありては有軌道街路として車道幅員狹隘に失し電車停留時其の外側幅員は車輛二臺の交通不可能に陷るの虞あるが故に該昇降場の設置を控ゆるを以て寧ろ安全たるべし、蓋し此種幅員街路は幹線街路として交通上の必要幾分低位のものたるべく隨つて保安上の危險は幾分低位にあるべし。

倫敦の市内交通

倫敦は、街路系統其當を得ず、殊に大通りの幅員も七十呎以上級のもの少きに、搗て加へて、其交通の頻繁なること、世界に其比を見ざるのである。市内交通上の難問題は、遠くより理事者の苦心する處であつて、現に中樞區域たる倫敦市と稱する部分には、路面の軌道を禁じ、僅に短距離の二三ケ所を通過せしむるに過ぎない。唯僅に地下鐵道を以て中樞地各處の急速連絡の目的を達する外は、全部馬車、自動車を用ゆる組織としてゐる。倫敦市内に於ける交通頻繁なる程度は、之を精密に數字に示すこと困難なれども、ハイド、パーク表通りの一角に於て精測したる近年の通過人統計によれば、十二時間に四萬一千餘人の數字を示し、其六割五歩は凡て乘車（馬車又は自動車）なりといふ。

都市計畫と天物の保全

醫學博士　石原保

一

都市計畫といふやうな事が云ひ出されてから最う大分長い事に成つたが、その計畫の進み具合が如何なつてゐるのか、私は不幸にして未だそれらしい樣子をさへ見た事は無い。たゞ時折り耳にするのは、計畫の一部なりといふやうなもので、しかもそれが甚しい改惡ばかりだから驚ろいてゐる

最近の例は東京に於ける辨慶橋埋立の問題で私は餘り詳しくは知らないが、これはまあ諸方面からの反對で遂に沙汰止みになつたものゝ、近來の都市計畫の衝に膺つてゐられる人々でも、往々あゝした無謀な說を吐かれるのを聞く事がある。

辨慶橋埋立の如きは、餘りに馬鹿氣切つてお話には成らないが、私は門外漢として、世間話の小耳に狹む處を綜合して見ると、一般の計畫者は、どうも都市の繁華とか人口の案配とかには勿論充分に頭を惱ましてゐられるが、さて此集りたる人々の健康を如何にして保持して行くかといふことが、餘りに閑却せられてゐるやうである。若し多少でも斯の觀念があつたならば、先般の東京辨慶橋問題の如きはてんで起きない譯である。

二

都市計畫は、家を建てたり街を造つたりするのみが仕事でない、家を建て街を造るも、要するにわれ〳〵が安心して生きて行く方法の一端である然るにその計畫の中に於て、多くは甚だしく、生活者の健康保持問題に留意せず、たゞ家さへあり街さへあれば人間は生きて行かれるといふやうな考があるやうに見ゐるのは、實に嘆はしい次第ではないか。

私が醫者なるが故にこんな事を云ふのではない都市計畫に參與せらるゝ人々は先づ心を留めて都會に於ける小學兒童の顏色を見られ度い、そしてこれを海濱又は山川の間に生活してゐる子供達の顏色と比較して頂きたい、必ずや感ぜらるゝ處の多くがあるであらふと思ふ。

一方は日蔭の花の如く、一方は如何にも自然的に生々としてゐる。その原因は今更申す迄も無いが、都市の兒童には餘りに遊ぶべき處が無さすぎるのである。即ち私の都市計畫に參與若しくは關係を有たれる方に御注意したいのは此處な事である。

三

家を建て街を直して都市の繁榮を圖るのは勿論結構である、しかし其の爲めに人間が弱々しい日蔭の花のやうになるものとすれば大いに考へて見ねばならぬではないか。都會の兒童は年々斯うした傾向を顯著に見せて來て、而も明らかなる數字は肺結核性体質として統計の上に現れて來て居るこうした時にあつて東京市はその唯一の水の公園とも稱すべき辨慶橋を埋立てやうとしたりして騷いだ。云ふ迄もなくあゝした木あり水ある場所は、埋立てるどころか、無かつたならば新たに造るべき所なのである。實にこうした心理が、東京許りで無しに、多くの都市計畫者に共有せらるゝのではあるまいかと思ふと、眞に嘆はしい次第なのである。

都市の内部に木を植ゑ池を造り、適當の運動場を設けるといふ事は、極く僅かなる程度だけ許されるが、その存在の効果が見ゑる位の大規模なものは、殆んど家屋其他の建物が燐寸箱を並べたやうに進みつゝある都市の繁榮に對しては、容易に認められないことである。故に出來るだけの木を植ゑ、出來るだけの池を求め、出來るだけの廣場を造つて、附近の人達が落付いて朝夕の散歩位は出來るやうにして置く事は、事實に於て、完全なる都市計畫の實行と同じく、寧ろそれ以上に大切重要な事である。

四

で私は今後都市計畫者がその計畫を進めて行く上に於て、先づ第一の金科玉條として頂きたいのは、既に存在してゐる池（泥溜りなどは別だが）既に成生してゐる樹木は、例へその一つ、その一本なりとも伐り取り埋め立てるやうな事をして貰ひたくないといふ事である。實に現在以上に都市に於ける池が減り木が減るといふことは、都市の人間生活にとつて餘程重大な問題で、木一本は即ち一人の病人を出すといふ、決して彼樣に、何んでもかんでも街を廣め、家を建れば都市繁榮の事足れりとするが如き計畫は、國家百年の基を定むとは云ひ難いのである。

故に若し假りに計畫通りの街並を整へるに方つて、其處に大きな池に突當り、若しくは大きな樹木に突當る爲めに、止むを得ずそれを埋めまた伐らねばならぬやうな場合（どうしても之れ以外の方法がないときであつて、苟しくも多少の計畫の變更位で曲りなりにでも計畫の遂行の出來る場合は別である）には一つを伐つたらまた一を植ゑ、一つを埋めたならまた一つを堀るといふ方法を採つて貰ひたい。こうしなければ、さて何十年か後には立派な都會が出來たが、住んでゐる人間は皆んな病人だといふやうな事になつて仕舞ふ。

五

いろ〳〵都市計畫者の話を聽いて見ると、その多くの人は、何んでも空地があつたら家を建てやう、郊外に向つて都市を延ばそうといふやうな、約り主として土地を本位にし、地上を本位にして地上から地上へ延びて行く事許りを考へてゐるやうだが、私は、何故に今一歩を進めて地上から空中に移らないか、即ち空中を利用せぬか、といふやうな事を考へさせられる。

私は地上の多くに池を求め樹木を求めると共に都市上昇主義者である。限りある土地に、限り無く殖ゑる人間が安心して住もうといふのは、既に根本的に出來ない相談で、其處に烈しい爭鬪が生れたり、大くの矛盾と不合理が生じて來るのだ。

しかし家屋の上昇主義といつた處で、アメリカ邊の如く、四十階だ五十階だといふのが果して良

いか惡るいかといふ事は、それは自から國の人情風俗に從つて、別箇の問題であるが、要するに、地上のみを辿つて歩く事から、眼を上空に注いで欲しいのである。

六

私は今、東京などに於ては先づ六階位迄の建物生活が適當ではあるまいかと考へてゐる。見渡した處、まだ〳〵二階建よりは平屋建の方が多いやうで、これを何れも六階位にして行けば、少なくとも現在の建坪だけを地上に得れば、其六倍の人達が住める譯である。しかし總ての建物を六階にするといふ事は、各人各個に異つた生活を爲し、異つた生活階級にあるのだから、一帶といふ事は無理であるが、或る特種な階級を除いては、何れもこの空中に延びたる家屋に集合して生活を爲せば、頗る簡單にして且つ理想的都市が出來るでは無いか。

六階建と云つた處で、通常の貸事務所の樣でも困るが、あれに最う少し生活味を加へ、この生活に入つて差支ない、例へば獨身の人達だとか、社會的儀式的の地位のない人達だとかゝ集つて暮せば少し許りの空地を求めて堀立小屋のやうな家を建てゝ住むよりは百倍も增しである。こうした事も、これからの都市計畫者の一考を煩すべき事ではあるまいか。ソウすれば、東京に於ける辨慶橋埋立の如き愚問題は自から生じなくなつて來るのである。

私は先般の辨慶橋問題以來、人々が只地上にのみ戀々として、如何にして自由な空中へ向つて進まぬかと、それが不思議でならなかつた。この原則をさへ踏んで行けば、私の主張する樹木尊重、既成湖池の尊重も自から守つて行つて頂く事が出來るのである。實に繰言を申上げたが、幸に私の衛生上より見たる都市計畫に就て一顧を與へていたゞければ幸甚である。

（談・文責在記者）

× × ×

建築職工組合組織に就いて

會員 建築技師 小笠原鈔

歐洲戰亂の爲一般物價の騰貴に連れて一般勞働者の賃金增加し、從て建築界の各職工賃金を亦增加しました、之は當然の事で現下の生活狀態より申せば尙未だ十分ならざるものもあるでしよう。凡そ人として終日の勞役に對して十分なる生活の安寧を得、且又幾分向上發展に資する餘暇と慰安とを充し得る收入は是非必要でなければはなりません、故に今後と雖も矢張相當の賃金は之を得なければならないと思ひます。

乍併此賃金に對して一方に大に注意しなければならない事があります、之は其勞働の能率と云ふ事であります。

今回の戰亂時財界の好況なりし時は一般に工事が非常に多忙で各所に人不足を生じ、所謂叩き大工でも素人煉瓦積でも其技倆を選定する暇なくドシ〳〵各方面に使役せられました狀態で、勢ひ未熟の職工が比較的に高價を得て、其勞働能率割合に低き事が、自然知らず識らず良職工に迄惡感化を與へ、竟に一般に勞働能率の甚敷低下を現出しました事が各所に認められた次第で、之は實に建築界に取り遺憾の極とする處であります、今にして適切なる方法を講じ此惡影響を除かねばならないかと思ひます。

抑も此結果を生じたる原因は種々の事情があるでしやうけれども、其最も重なる事柄は、建築の勞働界に職工相互自然の制裁を加ふべき樣な健實なる組合制度のあらざりし事が一大原因ではないかと思ひます。

茲にたとへて見ますれば、特に大工抔は其技倆が俗に云ふ、ピンからキリまでの差等あるにも拘らず、單に大工なる名稱の許に等しく三圓五十錢なり、四圓なりの、賃金を與へ之を一律に取扱ひ

各自の技倆に對して表面上何等の表彰を與へて居ないで、只其仕事の請負即ち「ナゲ」制度に依り所謂腕利きは、一日に一人半或は二人分の勞役をなし其收入を增大し居るに止り、其人は何等世間に對して技倆を認められないですから、此收益に對してのみ自覺ある者の外は誰も一口に低率職工を標準として、己は今日五圓になつたとか、或は又アンナものが三圓五十錢、俺もソレト同等で詰らないとか、又はマア愚圖々々して一日暮せば、四圓にはなるとかと云ふ樣な工合で、自己の技倆の尊さを自覺せずして、單に其標準賃金に對して、其能率を引較べ、知らず識らず休業怠慢に陷り全体に勞働能率を抵下せしめる次第かと思ひます。右は單に大工を引例したるも、石工にもあれ煉瓦工にもあれ、殆んど、之と同樣なりし事想像にかたからずと信じます。

斯かる成行を其儘になし置く事は、やがて建築界の事業を滅する樣なものでないでしようか。之は建築界の先覺者殊に請負業者等の第一に研究せらるべき大問題ではないでしようか。

今や財界は恐慌を來し事業は一般に緊縮せられ建築工事も漸々減少する有樣になりました。此時に於て各建築勞働者は翻然として自覺しなければなりません。尙又斯道關係者も此能率に就て十分講究を要することかと思ひます。

凡そ建築技術は他の工業と異り其構造に於ては人命財產を安固ならしめ、其仕上に於ては、人に快感を與ふる事必要ですから、之に從事する勞働者も總て自分の業務を自覺して、誠實に働く事が最も必要であります。

如何なる事業に於ても同樣なれども、凡そ人として、如何なる報酬と雖も之を正當なる働きに對して求むべきで、又其關係に於て之を得てこそ、大に滿足すべきものでありますから、各自に十分に其能力を發揮して、之に對し、正當なる賃金を得なければなりません。換言すれば十分なる賃金を要求する前に其技倆の能率を十分に高めなければなりません。

私は此能率增進に就ては健實なる組合を設け、各自の技倆を認め其技倆に應じて賃金を高くし等

級を設け其向上發展を策する等の方法が必要だと思ひます。昨今勞働組合は各所に喧傳せられて居りますが、建築職工も之と同樣一日も早く、組合團体を造るべきだと思ひます。

建築界に於ても、從來煉瓦工や石工其他一二のものは、夫々組合を成立して居ります樣ですが、今度は一層立派にして健實なる組合を要する事と思ひます。

建築に從事する勞働者は大工、同手傳、鳶方、土工、石工、同手傳、同仲仕、煉瓦工、同手傳、瓦工、屋根葺工、錺工、鐵工、左官、同手傳、塗師、建具工等重なるもので、其内大工は最も大多數で、且又特に日本の建築界にありては、最も重要なる地位にあるものです。然るに此大工の組合が今日まで殆んど成立して居らざる樣に思ひます、之れは一大欠点ではないでしようか。

私は茲に建築の勞働組合を設けて、其能率を高めると云ふ方法は、前記の各職工が別々に其組合を作り其組合に同業者互選の役員を置き之に依て各職工の技倆を認定し、其賃金に等差を付け仮令ば大工ならば、

一等より五等位までとし、一等六圓以下五圓、四圓、三圓五拾錢、三圓等と其技倆に據る賃金を定め、常に其技倆を表彰し漸次下級の者も、上級へ向上發展の途を設け、之を一年一回なり半期一回なりに前記役員が詮衡する樣にし、尙又一方には請負業者なり、建築事務所なり、又は現場監督員なりより、工事の成績に就き二等の者は、一等に、四等の者は、三等に昇進すべき樣、技倆の証明を與へることにしたならば、非常なる奬勵になり、幾分向上發展に導き、從て能率增進に資し得る事と思ひます。

併し以上の如く賃金を一定しましても、之を全部必ずしも常傭職工として使役せねばならぬ事はなく、矢張從來の通り急ぎの仕事其他必要に際しては、歩增し又は請負制度を用ひて差支ない事と思ひます。

斯くの如き方法に據り、健實なる組合が成立したならば、請負業者なり又は個人の需要家なりは其組合へ向け大工或は石工又は煉瓦工等の一等職

工何人三等職工何人又は五等職工何人等を差向けて貰ひたいと要求すれば、組合は直に之に應ずる事にする、而して其組合は需用者より幾分の手數料を取り、尚又一方組合員は少額宛の組合費を醵出せば、之等費用にて十分なる組合の活動を爲し得て、時々勞働者向上發展の爲有益なる講演會を開くとか、又は失職者の世話をするとか、其他組合員の慰籍等各種の事業も爲し得る事かと思われます。

兎も角も茲に其具体的の方法は申上得ませんが何とか此財界緊縮の時機に於て、各勞働者の自覺を喚起し請負業者等が先達者となられて、一日も早く建築職工の勞働組合を組織せられ、他日市區改正其他建築界の多忙に際し正實なる勞働能率を擧げて、一般建築界に對し健全なる發達に資せられん事を、斯道の先覺者に切に御願致します。

勞働團體……

實際的經營よりすれば、勞働團體は自ら之を三大種別となすことを得。吾人は之を勞動組合、職工組合及び産業同盟と呼ぶべし。勞働組合は、賃銀取りの各階級統制の下に網羅するものにして、雇主及び月給取の加盟を許すことも稀有ならず。而して主たる憑據は之を勞働法の制定、政治的活動、共働組合、若しくは社會主義に置く。之に反して職工組合の單位は職業に在り。職工組合は殆ど全く同一職業に從事する賃金取りを以て組織す、而して常に政治的活動を排斥せざれども、賃金取りが團體的行動を取り、團體的取引に雇傭の條件を決定することを其主要の職掌として採るもの也。

感懐 二三

大阪土木建築業組合
常任評議員 山本辰五郎

○城東線拂下問題と大阪市

文化向上に伴ふ都市計畫は國家民生のため實に高遠なる理想と意義とを有すべきは、敢て論ずるまでもない。その根本義を究め來るときは、理由の如何に關らず、同計畫實行には、絶對に支障を來たさしむるを許さないのである。然るに突如として、衆議員の一角より、我大阪創造に直接至大の關係を有すべき大阪城東線拂下問題が曝露された。其内容の詳細未だ知る由ないが、巷間傳ふる如くんば、同線を市設電鐵に拂下げんとする豫約を締結せられたるとか、偶々同問題を一私設會社の上に論ずるなく大阪都市計畫實行の上より鐵相に質問したるに、鐵相は頭から權限論を振翳して曰く廢線拂下の權は鐵相にあり云々と言下に之を斥けんとし、且つ豫約のことに及ぶもの既に相當の調査に基けりとの意味を答へてゐる。

是を想ふに大阪市が凡ゆる苦心調査を重ね都市改良を計畫せる現在決定的内容及將來の方針は、内閣の熟知するところで、而も内閣は昨七月都市改良の如き國家的大事業は政府及自治團体の圓滿なる提携によつて甫めて圓滑なる目的を達成し得べしと、内務省に六大市長會議を開催し、彼我意見の交換をなしたではないか。都市計畫事業の國家的大事業たるは獨り内閣のみならず天下何人か之を首肯せざるものやあらむ、然るに、鐵相は克く都市計畫事業の性質及高遠なる意義を知るや識らずや、我大阪市區改正事業實行に直接關係を有すべき城東線を其廢線なるが故に鐵相の權限なりとの意味に籍口し之を一私設會社に拂下げんとするが如きを穩當と稱し得べきか、社會政策を看板とする内閣として策の得たものとすべき歟。

若し此拂下後に於て大阪市都市計畫實行に累を及ぼすとせば由々しき大事と謂はなくてはならぬ。

都市計畫の如き大事業は市民の愛市的觀念に俟つべきもの多しと稱し、市民の愛市觀念向上の宣傳に努める一方、關係技術家諸賢は滿腔の熱誠を傾注して調査研究に沒頭し、政府及自治團體亦此處に力を致さんとする時に於て、都市計畫實行に何等の支障なしと假想しても都市計畫本來の趣旨を重要視せざるが如き態度に出でんとするは大に戒むべきではないか。今回城東線拂下云々の如き都市計畫を重要視せざる不用意の結果とも稱し得べきであらう。本問題は姑く措くとしても若し都市計畫を無視するが如き何ものかの現はるゝに於ては、大阪市は大阪市將來の爲め斷乎として之を非斥すべきである。

○土木建築業「七日會」の組織

時代の推移變遷、思想向上、經濟的膨脹等は、社會世人の建築物に對する智識を向上せしめ、住宅問題の解決及都市計畫など從來比較的冷淡なりし一般世人は共に重要視すべき傾向を帶びて來たと共に我等の自覺發奮を要すべき時代となつたのである。今日の請負業者は昔日の斯業者とは其面目を一新し、社會的施設の任に當るべき責任を有するのであつて、固より之等は我等の先覺者諸賢即ち技術家の指導鞭韃によつて完全に其目的を達するのであるが、尠くとも請負業者は其指導鞭韃を理解し得る思想及手腕を具備せなくてはならぬのである。而して我等は時代文明に遲るゝなく、新時代の請負業者たる資格を備へなくては、今後の文化と相對立して事業の達成を期することは困難である故に、我等同志は積日弊風の覇絆より脫して統一的進歩を圖るべく、それには、我等相互に於て理解せる者のみ一致團結せんと、茲に『七日會』を創立するに至つたので、これが其の理由の一つである。

今後斯業界及我等請負業者を中心とする問題は陸續として擡頭し來るや明かである。最も、斯業界の問題は、技術家及知名の請負業者の會合せる團體並に組合等で適宜解決すべきであるが、我等

請負業者としては、他人が努力して問題を解決すべきに依り我等は何等爲すなく當だ其解決を待つべしとなすは不可である。よろしく、共に力を協せて解決すべき當然の共通的責務を有するに於て之を傍觀せんとするは不忠實なるのみならず、斯くては自然我等の智識向上も他に遲れるので、我同等業者も茲に奮起し相當機關の設立を設け、既設團体と共に協力して斯業界の發展に當らんとするものが第二の理由である。

更に、我等同業者は互讓的美風を基調として相互の親善は固より時代推移による所謂我等同志の結束を鞏固にし、凡ゆる問題に耐へ之を解決し、相互の達成を圖る上に文化的設施を企て弊風を矯正し、勞働者を指導し、工銀の協定、契約條項の改廢、其他營業上に就て研究し且つ實行すべきを第三の理由としたのである。此外に理由とすべき事は數あれど就中如上の趣旨に基いたのである。最も當七日會は生れたばかりであるから、直ちに其目的を達するの不可能なるは勿論なれど、漸次理想的團体たる實質を具備すべく努力せんとするのである。而かも我等は日本建築協會建築業協會及幾多の團體及組合等の指導を仰いで文化的斯業者として執るべき途に進むべき方針である。

○コンデル博士を懷ふ

悼ましくも長逝せられたコンデル博士の悲報に接し其生前を偲ぶこと茲にして悲しみは容易に禁じ得られない。私は、青年時代、故あつてコンデル博士に師事し、親しく其薫陶を仰いだ、恩師の德を慕ふて往時を回顧するときは實に感慨無量である。コンデル博士が我建築界に貢献せられた偉大なる力は天下周知のことで、我建築界の泰斗と稱せられる博士及其他技術家にして博士の訓育に預からない人は尠いやうである。

博士は建築術に於ては獨得の手腕を有していた而かも其人格者たる點は何人も畏敬して止まないのである。技術家の典型とも謂ふべき博士の長逝せられたことは我建築界のため實に惜しむべきことである。然れども、博士逝けりと雖、今日の我建築界に於ては、大なる技術家の幾多存するありて常に其範を廣示しつゝあれば博士逝くも亦瞑すべきであらう。

葉ぎか

（その一）

●手輕く出來る住宅

住居に就ても土地八百圓、月額百五十圓で此堂々たる家屋が日本より及家屋が日本より遙かに米國が安い邸宅が自分の所有我が一家を率ゐて歸朝する時は直ぐ幕した住宅は紐育から十八哩離れた此邸宅が賣れたが町の目抜の場所で其價は買値より更に千圓高かつた、じて大小十三、浴室も三箇所あり自動車を格納するガレーヂも附き庭園立派に組立の出來も相應に廣くて種々の常盤木に交つて、自動車の格納美事な薔薇も六十本植つて居り總材料を買つて來て十坪で日曜日に家族が手日本ならば少くも傳つて素人が銘々十萬圓は下らぬ處に釘附けで拵へが土地ぐるみで僅組立が出來るとんに三萬圓で買へたンキを塗つて忽ち而かも其三萬圓は見違へる樣な立派銀行が家屋土地をなりのになる私の抵當で直ぐ全額を邸宅のある町は中貸し年六分の利子央に小川を控へ夏だから、一ケ年千から約六哩の上流鎌倉へ出掛けても流水を堰き止め、辨當持參の習慣がインヂヤンの土人ないから料理屋でが使用したキヤヌー と、獨木舟を浮べ飯杓子の樣なもので、櫂ぎ廻り大人も子供も我を忘れて遊ぶこの小舟は一隻七八十弗だから日本の金で百四十圓位のもので此町に住む家で其舟を持たぬ者はな々の常盤木に交つて、自動車の格納美事な薔薇も六庫などは土曜日に滑場となるなど此事でも樂しい生活が想像される日曜日に家族が手自動車も同樣で千人の人口の此町に八百臺もあつた故に土曜日曜は三に三萬圓で買へたンキを塗つて忽ち而かも其三萬圓は見違へる樣な立派十哩乃至百哩遠方銀行が家屋土地をなりのになる私の抵當で直ぐ全額を邸宅のある町は中貸し年六分の利子央に小川を控へ夏だから、一ケ年千は下流十間幅の處

行二間の六坪で百五十弗日本に取寄せても運賃共五六百圓で濟むと云ふ塵

（山内重馬氏談）

●歐米其他の建築

用次第では書齋にもなりさうである

支那の遺物としての建築は塔の物は後漢時代からの物で主としてら各時代に亘つた石造若くは煉瓦造物がある銅器、玉りの建築物で本造器類の掘られたもは我國では千年以のは多く周漢時代物上のもあるが支の物で新らしい美那では八百年以前術も發見した併しの周時代の物を發夫等の建築物は何れも保存が惡い爲北魏齊時代の石窟凡て破壞されて行佛殿〉隋唐元時代くのは遺憾であるの物が殘つて居るか支那古代の建築石窟の內外には多物研究に就ては戰くの佛像があつて前殿米各國が競爭支那古代の美術の佛を遺して居る。石窟で河南省の洛龍門、由西省の雲岡の石佛寺有名な物である石造や煉瓦造代等の遺物

（その二へ續く）



〔研　究〕

米國建築界の同盟罷業に就て

(在米)會員
大林組技師　本田登

(A)

本文は在米會員本田登君より大林組に寄せられたる報告を抜萃したるものに依る。

一、罷業の原因
二、罷業中の彼等の生活
三、罷業と紐育市住宅經營の議案
四、罷業の解決

(一) 罷業の原因

米國建築界の職工及び勞働者一般に亘る賃金率は、前年の末期に雇主側及勞働者間に於て當時の生活狀態を根據として協議を重ね制定せらるゝ事になつて居る、而して其一ヶ年間は差したる物價騰貴とか、生活難とか又作業時間に支障を及ぼす樣な現象例へば天候の時變抔なく、比較的平靜な年は規定の賃金にて其一ヶ年は作業するとに定められてある樣だ。又建築材料抔同樣に定められてあるやうである。而して此の賃金率の制定とか改

正とかには必ず罷業は伴ふかと云ふと、決して左様な事はない。只兩者の協議は滿足に解決せられないと時々罷業と云ふ彈丸を勞働者が雇主側に送るのである。米國現今の物價は益々騰貴してをるので、今年の五月から一般に亙る建築界の職工は平均一日の賃金が一弗宛增額される樣子である、之は已に雇主側の方から昨今申出して居る。斯樣な具合では決して罷業の起らない事も想像することは出來る。

丁度建築界で建築工事に關係のある煉瓦工と石工と左官工より成立て居る地方勞働組合は、昨年即一千九百十九年の十二月突然賃金率增額を雇主迄要求した、丁度昨年迄彼等は一時間一弗即ち一日八時間作業、で八弗を受けて居つた、昨年の暮から本年三月迄の紐育市の天候は、三十年此方稀に見る惡天候で、其上降雪頻々として續き大に彼等の作業は障害せられたのである。元來米國で煉瓦工や石工の樣に多くの塲合外部で作業する職工の一ケ年の作業日數は二百十日と見積て居る、其他の日は雨天とか又は工事の關係で作業は絶對に出來ないものと調査されて居る。此二百十日と云ふ數字は紐育市「タイムス」社の記事に發表された數字であるが、本年は三月迄絶對に彼等の作業は閉塞されたと云ふても差支ないのである。兎に角天候の不良は彼等の作業時間に非常な打擊を與へ剩さへ現今米國の物價は際限なく騰貴し且甚だしく彼等に苦痛を與へたるは家賃の暴騰である。之は節約し得られざるもので彼等の收入の大部は家賃として消費せらるゝのであつた。比較的屋內作業に從事し得らるゝ大工、ペンキ工、電工、鉛工等の如きは天候不良中は屋內工事に從事するから比較的苦痛を感じないが、常に屋外工事に從事する者は他の職業に移らねばその生活に危險を及ぼす樣になつて來た。つまり生活難が彼等の罷業の原因として雇主に賃金率變更の申出をなしたのである。昨年の十二月に於て既に本年三月頃迄の不良天候を豫想したる彼等は、改正賃金率として一時間一弗五十仙即八時間作業にて一日十二弗を要求したのである。雇主側でも現今の請負工事は八弗の契約であるから容易ならぬ又損害を來すので

容易に其申出を受ける事は出來なかつた。是所に愈々一千九百二十年の煉瓦工と石工との賃金制定は破れたのである。而して本年はどうやら罷業の起りそうな事を豫想した請負者協會側では遂に一弗十二仙二分の一即ち一日九弗制度を組合側に提出したが、勿論組合側の賃金率と相違があるから其協定は無効に終つた。遂に本年一月早々組合は純然たる罷業を宣言したのである。而して紐育州五箇の地方組合は何れも請負者協會側の工事に對して全然罷業を斷行した。其後請負者協會側では建築業（請負者及材料販賣商等）者關係の評議員會（Guilding trade council）を通じて再度妥協を試みたが三月廿七日まで遂に此罷業は繼續せられたのである。多くの場合罷業の原因は生活不安定の爲めに起る事は何れの國も同樣であるが、從來日本に於ける罷業等は隨分徹底しない罷業も澤山にあつた。夫故私は單に物價騰貴と云ふ事丈では甚だ原因を說明するに徹底的でないから、今一步進んで考へて見た。此の原因を具体的に說明する爲め先第一に目下の紐育市（紐育市許りでないが便宜上紐育市と記す勿論米國一般の統計である）の物價表を左に示す事にする。

之は紐育市役所勞働課發表の統計表である。（Boreaw of Labor statisties）此表の見方は一千九百十二年の各物價卸賣の平均値段を「一〇〇」と見たもので例へば農產物は一千九百十三年には平均「一〇〇」であつたが、一千九百二十年の一月には「二四六」となつて居る。即ち二十四割六分の騰貴を示して居るものである。以下皆同樣の見方である。

一千九百二十年	一月	二月
農產物	246	237
食物類	253	244
衣類反物	350	356
燃料燈火	184	187
製品金物類	177	189
木材建築材料	266	300
化學藥品類	189	197
家賃、家屋、家具	324	324

一般雜品……227……226
一般雜商品……248……249

以上の表で見ると、比較的騰貴率の低きものにて以前の八割七分、一番騰貴率の最高なるものは三十五割六分と云ふ事になる。衣類は相當に節約も出來ようが、家賃の節約は出來ないから、家賃の打撃が一番恐しいものである事は明白である。一般建築材料も亦三十割騰貴して居る。

丁度煉瓦工が罷業當時請負業協會は其仲裁を建築業者議員會に依頼した事を前に記しましたが、此建築業評議員會には勿論煉瓦製造會社も加て居る。仲裁の責任者として煉瓦製造會社は其任に膺る煉瓦工組合に交渉を試みた、當時組合は次の如く云ふて苦笑したとの事である。即ち戰前の煉瓦の値段は本年には五倍に騰貴されて居るが私等の組合は昨年と同じ賃賃か又は僅に一割位の增額では均り合ひが保たれない、と云ふのであつた。

次ぎに參考まで戰前平均の建築材料中重なるものゝ値段と、本年二月迄の騰貴率とを知るために二月の値段を左に示す。之は煉瓦工、石工、左官

地方勞働者組合
(Brick Layers Masons and Plasterers' International Union of America) の發表に係るものゝ抜萃であります。

	一千九百十二年平均	一千九百十三年二月
セメント(Cement per Berrel)四立方呎に付	$ 1.95	$ 2.90
鐵材(Steel per ton)噸に付	$ 38.000	$110.00
煉瓦(Common Bricks per1000)千個に付	$ 6.50	$3000
川砂(Sand per yard)一立方碼に付	$ 150	$180
木材(Lumber per 1000ft)一千呎に付	$ 4080	$ 7700

之は重に衣類である

以上の表で見ると煉瓦の暴騰は實に甚だしく戰前一千箇に付六弗五十仙の平均單價を有せしものは本年二月に五倍弱の三十弗を示して居る。之は米國で普通煉瓦と稱して多く裏積に使用する煉瓦で日本の普通二等品と同樣の目的に使用さるゝものである。

次ぎに鐵材も三倍以上に騰貴して居る。煉瓦の

騰貴は大に煉瓦工に不滿を抱かしめたとの事です

前記の表は餘り正確のものではないが大略之を知る爲めに記しました。

物價騰貴の程度は之れで概略知ることが出來ませう。次ぎに現時の勞働者階級の人々は彼等の生活費と賃金收入との關係は如何なる數字を示して居るかを記述して見たいと思ふ、是所に愈々罷業の原因は明白に物價騰貴と生活難の苦痛の爲めに突發したる彼等の熱烈なる叫であつた事が愈々明白となる譯である。

次の表は職工一家族五人暮として即ち夫婦と男子二人女子一人計五人一ケ年間の職工生活費として最も切り詰められたる計算である。即ち之以下では到底生活を持續し得られないと斷定された譯である。之は勿論煉瓦工の場合に於ける統計表ではない。鐵道罷業に關係して船積仲仕組合から雇主たる會社の協會側に提出された表である。內容は非常に詳細に亘て全部此所に記述することは出來ないから其の項目の大仕譯丈を轉載することにする。私は此表は一般の勞働者の生活を表示するに最も適當で內容の比較的正確なものと思ふからである。

種類	金高
Flood(食物類)……	$ 62500
Clothing(一般)衣類費)之は次の如く分類す	
Man(主人)……	$ 9200
Woman(妻女)……	$ 8700
Boy 13 years(男兒)(十三才)……	$ 5700
Girl 10 years(女兒)(十才)……	$ 3750
Boy 7 years(男兒)(七才)……	$ 3950
Rent(家賃)……	$57600
Fue Land Light(燃料燈火)……	$ 18000
Saving and Insurance(貯金保)險	$ 15000
Health(保健法)……	$ 6000
Furnishings(室內裝飾費)……	$5000
Education(教育費)……	$ 2000
Carbare(電車瓦斯車賃)……	$ 5500
Organization (Church,Laboretc)	
(各會費類)……	$ 2400
Comforts(慰安費)……	$ 4300

……$ 1250

合計 $ 2.2200

右の表に依て現今米國の勞働者階級の生活狀態は大略伺ふ事は出來ると思はれる。即ち彼等が五人家族としての切り詰めたる入費は一ケ年間二千二百十弗と云ふ計算數字を現はす。之れは船舶勞働組合の組長が組合の勞働者六百人の生活狀態を詳細に調査して得たる結果であると說明されて居る。私は此所で此調査數字は必ず正確であると云ふ理由は勿論知る事は出來ないが非常な誤差はないものと見た。而して此組合の組長から以上の生活費は絶對必要である。夫故に今後船舶組合の勞働者の賃金を次の樣に變更して貰ひたいと雇主側に申出たのである。之が賃金增額表は直接本文に關係はないから表示する事は省略するが。要するに最低賃金が渡船や荷扱船の番人で一ケ月一百五十弗即ち一ケ年一千八百弗以上中位は「コック」や火夫の一ケ月一百七十五弗即ち一ケ年間二千一百弗最高は船積荷扱人や器械操縱職工の一ケ月二百弗即ち一ケ年間二千四百弗と云ふ賃金の增額要求を申出たのである。之は彼等の現今の生活と對照して作製せられた新らしき賃金表である。以上は本文と關係なく餘談に走つたが、之は現今の煉瓦工や石工などの賃金と比較して見る爲めに事更說明を附したのである。之に依りて現在の煉瓦工や石工の受くる賃金は、八時間作業で十弗であるから、一ケ年間の作業日數二百十日と見積て一ケ年間の收入は今回の改正賃金率にて計算する時は二千百五十弗となる。此生活費は船積仲仕人組合から發表された賃金表の中位のものに相當する事になる。假に之を昨年の賃金率にて見積る時は一千七百二十弗であるから實際此等の技術職工と云ふ見解から之を考ると割合に作業日數は他の技術職工に比較して妨げらるる關係も有り、又實際生活難のために苦痛を感じて居つたと云ふ事は概ね斷定さるゝ譯である。依て彼等の罷業の原因は正しく眞の物價騰貴の苦痛に對する彼等の叫びであつた事を確定した譯である。

（續く）



「住宅」

居構百選（其八）

葛野建築事務所主
會員 工學士 建學士 葛野壯一郎

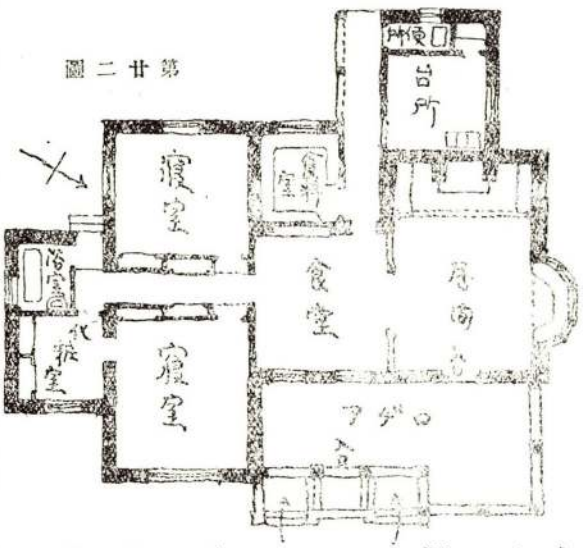
廿 夏の家（其二）

英領東部亞弗利加

時節柄夏季氣分の家を少し擧げて見たいと思ひます。第二十二圖は英領東部アフリカ、ミニタイガ近郊に於ける平屋建住宅の一例で、總建坪六十一坪、設計者はテーストスミス及びヘンダーソンの兩氏で有ります。間數の割合に建坪が多いのは部屋が割合に大きくとつて居るためで、熱帶地方の住宅に共通の廣いロヂア即ち開放されたる客室（廣椽）が特長として眼立つて觀られます。殆んど一年中家族の居住室ともなれば仕事をする場所ともなり、客間ともなれば居間ともなる、家中で一番多く使用せらるゝ部分は此處で有ります。兩方からする石階を昇ること數段中央踊場にある出入口を入ればロヂアで、巾十尺長さ三十尺、一方に凸出た部分とも疊にして約十九疊敷位に相當し周壁は柱のみの明放し構造で有ります。ロヂアの

右手出入口を入れば居間で食堂と相並んで居ります。居間の大さは疊にして約二十疊敷に相當し、右側壁には多角形の出窓あり、正面がイングルヌックとなつてそこに大形の暖爐あり、暖爐の兩側及び出窓には各シートが取付けに成つて居ります。居間に續く食堂は約十二疊敷に相當し、其居間との取合は仕切壁を設けずたゝ二本の柱のみで全く共通となつて居ります。食堂の一方には食器棚を置く場所とそれに隣る出入口を出れば臺所食料室便所等に通ずる廊下となり、他方の出入口を出れば寢室へ通ずる事になります。臺所の大さ凡そ八疊敷位、是に約四疊半位の食料品室と便所が附屬て居ります。寢室は大小二室で大は約十五疊敷位小は十二疊位何れも潤澤な戸棚の設けあり、大寢室からは直接約六疊敷位の化粧室及浴室に續いて居ります。

外壁は石造でセメント塗、屋根は板屋根、內部床及び雜作建具共油ぶき及び蠟ぶき仕上で、印度人の熟練な職工と土人とで造り上げたといふ事で有ります（スタヂオ年鑑千九百十六年版）



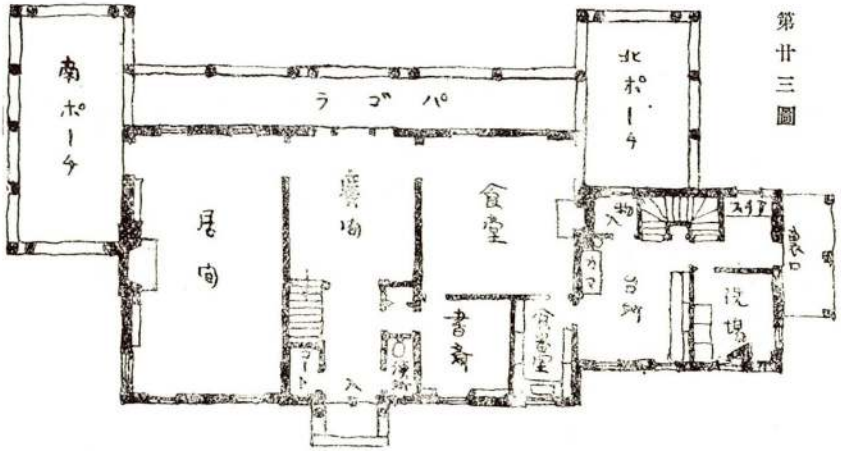
第廿二圖

廿一　夏の家（其二）
米國ニューヨーク

第二十三圖は米國ニューヨーク、スカースデールに於ける中流住宅の一例で設計者はフーバー及びファーレーの兩氏、廣い南北のポーチと是をつなぐバゴラが著しく夏の家らしい氣分を漂はして居ります。總建坪六十二坪外にポーチ及びバゴラが約三十坪、間取はシンメトリーに居間食堂を左右に置き簡單で廣々として

廊下を全部設けないところに特長が認められます。正面入口を入ると左が帽外套置右に便所が置かれて居り、是等は何れも大階段下を利用して居ります。廣間は其大さ約十四疊敷に相當し左右には各居間と食堂への出入口あり、正面の大きな扉を開けばバゴラに出る、居間は疊約三十疊敷に相當し、中央に大きな暖爐を設け暖爐の左右に書物棚其右手の扉を開けば南ポーチに出、三方に五ヶ所の窓を設けて風通しのいかにも宜さそうに見受けられます。食堂は大さ約十八疊、殆んど方形で一方に煖爐あり、其左手の扉を開けば北ポーチに出でバゴラに面して二ヶ所の窓と其反對の側に二ヶ所の出入口あり、一は食器室を通じて臺所へ他は書齋に通じます。書齋は大さ六疊敷餘窓の左右に書棚を置き一方玄關に通ずる出

第廿三圖



入口が有つて應接即ちバーロアの用をもなす事になつて居ります。臺所は約十疊敷に相當し一方の隅には大きなストーヴを置き其反對に戸棚と流しがあり、食器室を通じて食堂に連絡し、一方附屬の物置、裏階段、約五疊敷位の洗場、冷藏室、裏口に連續して居ります要するに廣いポーチだのバゴラが夏らしい氣分を沿へる上に、各室何れも廣く全体の配置は至極簡單で、採光通風共に申分のない、しかも全体シンメトリーの原則により中流住宅としての威嚴をも保つた宜いプランだと考へます。階上は大小寢室及び浴室便所等に當てる事勿論で有りますが、示されて居らないため爰に擧げる事の出來ないのは遺憾で有ります（アーキテクチュラルレコード一九一六年十月號）

（未完）

新聞記者の見た名士の邸宅 (六)

讀賣新聞記者　梅谷孫吾

黒田清輝子邸

一　おつとりとした旗本の住家

黒田清輝子爵と云へば嚴ごそかだが、實の處極内所の話だけれども、美術記者などは清輝坊主だの清輝人道だのと云つてゐるし、美術學校では、たこ入と云ひ洋畫家仲間では平河町の先生で通る實は子爵の御前と云ふよりは矢張り先生と呼びたいやうなにこ〳〵とした人で丸い顔で眼を細そくして笑つて許り居る。

麹町平河町に辨慶橋の方へ向た黒い門で兩方が何か粗末な物置のやうなものになつてゐて餘り立派でなかつたやうに記憶する、私の訪ねたのは、何んでも子爵議員になられた時の事、もう日暮れに間近い時だつたので邸内は薄ぼんやりとして居た。

砂利が一ぱいに敷いてあつて、眞中に松の植込があり、右手も一帶の植込でまだ春のはじめだつたから綠の色が一層に美しかつた。總て餘り廣からぬ好み、薇薔を畫いては世界に比類無しと云はれる洋畫家黒田先生としては、何處にか西洋臭そうなものと思つても少しもそんな趣のない先づおつとりとした旗本の住家といふ樣子の邸である。

二　ちやんちやんこを着た猿の木彫

正面に小さな玄關があつて、その右手の、内庭の生垣と綠の葉影と、家の軒端との隅の方に、大きな猿の木彫がある。人間位の大きさで赤い色の

ちやんちやんこを着た上手な彫で、その猿の顔がまた云ふに云はれぬ物優しいもので、生きてでもゐるかのようである。根が猿好きの私ではあるけれど思はず『お出でお出で』をして見たりして一所に行つた寫眞班の人と、何時迄も感心して見てゐた位であつた。實に美術家の庭にふさはしい顔をした可愛らしい猿である。

玄關の左手に家族の出入口があつて、その格子窓から玄關へ來る人が見えるやうになつてゐて、直ぐに書生さんが飛んで出て來るが、來る客がまた色々で、華族方は勿論、畫書きも來れば、彫刻家も來る、學生が來る、女學生が來る、ある書生さんの話だが、矢張り『先生は御在邸ですか』といつて來る客が一番多いそうである。

正面から見た處、低い平屋建で、門同樣大分古い建物である。玄關の中は、突當りがすぐ壁で其處に帽子掛が出來て居り、右と左へ曲つて奥へ行くやうになつてゐる。

三　小さな畫、大きな畫

四　南洋土人の毒矢

玄關に立つて、實は私は子爵の外出するのを迎撃したのであつた、……それは子爵が今外出するので急がしくて逢へぬ事は知つてゐたが、それと知りつゝ刺を通じて置いて、型通りに斷られて、そこで始めて豫定通り玄關の横に立つて出掛けるのを待つてゐて、靴をはく暇とか俥とか自働車とかへ乘る時に望みの物を得る方法で我々が常に用ゆる手段である……その立つてゐる間に見ると、玄關内の壁といふ壁、右手の硝子戸のついた廊下一帶處狹しと色々な洋畫が無量何十枚と掛けられてある、大きな畫、小さな畫、それに南洋の土人の毒矢やら、小さな舟迄掛かつてゐる。勿論門弟どものであらふけれど、風景だの花だの、何れも立派なもの許りだ、此處から岡田三郎助氏が生れたんだ、此處から誰が生れたんだと、寫眞班の人の話を聞かされるも今更のやうに有難く成つた。

子爵はたこ入のたこ入たる赤い大きな頭を光らして左手から出て來て、其處に出てゐた靴をはくと書生が頻りにその釦（釦靴）を掛けやうとする、

却々掛からないとでゐると、もどかしがつて、自分で釦をかけると、さつさとフロックの尻をからげて俥へ乘つた、私はもう釦を掛けてゐる間に知りたい事を知つたし、車へ乘らふとするときに寫眞も取つたし『どうも失禮しました』といふと『いや、どうも失禮、明日でもまたゆつくり遊びに來て呉れ給へ』と矢張り小さな眼を小さくして笑つてゐた。

═田尻子爵邸═

一　重ねて申して見ましても無駄

田尻さんは變り者だ、市役所の市長室にゐる時には、否が往でも押掛けて行つて法學博士北雷田尻稻次郎一流の議論も聞けるが、さて私宅へ歸つたとなると、氣が向かなければ矢でも鉄砲でも、決して他人と會はない人だ。これを知つてゐて、ある日曜日に突然小石川の私邸へ訪ねて行つた事がある、要件は大した事でも無かつたし、他の助役達でも要領を得る事の出來る問題だつたのだが丁度日曜でもあり、實は市長の豆粕振りも見たかつたのである、しかし結果は豫定の如く『面會謝絶』で終つたが、その時の家人の言葉に『御承知のやうな氣性ですから、重ねて申して見ましても無駄で御座います』とある、これで家庭に於ける北雷振も大抵想像がつけられる。

二　玄關に下げた『音響經濟』

多分小石川同心町の停留場から左へ入つて、だら〳〵と幾曲りかした坂を下りた右側に、頗る怪しげな門がある、扉は大分傾いて雨露幾星霜の跡淋しく……それ程でもないが兎に角、決して立派でも中位でもなく、それ以下の等級に屬する門があつて、確かに子爵田尻稻次郎と標札が出てゐる門内でまた驚ろいた、眞中に石が飛々に敷いてあつて、その左右は何かしら植ゑ込んだ畑になつて居る。左手に物置のやうな長い建物があつてその周圍もまた何かしら植込んである。住居の横手

も何か植込んである。殆んど、土と云ふ土、餘す處無く利用したのは流石日本唯一の經濟學者の遺りそうな事だと感心した。

正面の玄關に横に長い虚になつた木のもくが下つてゐる、何んだらふと思つてこれを見ると、その表面には『音響經濟』と書いてある、聲を出して呼んだり何かするより、これを打てといふので、側にはちやんと小さな木槌迄が添へてある。しかし餘りに面喰つた私は遂々これを打つ事をせずに『御免下さい』と云つて仕舞つた。

玄關はすぐに疊が敷いてあつて、右手の方は硝子も唐紙も無く、サラサの布が下げられてゐたやうに記憶してゐる、夏だつたから斯うなつゐたのであるかも知れない。邸は二階建で、餘り美しからぬ色に塗られてゐるが、この二階は主として主人の使用する處らしく、階下は總て純日本式造作であつたと思ふ。詰襟の服を着て長靴をはいて、山羊髭を延した市長の顔を思ひ出しながら、石を傳つて門を出て來る時、私は何故か妙にこう世の中か暢ん氣なものゝやうな心地がした。

蜂須賀候爵邸

一　昔の偲ばるゝ大名風の立派な門

麻布一の橋の停留場で電車を降りて左手へ餘り美しい通りでないだら〳〵上りを入つて行くと、即ち蜂須賀侯爵邸の土塀に突當る、堂々と打ち圍されて塀既に立派である、それに從つて右へ行くと正門へ出るが、その門がまた立派で、瓦の光がきら〳〵と日に輝やいて純日本式の大名構、大扉と云ひ、その用材と云ひ、申分のない御門である門の正面にまんぢ巴の紋所がついてゐたが、私はこの門を潜り乍ら左手を見ると、門の下がまた立派な家になつてゐて、華族會館などで見るやうに昔はあそこに武士がゐて『誰方で御座る』をやつたかと思ふと、その太々とした格子造りの樣子から敷き延べた板の樣子や何にやかや何れも昔が偲ばれて一種の物悲しい感がした。

二　玉川砂利が敷詰められて

邸内は一帯に玉川砂利が敷き詰められて、正門からの正面には奥庭への、これもまた古代風の燻んだ色の門が見わ、其邊一帯には青葉が一ぱいに茂つてゐる。それが廣々とした砂利の邸内を前にして如何にも幽邃な氣持のする奥深いもので流石は大々名の邸なるかなとうなづかせる。總て大がゝりに廣くして舞臺は舊時代其儘の上屋敷といふのである。

門を入つて左に玄關、これもまた美事に拭込んで、名刹の殿堂へでも入るやうな思ひがする。この玄關の左手に用人部屋といふやうなのがあつて多くの人は此處から出入し、此處で應接されてゐるらしく、私もまた此處へ行つて案内を乞ふた私共のやうに常に自分の仕事を自重する意味に於て常に正玄關から正玄關からと訪問する者でさへも一寸當邸の玄關は所謂入り難くい程度に堂々たるものであるのだ。

案内を乞ふと侯爵も令息も不在で家扶といふやうな人が『暫くお持ち下さいましては』と親切に云つて呉れるが、それ程の用事でも無かつたので辭去した。この用人部屋がまた如何にも古代風で内には現在椅子や卓を置いたりしてゐるが、格子の格構から立つてゐる襖の色合や總て黒色を好んだ調度類など、洋服を着て白い靴をはいて無遠慮に訪ねて來る新聞記者などゝいふ者のあるのが何かしら非常な矛盾でもあるやうな心地がされてならなかつた。

═山口諸陵頭邸═

一　感じの良い主人と感じの良い二階

時局問題などには觸れることの大嫌ひな宮内省諸陵頭で理學博士中の古參山口鋭之助氏をとらへて『辨慶橋埋立反對の意見』を吐かせやうと、昨夜突然に麹町飯田町の私邸に訪問した。もう日は眞暗に暮れてゐて、雨のしよぼ〳〵と降る中を私

の侭は無遠慮に門内に引込んだ、私は吃驚して、再び門の外迄引返させて置いて、改めて私一人で入つて行つて刺を通ずると、案外にも直ぐに取次の若い女中さんは二階の廣い室へ通して呉れた。やがて青白い瓦斯がぱつと點く。

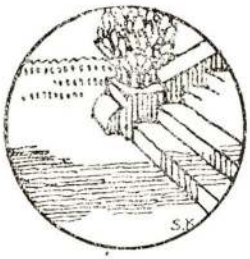
見ると十疊の間で、東と南一帶が廻り椽、庭の植込の木の葉が丁度二階の雨戸とすれ〳〵に梢を見せて、涼しい風が吹いて來て良い氣持だ。床の間には唐書らしい幅が一つ、續いての隣りの室は詰り梯子に近い方で薄暗で解らなかつたけれど、何んでも大きな寫眞が違ひ棚の上に飾つてあつたやうに思ふ。

二　諸陵頭六尺豊かの巨人

私が下座へ座らふとしても如何しても承知しない、遂々上座へ据えつけて座つた山口博士は、實に六尺豊かの巨人で、それでゐて物優しい顏をして本當に打解けたやうに笑ひ乍ら私の問ひに應じて色々と話される。話に花が咲いて何時散るとも思はれない間に、女中さんがお茶を運ぶお菓子を運ぶ、音も無く降る雨空から涼しい風が吹く、私の辭したのはもう夜も大分更けてからであつた。

主人に玄關に見送られて出ると、車夫は丁度黑く塗つた門の下の椽臺に腰掛けて煙草盆を出されて眞暗い處ですぱり〳〵と煙草を吸つてゐた。夜の事で何事も確には解らなかつたが、玄關も二階への廊下も餘り廣くはなかつたが主人の感じ許りで無しに萬事に輕やかな良い感じのする邸であつた。（廿一日病中執筆）





日本庭園考（五）

會員　農學士　大屋靈城

〔庭園〕

三　日本庭園の變遷（續き）

安土桃山時代　斯の如く室町時代には所々に幾多の庭園興り其の内容整ひ技術に於ても前代未拓の新機軸を出す事多かりしが、其中業以後に到りては禍亂相踵ぎて起り、これを制するに由なく竟に庭園を顧るの遑なくして世は織田豊臣兩氏の手に歸するに至りぬ。

秀吉織田氏に代りて政を執るや、大いに土木を興し、一方茶道を全國に奬勵して、以て荒びたる人心を矯げんとしたるにより、從來王侯貴人の間にのみ行はれたりし造庭の事も、今や漸く一般的となり、茶道の隆盛に赴くに從ひ、茲に造庭の法にも、一つの新らしき方面拓かれ、茶室に相應しき一種の小庭を創むるに至れり。之れを茶庭又は數寄屋庭と云ふ。

蓋し茶室の起りは、既に足利義政の時に初まり

此の頃に及びては大いにその流行を見るに至りたるものにして、彼の義政が東山に閑居するや、四疊半の小坐敷を建て、茶の湯を興して數寄屋と稱せり。數寄とは「數をよする」と訓じ、道具を數多よせ集むる意なり。又寄は奇に通じ、奇妙なり依て奇妙を多く集むを謂ふ。其他多少附會の說ならんも「茶の湯は十分を嫌ふ故に、此は半の數を用ゐて事たらぬを本意とする」の意味より出たりと云ふ。

斯くの如く茶庭は當代の產物として、庭園史上特筆すべきものにして、從來の形式に流れんとする庭風を更めて、自然を本位とし、特に技工を弄せず、法規に依らず、樹木を配し、其の間に石を置きて、山家田舍の寂漠を寫すに努めたり。

茶庭の構造に就ては、茲にこれを詳述せずと雖其の要旨は青苔日厚自無塵（宗易）於保呂都幾與耶彌須許之阿留、巨能未可難、（遠州）許々呂登女天美禮婆巨楚安麗阿伎能耶麻知可夜仁萬之類波奈廼以漏以漏（宗且）等の言葉にて盡せり。

尙茶庭の盛なると共に、一般書院の庭も、益々勃興し、其の構造の如きに至りては、遙に室町のそれを凌ぐもの少しとせず。殊に小堀遠州は斯道の達人にして、彼の手に成れる桂離宮を始め、京都諸離宮の庭園に於て然りとす。

當代に於て造庭の術に秀でたる者は千利休、小堀遠州の外に、古田織部、細川三齊、金森宗和、織田有樂、千宗且等にして多くは茶人なり。

江戸時代　既に述べたるが如く、茶湯の流行と共に、造庭の事は上流の家庭にのみ止らず、武家と云はず、百姓、町人と云はず、上は王侯より、下は庶民に到る迄、空地を利用して庭園とするの風、一般に興り、猫額大の地と雖も、これを用ゐんとする有樣を生ぜり。

世既に斯くの如くなりしを以て、德川氏の江戸に幕府を移すや、三百有余の諸侯は爭ふて甲第を構へ別莊を營み、其の邸內に、林泉を設け、築山を築ぎ、各華麗を誇れり。從て名園は諸所に續出して、雨後の筍の如く、造庭の術も漸く書人、僧侶の手を離れて、桑駝師に歸するの止むなきに至れり。斯くの如く、庭園の設は日に增加する有樣

なりしが、其の技術を司る築駝師(植木屋)なるものゝ中には、學識秀でたるものとては無く、單に先人の物せし庭園を模倣し、或は如何かはしき形式に據り、築かれしもの多きを以て、眞に名園とも稱すべきもの少し。唯特筆すべきは、德川時代にありて、造庭の事は既に一種の娯樂てふ域を脫して、生計を營み得べき家業の一つと成り、植木屋は此れを兼業して、庭師と稱するに至り、爲に諸所の造庭事業は入札を以て、最低價格にて請負ふ者に委ぬる如き事も起れり。

隨て宏大なる庭園の造築に際しては、一人にて其の事業を獨占する事少く、部分的に分割して、數人に分擔せしめし事多かりしかば、庭師は各利慾を棄てゝ、名譽を希ふ一心より、互に競爭心に驅られ、寢食を忘れて事に當りし事多く、爲に其の部分的技術に於ては、前代に見られざる精巧を觀るに至れり。これ德川時代に於ける庭園の特徵とも成りて、今尙窺うを得べき事なるが、全園の設計に、統一なきもの多く、爲に日本庭園の精神に副ふ如き名園を出し得ざりしは惜むべし。

今江戸時代名園の二三を擧げんに、仙洞御所、修學院離宮、芝離宮、吹上苑、濱苑、戸山園、後樂園、蓬萊園、浴恩園、六義園、清水園、縮景園等枚擧に遑あらず。

明治大正時代　彼の王政維新は實に庭園の破壞期と看做すべき。一過渡期の時代にして、德川三百年間に築かれし諸侯の邸園も、別莊も、大部は跡を絕ちて消え失せ、西洋文明の輸入と共に、舊を捨てゝ新に就くの風盛となり、一朝にして建築の樣式に洋風を倣ふに至り、庭園も茲に一大變化を來すの止むなきに至れり。今日尙德川時代より依然として殘れる名園は僅に小石川後樂園、淺草蓬萊園のみ。

明治大正時代に於ける庭園の特徵とも見るべきは、芝庭の流行是なり、彼の西洋に遊ぶものは、一度彼地の宏漠たるローン(芝生)を見て、誰か羨望せざらん。かくてこれを本國に移さん事を希ふ芝庭は西洋にても、比較的晩近に於て流行したるものにして、彼の風致園の勃興は、庭園を一帶のローン化するに至らしめし初めなるべし。昔は西

洋にありては、形式圖と稱する幾何學的の庭園全盛を極めたるが、十八世記に至り、日本風に近き風致園なるもの起り、形式園を風靡して、今日其の全盛を極むるに至れり。風致園は日本式庭園に最も近似の點を有し、自然的なるを以て割合に日本人に解せられ易く、又これを日本式建物に應用するも、さしたる不都合を認ず。從て不知不識の間に其の風浸みて、今日の如き和洋折衷園を産み出すに至れり。彼の山水に芝を植ゑ、所々に花壇を配し、温室を設くるが如き或は一面の廣場を芝生として芝庭を作るが如き設備は全く明治と共に始まりたるものにして、確に洋風庭園術の影響なりと謂ふべし。而して最近に至りては、人工の增加と、地價の騰貴、其他社會の複雜なる事情とは宏大なる庭園を市内に設くるを許さざるに到りしを以て、私邸の庭園は大いに衰へたり。茲に於てか一般市民の遊場として、公園なるものゝ必要切なるを感じ、我政府は明治六年一月遂に布告を發して、公共の庭園築造の事を認むるに至れり。

茲に於てか、全國到る處に、公園の新設續出して、遂に今日數百の公園を見るに至りき。然るに其の内容に至りては、其の設計よろしきを得ず。又諸般の設備も整へるところ尠きを以て、未だ觀るべきもの多からず。將に來るべき大正の盛代は室町が我國私園の築造史の黄金時代を造りしが如く、公園築造史に於ける黄金時代を劃するものならんか。

明治の盛代も、先帝の崩御と共に其幕を垂れ茲に大正の新しき御代を迎へて九年、歐洲戰亂の影響は一般經濟界に未曾有の變動を惹起し、所謂時局成功者なる者輩出して、一時に國内の景氣を當むるに至りしと、交通の便備はりて、邊鄙なる田舍町にも尚自動車の音を耳にするに至りし、此の二つの原因は、一度衰頽したる私園、特に別莊園の再生を促し、到る處の郊外に於て、別莊の設けらる事夥しく、從て久しく頽れて顧みざりし造園界も、一時に多忙の春とはなりぬ。此れと共に、市内公園も次第に追はれて、郊外數里の外に出で將來自然の山林原野を利用したる郊外遊園地の設けを必要とするの時は來りぬ。（つゞく）

葉ぎか

（その二）

●歐米其の他建築（その一より續く）

印度では佛代鹿野苑大舍城祇園精舍式が支那を通じて飛鳥時代の藝術として我國に現はれたといふ說は相違するが印度式である回々教等に就いて佛教藝術を研究した結果佛教藝術の形式は舊印度式とガンダラ式の二ツの大きな流れがあるが舊印度式は印度固有の藝術が發達したもので幾らか希臘及波斯式が混合して居るがガンダラ式は純粹の印度式であること古來の凡ゆる式を發見した其結果全體し今日の科學を以て從來我國の學者のに適するセセッシ

說であるガンダラ式に支那を通じて式であるのは如何にも新らしくて大ネパール、アフラデリー等で釋迦に關する遺跡を探れ尙印度教ジャナ教で舊印度式である回々教等に就いて事を發見した最後に歐米各國現佛教藝術を研究し在の建築物を見る形式は舊印度式とに大體に於いて英ガンダラ式の二ツ佛伊西班牙亞米利の大きな流れがあ加は十五六世紀時るが舊印度式は印代に再興した希臘度固有の藝術が發羅馬のルネッサン達したもので幾ら面にては到底西洋式で其間努力を發に及ばぬ點が多いか希臘及波斯式が趣味の點即ち美見することが出來術的には決して他なかつたが獨り獨ンダラ式は純粹の逸のみは二十年來印度式であること古來の凡ゆる式を發見した其結果全體し今日の科學を以て從來我國の學者のに適するセセッション式に改めた努力の跡歷然として全部セセッション式であるのは如何にも新らしくて大體で變氣を帶びた前獨帝カイゼルの氣象に似て居る。米國は構造設備は進歩して居るが美的でなく趣味に缺けて居て美的方面からは何等の價値がなく我國の建築は物質的科學的方面にては到底西洋に及ばぬ點が多い趣味の點即ち美術的には決して他國に劣つて居らない云々

（關野工學博士談）

●日本の道路改良

一國の運輸狀態は其の文明の尺度である一國の勞働賃金率は常に其の運輸狀態の改善に比例して向上する。口稠密なるにも拘らず運輸狀態の貧弱なる國の貨金率は常に低廉である。水運は普通他の一切の運輸の形式に先立ちて、都市の建設に與る、上代に於ける世界の大都市は皆水路の要衝に於て發達した次では汽車、次では道路である、今は其の極端に陸にある。或る聖賢は曰く『人は最も重要の地位

を占め、水路と汽車と道路と、此の三つは現代運輸の三位一體である。近き將來に於ては恐らく空中運輸も亦之れに參加するであらう、口を食物に持つて行くか食物を口に持つて行くかが問題である、麵麭と、上水とを、海より生ずる食料は如何なる國も民に取りても極めて少部分に過ぎなし能はず水なき處に於ても然り而して下水なくんば市民は直ちに疾病の爲めに運び去らる。

吾人は曰はんとす』

吾人は何ものかである前に、先づ食はなければならぬ』と、土地が耕され食料が生産されたならば、それを消費する場所まで運搬されなければならないが消費の場所は常に都市であり、麵麭なき處に人は一刻も止まる下水なくんば市民ものである』と、吾



「都市」

將來の『市加古市』(3)

ウオルター・ディ・ムウディイ著
Z Y 生譯

第二章　新職業都市計劃（つゞき）

而して第一派は、第二派即ち振興的方面を理解しなければならぬ。然らざれば之の結果、藝術家の『夢想』が遂に夢魔に終つてしまわう。

完成の爲の人望といふか、然り公の事業には屢々之の目標が結果よりも寧ろ人望に向けらるゝ。併し結果なくば、正しき人望は起らぬ。結果を有せば之の歷史は立派になるのである。或方面の都市計劃を企てつゝある米國の諸都市と共に——其等の大抵は暗中を模索せるが如き狀態なるも——期待することが出來る。即ち來るべき十年間に於て、此新職業たる都市計劃が、專門家の間に認識せらるゝに至るであらうことを。此職業は、建築家、機械技師、法律家、其等の組織者等の分子より合成さるゝものである。市加古都市計劃委員會

によりて企てられたる、八年間の成功ある商議は都市計劃に對し新なる提議と解釋とを與へ得る十分の理由がある。

都市計畫の全原野を觀望する時に、建築家の眼に映する物は唯製圖臺、材料、擴れる白紙のみであらう。併し若しも彼等が批評的な冷淡な懷疑的な公衆を首肯せしむべき、振興的方面に努力し、實際問題を解決せんと欲するならば又部分的の偏見や個人的の利己主義が己等の紙上の計劃を絞らんとして現るゝを見ば、又所有階級の反對を見ば、嫉妬や轢軋のために遲滯し阻害さるゝを見ば、屢々財政上の困難に遭遇するを知らば——多分彼等は、充血せる中央と



延長せる市外部の發展せる部分との間を連結する處の適當な通路を要求してゐた或米國の都市の爲に作製せる如き、都市計畫を避くるであらう。極めて僅かに直線を爲し居る現在の連結路を擴ぐることをせず、反つて、甚しく高價なる失費を敢てし、現在の街路と殆ど一樣の街路とする全然新なる脈路を紙上に計劃した紙上の計劃としては之れは理想的であり、審美的高雅の人格化——美はしい建築上の諧音である。然し斯る物は排斥せられてゐる。何故なれば實際的でないからである。之の市の舊市街は、例へて見れば好き顏に在る如き鼻の如きものである。之れは恐らく羅馬

型の鼻であるが、建築家は希臘型の鼻に更へることによつて、更に古典的にせんと考へた――一言にして言へばこの事が都市委員會の都市計劃の他の側――振興者の遭遇する實際的の問題――を說明してゐるのである。現在の都市計劃は更に十分に常識を要求してゐる。餘り多くの理論は實際的計劃を妨げ、形式的な便宜的計劃を進歩せしめるそこに一方にては、純アカデミックな、地方にては理論的思辯的な計劃から逃れ得る道がある。現代の都市計劃者は最早建築家だけではいけない。合成的種類――建築家、機械技師、振興者、雜誌新聞記者、敎育家、講演家、法律家、中就外交家でなくてはならぬ。

倫敦は、秩序ある發展をなせる世界の中心として、巴里に勝つてゐるが、しかも千六百六十六年に於ける市會はレン計劃（wren plan）を大部分通過させた。ダニエル・ハドソン・バールハムが、紐育の中央運輸の充血を救濟する計劃に顧問として招聘された時、確に彼の助言を實現する力ありと思はるゝ計劃委員會もあつた。然るに財力の點に於て失敗をした。紐育は富める都市であるこゝに、一人の富豪あり、彼の生命危險に瀕し居るも、手術によつて治癒し得ることを理解せしめたる時、富豪は醫者に支拂ふべき額の多大なる故をもつて、之れを否むべきであらうか、さういふことはない。紐育の事業の企が失敗に歸したのは、適當なる敎育的宣傳と、他の本質的方面に於ける組織ある努力の缺亡し居りしに歸さねばならぬ。

市加古の都市計劃の成功は二つの事實に原因してゐる。第一は之の創設者たるダニエル、ハドソン、ダルハムが大建築家たるよりも以上の人であつたことにある。彼は眞實の計劃者で又大なる事務的組織者であつた。彼は米國に於て得らるべき最良の專門的の補助者を己の周圍に控へて居たのみならず、事務家の委員會の助言を始終求めてゐた、この事務家の中には市加古市に於ける一流の工場長も含むでゐた。第二には都市計劃がバルハムを商業俱樂部の手より市加古市に移るや、迅速に計劃委員會を設け、之の職員で都市計劃の實際問題を競ふ樣な風に組織し、振興部を設置するた

めの資金を用意しておいた。市長によつて任命された之の委員會の永久の議長はチャールス、エイチ、ウエイカーである。彼は市加古市に於ける此方面の指導者の一人である。不盡の精力家で市加古都市計劃の實現を成功せしむるに必要なる資格を著しく備へたる人物である。

此都市計劃が發展する初期に於て、協議會には鐵道長官、世界最大の商業家中の十名、六名の銀行家、保險官、六名の資本家、不動產商人、鐵工業家、新聞社主、農具製造家、石炭商、橋梁建築家材木商、印刷家、出版業、船舶業等の各專門家が出席した、實際これが獨創的な都市計劃家の人名（市加古市の）である。彼等は振興的方面を代表し又委員の働はしないが、廣く財力を供給する市第一流の商業家を後援にしてゐた。バルンハム氏及び商業俱樂部員によつて創始された專門的の都市計劃事務協議會は、彼れの死ぬる迄保持されてゐたが、更に市加古都市計劃委員會によつて實行に移された。市加古都市計劃を創始するにバルンハム氏と共同してゐた建築家たるエドワード、エイチ、ベンネットも之の相談役となつてゐる。

合衆國に於ける都市計劃の未來、新業務の下に於ける此事業の財務に對する計劃委員會の職掌は別章に於て取扱ふ可き重要問題である。

第三章　都市計劃とは何てある？

都市計劃の眞義は今日米國にて了解されてゐない。俗な傳說に基ける誤れる考が一掃さるゝ迄眞解されぬだらう。絡まれてゐる蛛網狀の理論から解き放してしまうまで、理解することは難かしい俗說が忘れられて、我等自らの經驗から、新な眞實の出發がなさるゝ迄理解さるる筈がない。これを主張して誤れる思想に挑戰す可きであるが、之れは余の任務でない。余の任務は都市計畫に關する眞理を述ぶるにある。近世都市計畫社會は異口同音に言ふ、『譫語、屑、人氣取演說よ。ペリクレス、カエザル、ルレン、ホイスマンその他無數の人々は何をせしか。彼等の姓名は都市計畫的令名の大室に高く記されてあるでないか。我等は彼等

の事業を我儕の案内者とする。アゼンス。ローマ。パリー。ダッセルドルフ。その他の都市は、之れ正しく設計せられたる都市の好き例である。我等は近世都市計畫者たる建築家、機械技師によつて刻目を附せられた都市計畫の定義をもつてゐる。本問題に關する豐富なる基礎と專門的の理論とを所有してゐる』と。

右の言の如くである。我等は其等の凡てを有し又有しつゝある。併し又何物をも有つてゐない。何故なれば米國は自ら何等の經驗を有てゐない。一オンスの經驗と、十噸の理論若しくは他人の經驗と比適する。當時の人民の境遇と要求とが、米國の今日と異つてゐる。殆ど忘れられたる時代の國々から得たる經驗は、殆ど米國に適用し得る點はない。我等は自らの經驗を造らねばならぬ。之の時に我等は都市計とは實際如何なるものなるかを確信をもつて他人に語り得るのである。

紀元前五百年ペリクレスは、アゼンス市を、建築上世界が嘗て知り居る都市中最も美はしき都市とした。建築上の美觀に於ては近世都市は只尠しく必要としてゐるのである。アゼンスのそれが我儕に價値ある點は、それが我儕の前に不斷に美の理想を掲げ居る點にある。美はペリクレスにとつて本質的であつて、實際的このことは第二義であつた。彼は藝術的時代に生活し勢力を張つてゐた凡ては藝術の美と效果の下に隷屬してゐた。事に關して人民に發言の力なく彼等の眞の要求は考へられてゐなかつた。一切は外觀を飾り內部の助には役立たなかつた。ペリクレスはいろ〳〵の理想を有する人——彼の生きし時代に適せし理想——而して之れ等を滿足させる力を有せし人であつた世界に對する彼の價値は暗中に沒却し去らない。

併しアゼンスの計畫は米國の市街を擴大することは出來ぬ。之の盛なる建築も重荷に惱む民衆に公園や遊戲場を供給することは出來ぬ。ペリクレスの力も米國人民の意志に代らしむることは出來ぬ。其時代の凡ての可驚觀も今日の運輸問題を解決する力はない。アセン帝國の布告も都市問題に關する米國の復雜繁雜な處置を輕くすることは出來ぬ。廿世紀の市加古市にペリクレスは何をなさ

んとするのであるかホイスアンは帝國の布告によつて、巴里を造つた。巴里は實際的價値ある實質上の多くの例と模範を米國諸都市に與へてくれた光彩ある街路組織、遊歩街の美、建築物の標準高度、建物の群、紀念碑、彫像の位置等の世界的模範を提供した。此等は凡て專門的都市計畫の精神に對し多くの糧を與ふるものである。價値あり結構なものではあるが、併し此等は米國に於ては如何に計畫す可きであるかに就ては語らぬ、又米國の要求にも適する處がない。

理想的の巴里の遊歩街と商業大道路との結合も十二市街を擴張する市加古に適用することは出來ぬ。十二市街を百五十呎擴げ、樹木を二列にして公園に作り全体を遊歩街とする計畫を立てた。實際的の調査はかゝる處置の不當なるを證明した。十二市街は復雜な鐵路や工場地に通じて走る商業街である。遊歩街と商業通路との結合は外見な米國にては非實際的である。十二市街の場合に於て人々は反對をした。市街の一部を遊歩街とするは商業を殺すものであることを指摘して反對した。

購買力の減殺さるゝを恐れて、街路の擴張を欲しなかつた。彼等は著名なる商業脈路として現在の儘の狀態を維持せんとを欲した、それは現在市加古市に於ける一流の商業路たる位置にあるが故にさういふ譯で百八呎だけ擴げることに決定した。

米國を鼓舞するものはアゼンスに非ず、巴里に非ず、コンスタンチノープルである。同市に於ては若しも市が公衆用に供するために、一私人の所有を得んとして能はぬ場合には火事を待つてゐる若しも私人に屬する建物が、火災のために燒失し終つた時には、市は所有者に相當する價額を支拂ふことをせずして、公衆用に之れを沒收することを得ると法律で定めてある。明にコンスタンチノープル市が市改善を欲し、爲に或私有物の必要の時には、都合好く火がつけられる、左樣なれば後は面倒はない。コンスタンチノープル市の方式は米國諸都市に於ける都市計畫を著しく助け且つ單純化するものである。以上の事實で印象せらるゝことは、米國に於ける都市計畫は、かゝる志望を懷いて專ら少數の建築家の群の中に建立する神秘

なる或物でないといふことである。之れは世界に於ける最も單純な、最も根本的な提議である。之れは即ち我等自身の家庭を造らんと――即ち秩序あり、便利で引着力あるものとする――と同一のことである。而して、此れを成就せしむる捷徑は市民をして之の市を眞に己の大なる家庭と看做さしむるにある。

勿論專門的の熟練が根本であるは言ふ迄もないこれ建築家、機械技師の踏み込む處である。然しそれ以上に重要なのは、輿論を動かし公衆の一致を得る處の悽まじい仕事である。之の後に米國市政にある多方面の復雜に應ずる面倒な問題が來るこゝが專門家が外に出て、振興者が歩み入る處である、米國のそれは敎育と手續とが基礎である。此事實が人民と當局者によつて摑まるゝ迄は、本質的な成功は得られない。正しく言へば都市計畫とは、之の市の凡ての人民の福利に外ならぬ。之れはあらゆる階級の利益を保護し發展せしむる。藝術の勞作に燦然たるアゼンス市は眞實に民衆のために何をなしたか。アゼンス市の美を貶するのは余の目的ではないが、アゼンス市の米國に與ふる根本的の遺産は、其引着力ある點、それを米國市の實際的の必要に應ずる如く變ゆる點にある。

市加古市計畫委員會議長チャールス、エイチ、ウェイカーは合衆國の都市計畫問題を以下の如く定義した。『之は商業の延長と發展のために眞直な容易なる道路を供給することによつて商業を增進し、凡ての階級の業務をヨリ容易にヨリ廉價に調ふることによつて市の生長を遂げしめ、偶發的の建築物より生ずる多くの害惡を阻止することによつて、凡ての財產價値を增進し保險し、物品と民衆の運輸に於て時間と金錢とを節約することによつて、全市民を更に能率ある働き人たらしむること。就中此の計畫を採用することは未來の市民の肉躰、精神、道德を健全にするものたることを此の市に保証するとである』と。之れ等の問題を解決するに非れば、我等の都市は生長を持續し我等の民衆は健康と幸福と繁榮とを持續することは出來ぬ。して見れば此問題が凡て男子婦人にとりて如何に重大なるかゞわかる。余にとりて販賣なる

文字は、辭典に於て最大の文字である。人生に於ける最も積極的のものである。余は信ずる、販賣によつて世界は大なる進歩を遂ぐる。余は多年斯る考に沒頭し居る處より、或他の見地より都市計畫の前途を見ることは出來ぬ。都市計畫とは斯の實際的本質の凡てに於て振興——販賣——事業である。我國に於て都市計畫事業を進歩せしむる唯一可能の道は、本事業が公のために最高の福利であることを市民の大多數をして首肯せしむるにある。太西洋の此方に於ては帝國の布告を以つて改善をなすとは出來ぬ。投票益が、建築家に先だたねばならぬ。現在の市街を改造する事業のなさるゝ前に——市街が擴張せられ公園が創造せらるゝに先だち——金錢が用意されてあらねばならぬ。我等凡てが既に知る如く、そこに唯一の財源がある、即ち公衆の財囊が之れである。個人の財囊を開かしむる議論と團體の之れを開かしむる議論とは同一である。之の答は世界的販賣の中にある。

都市計畫を進捗せしむる時には第一に民衆の所有する街路と財產、彼等の家庭、事務所の建てられある土地の幾分と、休養を得べき濶大な公園とを取扱はねばならぬ。我今日の憲法による權利と自由とに躰現せられたる思想に、徹底的に訓練せられたる我合衆國の市民に於ては、大抵の財產所有者が、己の所有に隣人も亦與るの權利と特權とのあることを認めないとこゝに紛議がある。或市に於て眞の所有地に投資する民衆は之れによつて何を買ふか。之れはこゝに何呎、かしこに何呎といふ風に土地を買ふのではない、文明を買ふのである。彼等は運輸、電力、瓦斯、大洋の瞥見、公園の通景、遊歩街の景を買ふのである。

都市計畫とは何か。

本質に於て之れは文明の度を強烈ならしむるにある。

如此都市計畫者とは、成功する爲には販賣人と——文明、便利、健康、美の——ならねばならぬ此等の觸れ得ざる物は最高の價値を要求する。何故なれば最も豐富なる祝福を與ふるが故に。

（つゞく）



〔談叢〕

∴生活の改造といふ事ども

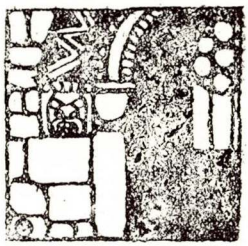
川瀬元太郎氏夫人（ドクトル） 川瀬富美子 談

日本でも、近頃になつて、やつと、生活の改造と云ふことをやかましく云ふようになりました。たとへ遅まきながら氣がつかづに濟むよりは、目つけものと云はなければなりませんが、併しそれと同時に改造と云ふことには、愼重な上にも愼重な態度をとらなければならないことを忘れてはなりません。

今から何千年前かに、今私共の實行して居る生活の基が築かれたことでありましよう、それから時代の移り異りと共に、多少の改造は加へられましたが、それは要するに、或る一分部の形式丈けに過ぎません。生活上の深い〳〵根低は昔の儘式から幾分も渝つて居らない事を私共は日々の生活上に感じて居ります。或一部分の人々には、全然日本の習慣から脫れた生活を爲て居られる方もありますが、それはほんの少數で有つて、大部分はやはり昔からの習慣に多少の理想を加味した生活を爲て居ります。風俗習慣、思想などの全然異つた時代に築かれた日本の家庭には改良すべき澤山な仕事があります。何も彼も改良しなければならない事だらけではありますが、私共は、此尊い歷史を無視することは出來ません。近頃、頻りに耳

にしたり目に映じたりすることに、婦人の改良服があります。現在のような婦人服では不都合であるからと、云ふので、いろ〳〵な改良服を考案して發表を爲て居る方も多いやうでありますが、今迄私の拜見したうちでは、現在の日本服以上に勝れて居ると云ふものを、未だ拜見いたしません。或る方は全然洋服にする方がよいと云はれますが日本婦人の洋服を着た格好程、非美術的なものはありません。今から二十年近くも前に、久しぶりで私はアメリカから歸りました當時、和服を持ちませんでしたから、外でも内でも洋服を着て居りました、洋服は經濟的でもあり、衛生的でもあります、外出にも便利で私自身それで通す考へで居たのが、いつともなしに生れながらキモノを着るやうになりましたが、此重なる理由は他の婦人の洋裝を見て、其非美術的なことを、泌み〳〵感じた爲めであります。外出の折などよく見かけることですが、顔の黄色、足の短い人が、身体の構造其儘を表はす洋服を着て居るのを見ますと、只さへ悲觀して居る私共の体格の貧弱であることを痛切に感じて、心から情なくなります。日本服は確に不經濟でございます、切地が贅澤でありますし流行は恐しく移り變り、仕立方にも洗濯にも多大の手數を要することは確でございます、そして私共日本人の体格には、最もふさはしいことも今更申す迄もありません。

一体、衣類といふものは、實際的にばかり用ひて居るものではなく、裝飾といふ意味も大部分含まれて居ります。殊に美しかれと願ふ女の身にとつては、不經濟だからとか不衛生だからと云つて其美を捨てることは、どんなに辛いことでありませう。又、今のやうな着物では、人目に付かない處にお金がかかるから、先づそれから廢さなくてはいけないと云ふ方もありますが、それでなくてさへ、浮いた考へから表面ばかりを飾らうとする好ましくない傾向のある今日、尚の事人の心が輕薄になりはしないかと案じられます。昔から、日本人は澁い趣味のある國民として世界にも知られて居ります。表面は無造作なやうに見えても、非常に凝つてゐると云ふのが自慢であつたのですから、其ういふ点は失ひ度くないと思ひます。但し子供と男子は洋服に限ります。私は、女の子供は十五歳迄は洋服にして居ります。そろそろ女一人前になりかかる頃から、日本服を着せて居りますが、此やり方は一番宜しいやうでございます。



「紹介」

□□神戸海洋氣象臺建築工事概要（巻頭三色版參照）

位置　神戸市中山手通七丁目宇治野山

起工　大正八年四月十日

竣工　大正九年五月廿日

一設計監督者　渡邊建築事務所

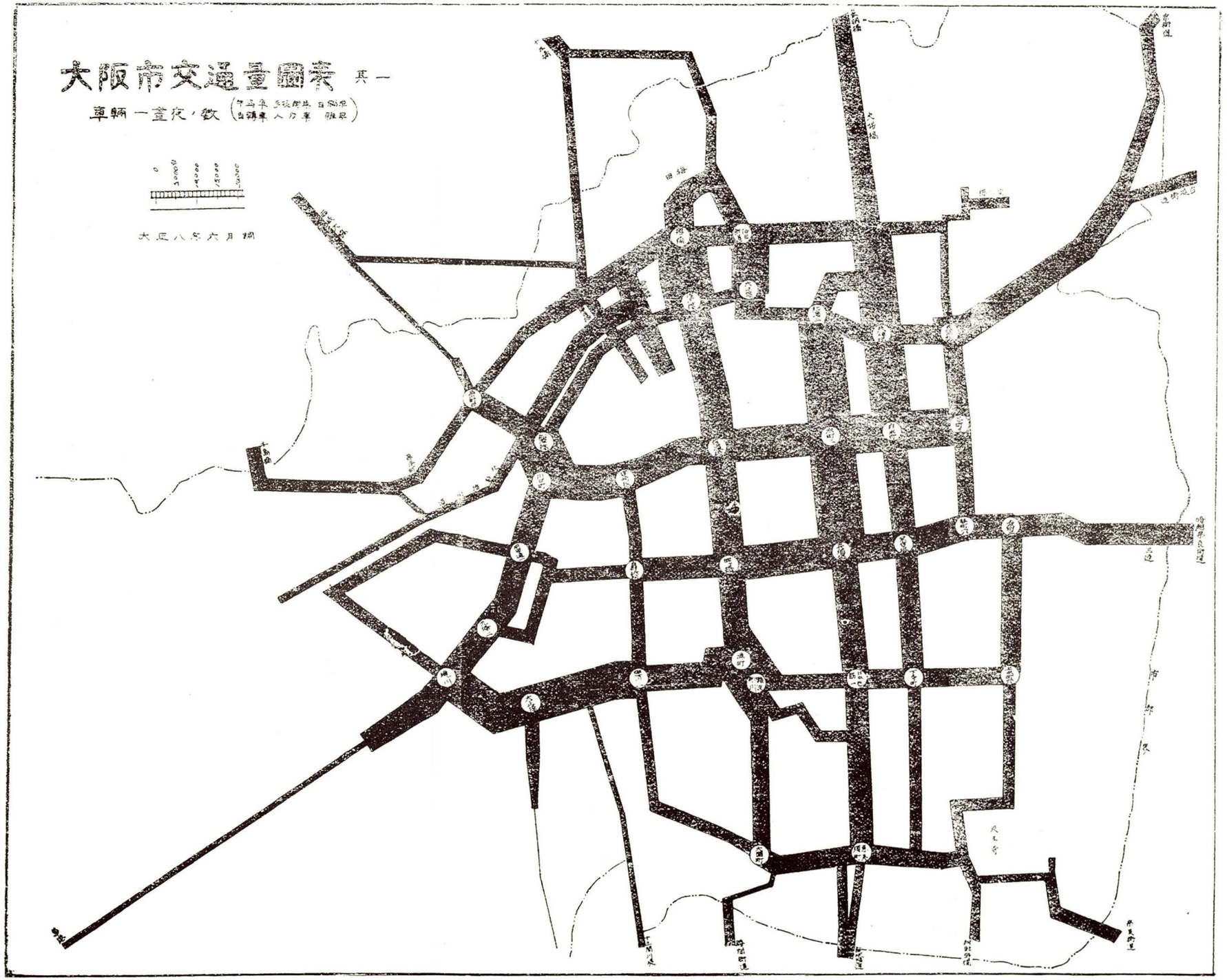
一工事請負者　竹中組本店

一建築樣式　「ゴシック」式ノ手法ニ據リタル近世式

一建　坪　百〇九坪參合

一階　數　地下室共三階建

一構　造　基礎割栗搗「コンクリート」打トシ周壁ハ全部煉瓦積厚三枚乃至一枚半トシ外部ハ處々花崗石ヲ用ヒ化粧白色煉瓦ヲ張付ケ軒蛇腹彫刻ハ人造石洗出ニナセリ床天井及小屋組ハ木造トシ屋根ハ赤煉瓦ヲ葺キ床ハ全部米松板ニテ張合セ其上ニ「リノリユー



〔資料〕

●大阪市都市計畫參考資料 (其五)

(VII)大阪市交通量表(一、二)

大阪市交通量圖表 其二

人一時間，最大数



大正八年六月調

ム」ヲ敷ケリ

廣間ハ天井ヲ穹隆形ニナシ處々石膏彫刻ヲ付ケ大階段ハ親柱上ニ古雅ナル青銅瓶ヲ置キ階段室ノ周壁ニハ氣象觀測ニ因ミタル半肉彫リノ彫刻ヲ取付ケ各所天井及壁ニ色彩ヲ施セリ

重力式循環温水裝置トシ地下室ニ瀝鑵ヲ置キ各室ニ放熱器ヲ配置シ冬期六十五度ノ暖房ヲ採ルモノトス工事ハ大阪暖房商會ノ請負トス

一暖房設備

全部半間接照明法ニ依リ各室ニ應ジタル器具ヲ使用ス施工ハ大阪電氣商會請負トス

一電燈設備

位置非常ニ高カク市水道ノ力ニテ十分ナラザルヲ以テ地下室ニ「プレシャ」「タンク」ヲ設備シ市水道ノ水ヲ地下室ノ「タンク」ニ取リ之ヲ更ニ「プレシャタンク」ニ送リ各室ニ給水スルコトヽセリ但平時市水道ノ力ニヲ足ル部分ノ給水ハ必ズシモ「プレシャタンク」ニ據ラズ直接市水道ノ給供ニモ據リ得ルコトヽナリ居レリ施工ハ須賀商會ノ請負トス

一給水及防火栓

一汚物處置

便所ハ各階地下室共洗滌式トシ須賀商會ニ施工セシメ其汚物ハ之ヲ一大タンクニ集メ其タンクハ清水工務所ノ設計施工ニ成ル自然淨化裝置トシ殺菌淨化ヲ行ヒタル後濾過シタル水ヲ下水ニ放流ス



漫錄

××フランク、ロイド、ライト氏を紹介す

會員 建築技師 伊藤清造

我が Frank Logyd Wright 氏に關しては先年恩師武田博士がライト氏建築圖案集を刊行してライト氏の作品數十種の中より若干を抜いて簡單な說明を附せられた事がある、當時博士の說明にも明記された樣に一に我が混沌たる建築思想界に一道の光明を與へられようとされた博士の努力であり又ライト氏の喜んで飜刻を博士に許された理由であつた、爾後我邦の建築界はこれに依つて幾分その前途を開拓したかの觀がないでもないがそれは極めて少數の氣骨ある青年建築家の間にのみ僅かにその形式を踏もうとした努力のあとがある位のものであつて依然として建築界の大勢は彼の議院建築に幽靈の樣な設計を出したり、又これを攻擊する若い人達も只新らしい新らしいといふ以外に何等建築藝術觀の本義に徹底しない言ひ草ばかりで賑かになつてゐるばかりである。幸ひ本誌五月號に記載された葛野氏の居構百選中にライト氏の名が出て來たし又五月十四日の The Japan Ad-

vertiser の日米號に目下ライト氏設計のもとに工事進行中の東京帝國ホテル新築に關する記事が掲載されたので此機に我フランク、ロイド、ライト氏の藝術家としての態度を廣く紹介し、此の聲なき無言の宣傳者が如何に我國法に通じ而して如何に我建築界に覺醒の曉鐘を打ち鳴らしてゐるかに就いて、世人の記憶を更らに新たにし、更らに深くせしめたい。

葛野氏の文にはライト氏を稱してシカゴ市に於ける有數の青年建築家とされてゐるが、實にライト氏の圖案を見れば潑溂たる青年に非らざれば到底なすことの出來ない位放膽な氣分が横溢してゐる、進取的なそして踏襲に泥まない驀進の勇を來すものを青年と定義するならば我が世界の建築界には正にライト氏こそ眞の青年であろう。而も氏の風彩たるその偉大な體軀その皚雪の白頭そしてあの鼻眼鏡を洩れて來る柔かい瞳の笑みそれは總べて好々乎たる老紳士である。

氏が我國の事情に通じ我國の古代文化に多大の趣味を有し深き研究を積みつゝあることは彼の世界にも稀れな程の浮世繪の愛玩者であり研究者であることを以つてしても已に明瞭である而も氏の日本趣味は決して偏したものではない又所謂物好きではない、總べてその深い奥に潜んでゐる眞箇の生命に對して、深い共感を懷いてゐることは氏の建築を深く眞實に研究する人の直ちに氣附く所であろう、氏は言つてゐる。

I have much interest for everything of Japan

と嘗て氏と共に氏の母堂等と自働車を驅つて東京近郊を見物した時の如き所謂大江戸時代の異樣の家並や道行く印半纏の人夫等迄氏の眼には特殊の詩的の美觀を喚起しないでは止まなかつたのである。その時も氏は車上で、

Japanese people are very wonderful nation

と言つて獨り莞爾としてゐる。總べての物は氏の眼には美として映じ、氏の眼によつて見られた總べての物は直ちに美化されて美くしい古ながらの日本が氏の前に恰も一幅の畫圖のように展開されて行くのである。こういふ風に日本の總べての物に深い興味と理解とを有してゐるライト氏には、我

邦の西洋建築は最も不可解な幽靈の一つである。

Hitherto Tokyo's modern buildings have been nondescript or copies of foreign renaissance structures, unsuitable in every way to peaple, climate, life or conditions.

Western ideas are not understood in Japan. Most of the European buildings built here emulate structures that have been left behind long ago by the better and more progressive elements in the every countries in which the original buildings stand, etc.

此れは我がライト氏が東京にある西洋建築を見て批評した歎聲である。外國人にして我邦の美術を理解してゐる事は日本人以上であるライト氏から如斯批評を聞いて我建築界は頃らく覺醒しなければならない一日も早く迷へる夢から醒めなければならない。昨年一月の本誌に掲げた拙稿建築様式論に於いても論じて置た様に日本人が外國の建築様式を模倣しようといふ事は、これを藝術的見地からしても、純理論的見地からしても不可能である。ライト氏は今西洋の思想は日本人に眞に理解されてゐないといつてゐるが、吾輩は此れを逆に西洋人は日本の美術を眞に理解してゐないといふことを該建築様式論中に述べてその一例を、

The Room Beautiful 中の寫眞に求めたのであつたが全く同一の事柄であつた。今回圖らずもライト氏を迎へ氏の設計になつた建築が我邦に二三建設され、在來の我が西洋建築に以上の様な批評を聞いた上は一日も早く覺醒の眼を見張らなければならない。實にやライト氏は眠れる我建築界に覺醒の曉鐘を打つ無語の宣傳者である。氏は常に予の來朝の機に際して日本青年建築家は眞實の建築藝術が理解され日本に眞の西洋建築が生れ出でるならば 最も幸福であると、我青年建築家たるもの此の機を逸せずして、眞個の建築藝術に向つて須らく勇猛邁進す可である。然らばライト氏の建築は如何なる物であるか、余輩は先づ此れを紹介しなければならないのであるが、是は極めて至難な事である、何となればライト氏の建築は決して形式から出發した物でないからである。ライト氏の作品全般を通じて其内容表現の上には所謂ライト式とも稱す可き極めてインデビジユアリスチックのそしてキャラクタリスチックの或る強い光りが溢れてゐるが、もと〳〵決定した確定された

形式の上に出發点を有した物でない故にライト氏の建築はこういふ物であると、具體的に書き表はす事は不可能である。内容に伴つて來た形式それは千變萬化の物でなければならない。已に決定された形式があり之れをどこへでも持つて行ける物には、それを書き表はす事も言ひ表はす事も出來るのであるが、所に應じ變に臨んで最も自由に最も自然にその氣分を表現しようといふライト氏の主張に依つて設計された、建築には、屋根が大きいのが特長だとか水平氣分の擴充が特長だとか切妻を用ひないとか、柱はどうの、窓はこうのと言つたで、それは所謂一部分のみを見た偏見であつて、如斯論議は到底ライト氏の建築には許さる可きでない。であるから其建築藝術觀の一斑を此處に紹介する事としよう。それがやがてライト氏の建築を眞に解する鍵であり要諦であるからである

柱の上部には柱頭（キャピタル）を附け下部には柱脚（ベース）を附けねば納まらないと考へたり、軒や窓には蛇腹（コーニス）や額縁（アーキトレーブ）を附ければ納まらないと考へ込んでゐる踏襲的な眼には、氏の建築は到底眞實の光りを映せしめないであろう。古い復興式の柱頭に代へるに新しい何彼れを以つてして、それで時代精神の反映であり、新思想の表現であると考へてゐる。現今内外の建築界に對してはライト氏こそは眞に時代に先驅した大天才である。氏の主張は建築を外部内部と區別する事を根本から排斥する事に始まつてゐる。故に氏の設計は、建築全体が出來上つて人が住まひ會社銀行が事務を始めるに少しの不都合もない處迄完備した時を以て完了するのである。これは、普通何でもない樣であるが、事實目下の又既往の斯界は決してそうではない。建築家は、建築の設計を行ふと稱して、その實これに附隨して來る家具は家具屋に裝飾は裝飾屋にその設計全般を一任するのが通則である。如斯方法に依てそこに有機化された生命の統一ある眞建築が生れ樣筈がない。ライト氏の主張の第一歩は實に此處から出發してゐる。

次ぎに氏の主張は建築に依つて人を支配し樣といふのではなくして、人に依つて建築を支配しなければ成ないといふにある。換言すると既定の平面立面（プランエレベーション）に人を順應せしめるのでは無して、人類本來の自然的な心理を本として此れにやがて建てんとする建築を順應せしめるのである。入口がある爲めに人はこゝから出入し階段がある爲に此處

から昇降するといふ事は前者の立場であり、やがて現今の狀態であるが、人の出入せんとする心理に暗示を與へ昇降せんとする心理に豫感を與へ之によつて、人類自然の傾向に向つて空間を取扱ふと云のが後者であり、軈てライト氏の主張である

次ぎに又氏の主張は建築を平面で取り扱はないで、空間（スペース）の奏づる律動の美を聽かうとするにある此の爲めに建築は裝飾されて美と成のではなくして、本來其物が既に美的の存在として生れてゐるそして室内に山あり池あり林あり野ありといつた自然の律動が變化の中に統一あり統一の中に變化ある尊い生命の一團となつて生れて來るのである

最後に氏の態度は決して過去の形式踏襲に促はれない点にある。只に既往の形式に促はれないのみならず、氏自身の形式にも促はれない處に氏の尊い生命がある。丸い球を平たい板上にのせた樣な自然な、そして自由な心といふ遠藤新氏の言は正にライト氏の建築に對する態度である。シカゴ近郊小高き丘上に氏獨特の數奇をこらしたタリーセンの邸宅に五十余歳のライト氏が如何に詩的な思想に燃ね如何に建築藝術に眞摯な徹底した見解を抱いてゐるかは、願くば氏の建築圖案集について其一斑を知悉して欲しい。

稿を終るに先き立つて、尙ライト氏の建築に就いて一言しなければならない事はその材料と構造である。氏が材料の使用は氏の構造と共に又恐らく建築界の一新紀元を劃す可きであろう。氏の建築は決して高價の材料や又は冗費の掛つた材料を使用してゐない。其材料使用の巧妙なること及び大膽なグロテスクな扱ひ方は氏の性格を遺憾なく發揮して氏獨特の建築意匠に深大の共感を與へてゐる。又その構造の經濟的にして放膽な事は殆んど從來の目からは驚異に價する物がある。遠藤新氏の現今の構造學者の愚を嗤つた言に、樹の小枝に鳥がとまつた爲めに枝が撓んだといつてその次の枝を太くして其爲め又次の枝を太くし、かくして、其幹を太くし、其根を大にし、其原因は僅か小枝に小鳥が一匹とまつたのみではないかと、この言はライト氏の建築の構造を見て深く肯づかされるのである。

（終り）

附言

本稿一篇は予にライト氏に師事する機會を與へられ且つ書を與へられる毎にライト氏建築の眞諦を捕捉することに努められ度候との激勵を賜ひし恩師武田博士に捧げその第一回報告をす云爾。

××太平洋を横ぎりて

會員　工學士　波江悌夫

回海の家

陸に家を建てる專門家を建築家といふならば、海の家を設計する技師を何と申さうぞ、その昔工部大學の創められた頃には、造家造船造兵と並び稱せられて居た中で、造家のみは、美術家の天狗連が集まつて居た事とて色々の理屈もあつて、とうどう家號を建築とこそ改稱致された、堂々たる建築家は世間にも認められて今では造家技師なんどと呼ぶ人もなくなつた。

だが建築家の建てる家は陸にのみ限られて居ると思ふたら大間違に相違ない。はたまた都會の眞中にのみ已か天地を求めてよいものか。川の家、湖の家、山の家、森の家、林の家、雪の家、氷の家、雨の家、霞の家、擧げ來れば限りもないに相違ない。海の家豈に夫れ雲烟過眼視して差支へないものであろうか。

古代埃及人は沙泥に家を造つた、又懸崖に家を穿つた、希臘人は丘の家を造つた、北歐のゴート民族は森の家の偉大なるものを建て、南歐のヴェニス市民は河の家に成功の跡を遺して居る。佛人が帝王の家に範を垂れ、獨人が軍國の家に全力を濺げる間、米人は民衆の家に覇を稱する樣になつて來た。近代英人が陸に家の粹を矜り得ずして、海に獨歩の境を開拓し得たのは海國の然らしむる處とはいへ、注意すべき事實である樣に思はれる。

同じくこれ家である……とするのはそも〳〵間違の基であるかもしれない、だが數多の客人を宿らせ食堂の美を矜り、喫煙室、圖書室、社交室を備へ、厨房に料理法を研究し、寢具浴槽排便の設けある以上は正に堂々たる海上のホテルである。

石炭の貯藏、汽罐室の手入れ、倉庫冷藏庫の配置暖房通風採光製氷發電の設備の整頓せるを見れば正にこれ海上に浮ぶ一大工場に外ならぬ、窓を如何にすべき、扉は斯くあれ、梁の強弱、階段構造裝飾の變化、家具の意匠、一として陸の家に共通の問題ならざるはないとするならば、海の家は正に陸の家と兄弟である姉妹であるとするに躊躇すべき理由を發見し得ないのである。

基より海の家である、陸大工の學んだ所、究むる處を以て一律に取扱ふことが出來ぬ。陸の家でさへ數多の條件が附き纏ふてゐる、十年、百年、千年の歷史が延べられてゐる、だが海の家だからといふと決して風馬牛とすることは出來ない事を感じない譯には行かなかつた。技術の上から意匠の上から將たまた形式の上から委細に觀察の眼を放つて見ると、今更ながら敎へられる所が多い事を發見した。

或時ブラリと機關長を訪れた時である、話が船の事に移つた折にこういふ事を聽いた。國々の風の異なる事は民族の異なる事程左樣に變化のある事は勿論だが、佛國の船は佛人の氣象を其儘に示し、獨國の船は獨人の氣質を遺憾なく發揮し、英人の風は英船に明かに現はれて居るとの話である商船に於て然り軍艦に至つては更らに面白味を露はして居るそうである。裝飾の多い佛艦や、ゴツ〳〵した獨艦、何處となく野趣を帶びた米艦、さては海國の王者を矜る英艦の垢拔けしたる、夫々に興味あるとの事であつた。そして遺憾ながらこれが日本の船で御座るとすべき近代鐵船の特長は未だに何處と捉へ處もないさうな。果して然りとするならば、過度期を急ぐ日本の陸と海とは何れ劣らぬ有樣である。

近代鐵船の發達史は僅々六十年の頁に過ぎぬ事も聞いた、夫迄は何處の國でも木の船であつたのである。浦賀灣頭を劫かして太平の夢を驚かし、たつた四隻で夜も眠られなかつた、提督ペルリの率ゐて來た有名な黑船も、二隻は木造の帆船で二隻は木造の蒸氣船であつたのである。まして馬關海峽の攻擊や薩摩灣頭の海戰も木造軍艦で立派に行はれたと聞いては聊か御座がさめる話である。

夫れ許かりでない、國運を睹して戰つた廿七八年戰役でさへ、音に聞ねた定遠鎭遠の二隻と我國の扶桑一艦とが甲鐵艦であつたそうである。其他は木骨鐵皮の軍艦で、やゝともすれば火災を起して困つたものであつたさうな。して見ると、數千萬圓の巨費に成る近代戰艦の現はれる迄の進步發達は寔に目醒ましき限りである。

西曆一千六百六十六年倫敦大火の影響で、近代都市は耐火建築と改造されて來た以來、隨分と永い歷史を陸の上に過して居るに拘はらず、所謂文明國都市にも目貫の場所に今尙木造建築の跡を絕やさぬ氣の長さと比較して、面白い對照を感ずるばかりでない、建築學上の理論でさへ牛步の跡を目前に發見するは寧ろ意外である。

各國の建築はまづ木造から起つたとする、或は泥から又土で造られた、それが進化發達して煉瓦となり石となり「コンクリート」となつた、更に一躍進を遂げて鐵骨の家、鐵筋コンクリートの家を發明した、やがて來るべき家は正に鐵の家であらねばならぬ、といふ結論が生れて來た。

だがこれは聊か了見が狹い樣である。陸に鐵骨の家の研究されて居た間に、海では堂々と鐵の家を造つて居たのである。鐵材の需用が起つてから陸の家では是を骨とのみ使ひ得なかつた間に、海の家では皮肉にも凡ゆる部分に應用して居たのである。いはゞ鐵の家は陸に發達の餘地少なくして正に海上に其の領分を見出したのではあるまいかして見ると將來永久に陸に其領分を擴張するの必要もなければそんな時代は來さうにも思はれぬ。茲に自分は更に見逃すべからざる一つの事實を發見せざるを得なかつた。

構造乎、裝飾乎

建築は單に技術として取扱かひ得られねばこそわざ〳〵造家の二字を振り捨てゝ如何にも立派な建築の二字に改正されて以來、やゝともすると、やれ技術だ構造だ、いゝや美術ぢや藝術ぢやと兎角議論の花咲いて、あげくの果てには犬も喰はぬとんでもない喧嘩が壕塀の間に持ち上る事さへある。だが大局の上から見れば何にもそんなに議論

を闘かわす程の大問題ではない筈だ。建築が數字を基礎とする技術である限りは、又建築が純正美の部門に入れられて全世界の學者が認めて居る以術上は、構造と裝飾は建築の完成に於て決して無視することの出來ぬ部門である。

海の上はさすがに廣々として氣持ちがよい、海の家は建築と改名する必要も認められず、技術ぢや藝術ぢやと議論を戰はす暇もなくて、必要の構造と必要の裝飾を施されて些のこだわりも殘されぬ所が面白い。成る程食堂や喫煙室の意匠には尚非難と研究の餘地もあるに相違ない。數多の實用上の拘束から間取りや配置の末にも得失があるに相違ない、だか陸の家を造る技術家の眼から觀て其外容の形式と內容の構造とは實用の要求に切り盛りされて如何にも美術品らしい、藝術的氣分の現はれて居らぬ點にまづ以て注意を拂はねばならない。何處に所謂裝飾らしい裝飾があるか、何處に美とし藝能の妙手を示すべき餘地があるかといひたくなる。そこには所謂建築家の認めて以て美の要素とすべき物象は一つもないといふても差支へない。

それにも拘はらず、更に、それにも拘はらずといひたい、人間の作品として此等海の家には人をして一種の美觀を感せしむる或物があるのである彼の、半製の海の家を陸より水に放つとき、數多の觀客は進水式當日の美觀、壯觀を忘れる事なく友に說くを聞くではないか。

堂々海を壓する海城の美觀、武器を滿載して軍事のためにあらゆる不必要の虛飾を避けた筈な艦艦の雄姿に感歎の聲を放つ人間の叫びは、何を物語つて居るだろうか、曰く壯美、曰く雄美、詮ずる處人間の作品に對する胸奧から躍り出る一種の快感を味ふが爲である。若し美といふ分類に數多の列を立ち得るとするならば、幷は女性の上に現はれる優美ではない、海の家は元來女性である優艷な婦人の振ふ金銀の斧に依てスル〳〵と走り出る其船は、正に濃色な風姿とすべきであるに拘はらず、斷じて女性の美を有しては居らぬ、何處迄も男性の美である。通常の男子の体格以上に發達したいはゆ怪男子とも稱すべき力士の肉体美を稱贊すると同樣な感歎詞を並べて、海の家の雄壯な姿を歎稱するのである。日ねもすのたり〳〵してゐる春の海の姿と比するよりも、荒れ狂ふ此北海の白波を配景とする方が適當かと思はれる樣である。

して見ると人間の智慧に成る海の家にも人間の情を動す處の何物かゝ存在してゐるのである。建築上に取扱はれる種類の美は當嵌まらぬにしても海の家に取扱はれる美の眞髓は何物であろうか。

甲板を歩きながら此處迄考へて來た。其處にダビットの幾組かゝ列んでゐる、それに小さな木の船が取付けられてゐる、逆まく怒濤のためにこの大船が一大事に出會するときの用意に設けられたボートである。曾ては北海の流氷に觸れて巨船の沈沒した時にも此ボートは僅かながら一等船客の誰彼を救助した、かゝる近代的巨船の生れぬ以前から白人の國で發明された小舟は正にこれである

ペンキ塗の簡單な一小舟、それにも白人の手に成つた筈の面白味は現はれて居る、所謂バッテイラ時代に日本人の眼から見た時には、變手古な船とより思はれなかつたに相違ない。南歐の名物コンドラや支那にはヂャンク、南洋の土人の丸木船夫々に國風を傳へつゝある此等の小舟にも、必要にして充分なる技術の外の技藝の味は發露されてゐるのだ。キールの曲線、兩舷の曲線、繩一本、板一枚、オール一本の末に至るまで人間の審美の色附は施されて居るではないか。

何のためにクラッチの曲線は形造られたか、たとへ一箇の鋲さへも、たとへ一本のボールトさへも、其處に觀る眼に許さるゝ技巧の術を施してゐるではないか、まして順次に發達進歩する海の家の歴史の跡を辿つて行くならば、吾々が洋風建築の歴史の上に教へられる限りなきデテイルの妙味は洋風造船術の歴史にも展開せられるに相違ない

古代日本の帆船は一本檣を原則として居た、歐洲帆船の三本檣の帆船や或は二本檣帆船の變遷は單葉復葉の得失利害を研究しつゝある飛行機の夫れの如くに面白味ある歴史のある事であろう、そして檣や帆桁のプロポーションはやがて飛行機翼柱の作工の夫の如くに取扱はれたに相違あるまい帆綱の結び方の幾種幾法、櫂櫓梶の發達進化の跡一として興味ある技工と審美の對照たらざるはなからうではないか。

想へ進化發達の跡、其處に利害得失の慘憺たる良工の苦心工夫の產まるゝの間、實用と必要との間一髪に人間の作品としての趣味が打込まれる、民族としての特質特長が織り込まれる、これや應用工藝品としての類別に投げ込まれて居るにしても、決して單なる技術的作品として見逃すことは

出來得べくもない樣である。

更らに考へねばならぬ、世は單純から復雜に進む、實用から虛飾に落ちる、出來上つた到品來にのみ養はれ來た日本人から見れば左程迄むつかしい變化のないと思はれる汽車、汽船、電車、自轉車、自動車、飛行機、飛行船でさへも、畢竟、實用品としての價値に居る間こそ一箇の研究材料でもないとすれ、初期の製品から後期の作品への進化の跡を窺ふて見給へ、やがては實用を離れてとんだ藝術品を產み出される事がある。

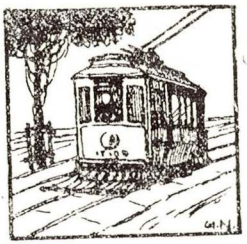
その昔櫻かざして嵐山の遊宴の日、鬢頭稽首の船を大堰川に浮べ、詩歌管絃の興に、日の短きを嘯てる大宮人の男女を載せた唐風の船や如何に、其昔壽永の秋の哀れをこめて西海の波に浮びたる平家一門の武備は、世の無情の風にさそはれて螺鈿の細太刀に金銀をちりばめ緋縅の、鎧に優美の姿を御座船に並べし有樣や如何に、黃海の波を踏んで大明の沿岸を荒し廻つた八幡船さへも、今日其俤を偲べば興味津々たるものがある。

西曆一千何百何十年、多年の覇業に無敵艦隊の名を取つた大西班牙の海軍は、其勃興の初期には當時の船工の腕を振つて產み出された技術の精妙が其基をなして居たに相違ない。だが最後に英人の輕舸に物の美事に打破られた當時の船艦は無用の技巧を弄し、否々當時の西班牙人をして嘆美惜くなかりし優雜を競ひ、他國人をして目を驚かさしめた藝能を裝らして居つたに相違あるまい。

これや壯麗天下に冠たりし一大巨船タイタニックが、洋上の流氷に觸れて自然の警告に悲慘の最後を遂げた原因である。技極まつて巧起り壯美の極が優美と化した過ちである。

建築は構造であるとする議論！それもよい、夫もよかろう、夫が基本條件である、だが全部では決してない。技術品とさへ銘打たれた器械工業の作品でさへ、計算以外の妙巧な技巧を容れてゐる、必ずしもボイラの周圍に紋樣を彫出する莫迦氣た事をせぬ迄も、武具やモーターの精巧な作品には人間の眼に快觀を味はしめる丈の用意は備へてゐる建築に裝飾は缺ぐべからざるものとする議論！それもよい、それもよかろう、だが裝飾の妙味は實用を基礎として、鞍上人なく鞍下馬なき處に味を宿してゐる、こりや一寸考へて見ねばならぬ。

海から教へられた自分の所感の大綱はまづこんなものである。（つゞく）



「訪れの記」

島定次郎氏婦人きぬ子の君

婦人記者

大阪府選出貴族院議員、島定治郎氏邸を天王寺烏ケ辻に訪ふ。

通された處は、二十疊位の立派な洋風の應接間である。硝子戸を透して見晴らした廣い庭園は、一面に鬼芝を敷きつめて、二三本のうねり曲つた若い松の木と、少しの灌木がさへぎるばかりで、何んにも無い。すつと彼地の方に一段低くなつて青葉に埋もれてゐるのは多分池であらう、その邊は日本式の庭園に成つてゐる。派手な、併し、落ちついた色調の壁紙が、この室の大体の氣分を明るく作つてゐる。幾枚かの額と、黒塗りの置物臺に博多人形や寫眞帳が行儀よく置いてあるのと、ピアノと、裝飾らしいものは極く簡單である。備へ付けた室内電話と並んで煽風器がちやんと座つてゐる。ピーンと音が重つて來て、煽つて來るその風に汗ばんだ頬を弄らせてゐると。待ち受けてゐたきぬ子夫人はすぐに見えた。

『お待たせ致しまして。どうぞ、お掛け下さい

ました』

血色のいゝ素顔に輕い笑みを含ませて、無造作に親しみをみせながら會釋した。

やはらかくクッションに凭れて向き合つた夫人は、氣取らない、つゝましい上品な婦人であつたよくかきあげて、すつきりと取あげた地味な素直な束髪と、絣の普斷着に白の肌襦袢をきつかりとくひつめて合せた處は、何處かに大阪趣味を離れて淡白とした趣を見せてゐる。

『總べてを洋風生活に、といふわけでもありませんけれども、出來るだけ、生活の樣式は簡單に、便利に致したいと思つて、少しづゝですが實行してゐるつもりでございます』

と、夫人は記者の質問に一々答へて語つた。

夫人は一昨年、夫君と一緒に米國を旅行して來られたので、廣い見聞は、一層夫人の識見の糧となつて盡きない話題となつて出るのであつた。

夫人は彼地の生活が、如何にも文明的に簡素で便利であることを語つた。それが爲めに各人が非常に時間の費ひ方が上手なこと、從つて婦人達が自分自身の時間を有つこと、修養も勉强も向上もその間に結搆出來ること、日本婦人がまだ〳〵時間の觀念の淡いこと、私達は其處に充分改良の余地も工夫もあると思ひます、と語つた。語りながら、夫人の態度や言葉使ひは始終落ちついて、そこに上滑りでない、實質と氣品とを見せてゐた。

『何しろ、外國の婦人達は、實際活動の能力も有つてゐるのでございますね。大抵の普通な男子や婦人達が、自分で自分の自動車を運轉することも知つてゐます。もう、自分達の住宅を買ふ時は同時に自動車も添へて求めるのが普通になつて居りますが、また、それ丈け彼地では、實用的に事務的に自動車も總べての器械も盛んに使用はれてゐますので。それで相當な家庭の夫人が、まあ例へば主人が朝、事務所に出勤の時は、自ら運轉手となつて主人を送ります、そしての歸りを市場へ廻つて總菜其他の買物をして歸る、夕方は又自動車を持つて主人を迎へに行く、只二人ぎりの家庭ならば、手輕に料理屋に行つて食事を取ることもありませうし、すべてがさういふ風に非常に敏活

なのです。それに又、日本ではよく体裁抔といふことをやかましく申しまして、一寸食事に行くとしても、身分だとか、見榮だとかいふ事に捕はれますけれども、外國人の方は一体にそんな点は大變無邪氣に天眞爛漫でございますね、今日は手輕に濟ましませうと思へば、例へば、安價い料亭に這入つてやすい食事を攝ることも平氣なのです。私等も、例へば、來客の方にお食事をお上げするにしても、わざ〳〵料理にのみ特別に心を使ふといふことは致しません。只氣持ちよく、おもてなしをするといふことで、形式は、縦へお丼をさし上げてもよからうかと思ひます。』

夫人は、ゆるく圓扇を使ひながら、さう云つてちよつと笑んだ。

『私が、丁度米國に參りました時は、いろ〳〵の事も見たり聞いたり致しましたが、兎に角愕きましたのは、會社、工場抔云つたものが非常に大仕掛けで、恐ろしく文明の力の利用されてゐることでした。一寸覺えてゐますの丈けでも、無論世界的に有名な大工場ですが、一の自動車製造會社の職工が二萬人、書間の事務員が千二百人、それで、一日に一萬臺の自動車が製造され、自動車に代つては、又一日百臺の飛行機が作り出されるといふことでした。そして、それ等の立派に出來上つた自動車や飛行機が昇降機に乘せられて、何の苦もなく上下するといふのですから、人智、機械の力に驚かれずにはゐられません。

私は、考へと工夫によつては、どんなにでも、私達の家庭生活位は、もつと上手に改めてゆくことは出來るだらうと思ひますけれども……』

夫人の頰が少し赫ばんで美しく見えた。

『私は、私達の爲に、アッパートメントが是非出來て欲しいと思ひます。住宅等も從來の日本式家屋では、もうこれからの生活に不適當だらうと思ひます。西洋風に、一々扉を有つて、鍵一つで嚴重に戸締りも出來るやうにし、そして、人手と不安心な心持ちを除きたいと思ひます。

若し日本人がもつと團体生活、共同生活に馴れまして、アッパートメントの樣なものが出來ましたら、そして、その全部の食事を事務的に共同炊

事にして、御飯抔も各室に應じて分配る……といふ樣な風にでもなつたら隨分便利で、婦人達の手數がどれ丈け、はぶけるだらうと思ひますが…』

『私は、いゝと思ひました事は、まあ、少しですが、この家抔も大方洋風に習つてをります。建てましたのは、やつと昨年ですが、後に城東線の鐵道と、又門の前には、近く市電も通じますので令嬢がいづれ今少し高等の學校へ進みたいと申してゐますので、私達の手元を離れるやうにでもなりましたら、靜かな田舍の方へでも移轉して、猶もつと、女中抔の手も借らずに、なるべく簡單な生活をしやうかと考へて居ります。只今は、御覽の通り、間數も極く要る丈けのもの、階下の洋室が四間、階上の三間を寢室にしてをります。それに彼方に臺所をつけた女中室と、布の見積り等をする爲めの室と三間丈けが日本室になつてをります。取り散らしてをりますが、では御目にかけませう』

と夫人は記者の請を容れて、立ち上つた。

よくふき込んだ廊下を一つ狹んで、向ふが食堂になつてゐる。十五疊位。眞中に純白の布で掩はれた食卓を据ゑて、矢張り純白の掩ひを被せた數脚の椅子が寄せられてゐる。左方の隅には米國から持ち歸つたといふ、テーブル、セットとも云ふべき立派な、臺を兼ねた引き出し付きの卓があつた。中には、ナイフやフォーク、ナフキン、といつたものが、きちんと丁寧に澤山並んでゐる。も一つ右方の隅には、又硝子戸の棚が置いてあつてワイン、カクテル、シャンパン、小カップ等が並んでゐる。周圍の壁は派手な林檎畑の畫紙が帖つてある。スヰツチ一つをぴんと彈くと、花電燈がパツとつく。食堂に適はしいキレイな室である。其室を出た處に片寄せて、運んで來た料理でも乘せるらしい棚が置いてある。電氣のストーブが置いてあつて、お湯位ひ沸かせるやうになつてゐる。

『こちらから登つて、上が寢室になつて居ますけれども、夏分は暑うございますので、只今は、閉ぢてあります。』

更に左手の階段を指さして、夫人はさう云つた。

『冬は、すつと各室共、スチームを通しますのでそれは暖かうございます。着物も袷せ一枚でしのげますし、寢臺は毛布一枚あればようございま

すから、大きな夜具の洗濯等も手數が省けます』

食堂の右手、庭に面して、あつさりとしたヴエランダを拵へてある。冬期は太陽を受けて、大變暖かなので、朝の食事抔は、其處へ持ち出していたゝきます、と夫人は云つた。

元の應接間の隣が更に廣い三十疊程の洋室、その室の後が十二疊程の書齋である。ストーブの兩側に小さな幾つもの棚を拵へて小道具を容れるやうになつてゐたのは思ひつきである。それが扉一つにかくされてゐる。諸道具は大抵、米國製のものださうである。

『朝の食事は、私達はパンとお茶位を頂きますが、其他はその時々の料理を料理人に拵へさせます。少しばかりの野菜畑を作らせてゐますので、手作りの新しいもの等がいただけます。神戸であつらへた、外國風の暖爐を冬期は使つて、それは石炭をたいて、御飯も何も總べての煮物は一度に出來るやうになつてゐます。それでも猶、傍ら充分お湯抔も沸せますので、その湯を風呂の方や、女中達の洗濯其他に使つてをります。室も大變暖かくなるものですから、大變便利なものです。

『私方は、家内中女中達も皆、大方同じ洋風に致してをります。着物等も西洋の婦人達は、わづか五六枚のもので用を達してゐらつしやいますが其處になると、つく〴〵日本服の不便や不利を思ひます。始終縫ふたり、解いたりに、女手がとられるやうでは、寔に、つまらないと思ひますので私等も、出來るだけ、必要丈けしか、拵へないことに致してゐます。せめて、令嬢に丈けでも、通學のときも洋服にしたらよからうと申しますが、皆さんの中で余り目立つて、抔と申します』

庭掃除の男衆が一寸目禮して庭園の彼方を行き過ぎた。

『御苦勞樣！』夫人は、口の中でさう云つて、靜かに會釋した。

猶、島家の女中さん達は、皆夫人の考へから大抵女學校卒業の娘さんである。獨りつ子の令嬢さき子さんの爲めに、細かい思ひ遣りと、敎育の心持ちが疊まれてのことである。

『自分の送り出した上級生で、而も優等の方に用達なんか賴むのは心苦しい、と申しまして、よく自分の事は自分でしてゐるやうでございます。令嬢も友達が出來ていゝのです。』

夫人は穩やかにさう云つて滿足さうであつた。

∴四宜草堂漫筆（五）

會員　工學士　建築士　佐藤四郎

―住宅改良の根本義―

（其一）

新聞に雜誌に講演に談話に、此頃程住宅改良と云ふ問題の高唱せらるゝ事は今までになかつた、少くとも智識階級に屬せるあらゆる方面の人々は男でも女でも、近來は機會のある度毎に此の問題を絶叫して居る、然し其の人々は果して住宅改良の必要を痛感して居るのであらうか、住宅改良の根本義に徹底して考察して居るのであらうか、私は退いて靜に之を考へて見たい。

大戰以來、人類の思想は急激に轉回した、生活の樣式は少からず變化して來た、於是乎、古るき革袋に新らしき酒は盛られないので我等の住宅は當然改良せられねばならぬ運命の下に置かれるやうになつたのである、殊に我國の如き僅々五十年の短日月に於て假令形式的にもせよ、三千年の舊殼を脫却し、更に瞠目する程の急速度を以て駸々たる世界の新文明に追隨しゆかんとするのであるから、樣式の進展、制度の更改、頻々として起り其のあはだゝしさの爲に、或は之を根底に攻究し或は之を舊習に照合する等の餘裕を少しも許さゞるものあるは、まことに然るべしとするも、徒らに皮相の管見に捉らはれて淺薄なる外形模倣に附加雷同するのは、まことに識者のとらざる處である。

住宅改良論者の多くは云ふ、我等は現在に見るが如き二重三重の煩瑣なる生活に堪へぬ、朝に洋服を着て事務を管掌し、夕に和服を裝うて散步の

杖を曳く、食膳にフライと天プラとを並べ、玄關に靴と下駄とを脫ぐ、此のやうな過渡期の混亂したる生活に堪へない、須く在來の舊習を一擲して文明の程度の進みたる白人種のやうに單一な純眞な生活に移るべきである、從つて住宅の改良は茲に其の出發點を置かねばならぬと、或は云ふ坐居の制は野蠻の遺風である、動作の敏活を欠ぎ、姿勢の端麗を汚がし一も得る處がないから速に之を廢棄して、文明の程度の進みたる白人種のやうに椅子の制度に改むべきであると、或は云ふ在來の日本住宅はあまりに來客本位であつた、一日に一時間か二時間かの訪客の爲に建物の最も優越せる部分を提供するのは實に無意味である、よろしく是れは家族本位とすべきであると、或は云ふ日本の住宅はあまりに開放的に設計せられてある、個人の秘密を保つ爲に更に考慮せられざるべからずと、或は云ふ日本の住宅に防火設備を全然欠除して居るから甚だ危險であると、曰く何、曰く何と擧げ來れば殆ど際限が無い程である。

而かも其の大要を詮ずれば、建築の專門家にしても專門家で無いにしても、今までの疊の上の坐居の制を廢して椅子制度にすること、若しくは所謂文明の程度の進歩せる白人種の住宅の如きものに改造せんとすることに於て大体に異議がない、むしろ進んで一日も早くそれを實現せんと努力しつゝあるのは斯界の權威者を集めたる生活改造協會の宣言書の大綱を見ても明かである。

かくして我等の住宅は改造せられねばならぬ事になつた、早晩疊を捨てゝ椅子に腰を下ろし、下駄の代りに靴を穿いて歩かねばならぬやうな時代に逢着せんとする傾向を見せて居る、それが果して我等の往くべき正しき道であらうか。

是等の論議を是非する前に、私は翻つて現代に於ける住宅と云ふ語の内容を精確に吟味して見たい、住宅とは何ぞやと云へば誰しもあまりに明白なる事實に投げられたる疑問として嗤ふであらう然しながら住宅改良を叫ぶ多くの人々夫れ自身が住宅と云ふ語の意義を因襲的に誤判して居るのではあるまいかと思はれる程、彼等の改良を唱へ

る住宅は現在に於ける內容を異にして居るのに氣が付いた時、私は遠慮なしに此の明白な樣なそして明白でない疑問を解決せねばならぬと思つたのである。

歷史と氣候と風俗と習慣とを異にせる外國の事は姑く措き、之を我國の過去に見るに、住宅は自然の暴力に對する單なる防禦陣地に過ぎなかつた古代から次第に發達し變遷して、梵唄禮讃の場となつた事もある、歌舞遊宴の庭となつた事もある鎌倉時代の武家造は敵に對する守勢的要塞であり攻撃的策源地であつた、室町時代の書院造は茗を喫し香を聞く仙室であり詩を闘はし禪を講ずる清窟であつた、江戸時代に入りて異色とすべきは社會の經濟組織が甚しき推移と變轉とをなしたる爲に商業階級が隱然たる大勢力を獲得し來れると共に、住宅の多くは繁劇なる商取引を行ふ店舗となつた、それが文明治になり大正になると今まで凡らゆる壓迫の下に隱忍して來た資本家主義が勃然として擡頭し其の唯一の武器たる科學を基礎として建立したる近世文明の當然の結果として萬般の考察も各種の勞働も悉く分業の法則に支配せられ共同生産の制度に束縛せられ、更に必然の隨伴として起れる都市の人口集中は夥しき加速度を以て進展し、彼是相俟ちて我々の住宅より凡ての事業を奪掠したのである。

實に現代の住宅は敵の侵入者に備ふる要塞地帶ではない、圓滿に商取引を解決すべき店舗でもない、況して詩歌管弦の樂地でもない、讃佛讀誦の道場でもない、終日の劇務と奔命とに疲勞せる肉体と精神とに充分なる慰藉と一層なる鼓舞とを與へて、翌日の奮闘場裡に快く送り出す唯一の休息所である。

くり返して言ふが、現代の住宅は工場でない、事務所でもない、趣味と衛生とに立脚して平和と愛情との雰圍氣にとりかこまれたる休息所であらねばならぬ、從つて住宅の改良を絶叫する者先づ此の事實を閑却しては其の堂々の論議も更に何等の權威がないのである。

住宅改良を高唱する者の殆ど凡てが椅子制度の

採用を力説する。然しながら果して椅子制度は休息所であるべき現代の住宅に適したる最善の者であらうか、果して在來の坐居制度は斷然廢棄すべき無價値の者であらうか、私は疑なきを得ないのである、聰明なる科學は我々に敎へる、地球の引力圈内にある凡ての物体は其重心を地球の中心に近づくれば近づくる程安定な位置におかれると、之を犬や猫や其の他の動物に見るに、彼等は有形にも無形にも外力の支承なき限り全身を地面に横へて休息する、即ち身体の重心が地球の中心に最も近き位置と態度とをとることが明かである。斯の點より見れば椅子に腰を下すよりも疊の上に坐居する方が休息としてより多く有効で且つ安定である事は云ふまでもない。

更に凡ゆる動物の休息の狀態を稽ふるに、其大多數のものは其身体の縱の長軸を地面と平行に横へる、卽全身の重量を小なる一部分に依據せしめず出來るだけの大面積に分布して支承せしむるが如き態度をとるのである、單位面積に支承すべき靜荷重をして能ふ限り小ならしめんとするのは、蓋し休息其ものを最も有意義ならしめんとするのに他ならぬ、從つて椅子とか寢臺とか或る特定の場所以外には横臥することの出來ぬ不便なものよりは、疊の上に到る處休息し得る方がむしろ一層進んだ制度ではあるまいか。

又、坐居の制度は甚しく動作の敏活を缺ぐと云ふけれども、住宅が事務所でない限りは、動作敏活が必ずしも唯一の條件ではない、住宅に坐居を廢棄すべしと云ふ第一の理由として動作の敏活を缺くと云ふ事を擧ぐるのは休息所であるべき現代の住宅を充分に理解しない者の言である、平和と慰安とを提供すべき現代の住宅としては椅子制度よりも坐居制度の方が遙に合理的であると私は信ずるのである。

海外よりの歸朝者、殊に歐米を漫遊して來た歸朝者の多くは必ず西洋住宅の優れたるを云ひ、現在の日本の住宅に於ては少くとも其の一部分を椅子制度に改造せん事を要望する、然らば其の謂ふ所の西洋住宅なる者の内容は米國式なるや英國式

なるや獨逸式なるや佛蘭西式なるやと問へば答ふる所がない、彼等漫遊者の多くの眼は單に皮相的に椅子と卓子とを見て來たのに過ぎない事を曝露して居るのである、等しく椅子と卓子と云ふけれども、米國には米國の特色があり大陸には大陸の風趣がある、其各の國民性に見逃がすことの出來ない相違があると等しく、彼等の住宅にも亦到底相容るゝことの出來ない或物が存在する、英國の諺に英國魂は赤く燃えた煖爐の傍から生れると云ふのがある。時代後れなやうな能率の著しく低劣な其くせ恐ろしく鹿爪らしいあの英國式の爐煖と、それに執着して居る英國人の性格とを稽へた時に私等は其處に輕るい微笑を禁ずることの出來ない或る會得を感ずるではないか、生れ落ちた時より死ぬ迄人生の殆ど全部を送る住宅であるから、我等の精神と肉体とがいかに多く其影響を受くるかは問はずして明瞭である、斯の重大なる意味に於て極めて大切なる住宅！よりよき國民性を發展せしめんが爲によりよき住宅を得んとする住宅の改良に際し、徒らに他人の糟粕を嘗むるのは決して策の得たる者ではない、白人種の住宅がいかに彼等の爲に合理的で文明的であるにもせよ、それが直に歴史と氣候と風俗と習慣とを異にする日本人に應用して等しく合理的で文明的であり得るとは何人か斷言し能ふや。

斯く云へばとて私は必ずしも椅子制度の住宅を全然排斥しやうとする者ではない、唯現在に見る白人種の住宅に於ける椅子制度は採りて以て我々住宅の規範とする程爾く優越せるものにあらざることを言はんと欲するのである、我等の理想は白人種の文明ではない、白人種の椅子制度を其のまゝ移して以て我等の住宅に試みんとするが如き盲動的な行爲は全然問題にならぬ、坐居の制度を捨てて、椅子の制度に奔らんとする聲の高い今日、私は椅子制度をいかに我等の住宅に適合せしむべく如何に改良すべきかと云ふ事よりも疊の上の坐居の生活をいかに改良せんかを工夫するのは遙に合理的なるものであることを叫ばんとするのである

（未完）



「藻苑」

建築と俳句（二）

蘆田秋双

更に眼を轉じて今人の建築に對する句はどうかと机上にあつた、「カラタチ」の夏の號を披いて覽た。この「カラタチ」といふは現下俳壇に於て最も健全にして優秀な代表的句である。

橘茶店へ棟の花が降つて居る　白花蛇
石灰の納家が重なり爽竹桃　同
立版古店は燈さぬ凉みかな　同
夏菊の藏戸の前に晝凉む　同
門も淋し裏は藪にて灯取虫　同
昔きたての藁屋根壓し若葉哉　汀城
茂る草低き家並に住みなれて　映山樓

町の屋根日和つゞきの薄暑哉　月斗
霞切や村次々に家根低き　士千
厨暗に切る瓜白し行々子　碓川
水樓に人語絶えたり行々子　曠
堂並路夏草に積む大瓦　秋香
海抱いて漁家は日暮れぬ夏木立　愛霞
蟬時雨海が眞近に低き家　爲城
我軒や風鈴に夕日落ちて來つ　梅守
桐に見し風今軸に夏座敷　冬青
藏の影露の青田に長く濃く　馬塘
屋根裏に干竿入るゝ梅雨かな　貞子
塀普請荒壁のまゝ梅雨に入る　綠芳



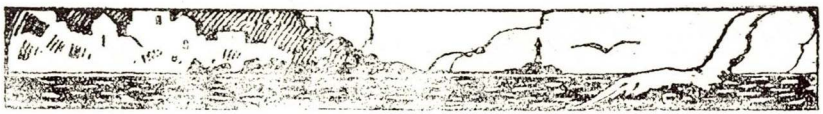
座敷見す提灯淋し梅雨の寺　藤雨
普請場に蛙飛びけり梅雨小草　愛霞
夕立や皮苧を佛間納戸まで　北洲
樓門の高きに日傘たゝみけり　芳花
日傘たゝんで格子を這入る帶の赤　六羊
日傘人を入れてしまふ潜り門　梅史
海樓や唄に背きて夏の月　雪明
山に倚る滄浪閣や夏の月　靜堂

これは「カラタチ」の第七號、第十二號第十三號の中から抽き出した僅かにその一部分に過ぎない。現今の如く數十種にも及ぶ俳誌の全部に亘つて採錄せば其數實に驚くべきものとなるであらう。

斯く今人の句に比し古人の句の少ないのは、時代の經過と共に散逸して傳はらなくなつた爲めである。

今此處に揭げた句は平明單調なる古句に比して、非常に技巧的で、内容も亦復雜になつてゐるが、建築物そのものに對する觀察は古人と何等異つた點はないのである。然し左の句に到つては遖が近代的の色調が濃厚に表出されてゐる。

新開地の街夏草に行き止る　四溜
校舍前の空地夏草の高々と　九芳
橋電燈の灯取虫の二階に歸りたり　幅耳
涼しさや鐵橋渡る汽車の音　甘風
掛札騷ぐ南風に敎室涼し　山杜宇
涼しさや玻璃戸に顔の大いなる　指月城
脫衣室に百台活けてある宿涼し　湖月
夜の門を入りて社宅や夏木立　五山
難波橋より西の夜の色風涼し　六羊
明け放つて洋服を脫ぐ若葉風　烏城
撒水車薄暑の町を泥にする　月斗
堺筋の本町邊が薄暑かな　同
行々子橋の上に車止めてある　北洲
橋走る汽車に陽落ちて行々子　燕子
遠き土木工事の響が來る暑哉　有迷路
長橋を汽車轟かし雲の峰　紅愁
風鈴や撞球に階下騷かしき　之水
玻璃拭くや梅雨の楠うつりある　まさを



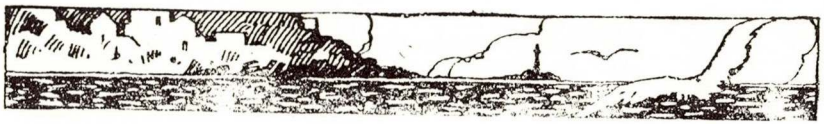
トロッコが投げ出してある梅雨の田に　聲雨
梅雨の町せまく大厦の建つとき　青徑
廊下狹く梅雨の校舍に角力哉　田々子
夕立やアスファルト道を靴で行く　六羊
窓飾を日傘の人が見入るかな　海仙
繪日傘や今は街なる蜆川　汀城
和歌漢詩や又は日本畫では西洋建築が取扱ひ難く如何にも不調和で淺薄であるが、俳句は決してさうでない。如何なるものでも悉くそれを咀嚼し溶解して了ふ丈の同化力を有つてゐる。この點はそれ等のものに比し大いに自由である。殊に鐵橋、學校、敎室、社宅、硝子戸、電燈、トロッコ、アスファルト、などの如き無趣味なものさへ巧みに取材して然しそれを立派に詩化してゐるのは、全く俳句の偉大なる力と謂ふより他はないのである。吾人は建築に從事せられつゝある諸氏が其專門的の眼を以てこの自由なる俳句の詩型によつて縱橫に吟詠されん事を望むのである。

募集俳句

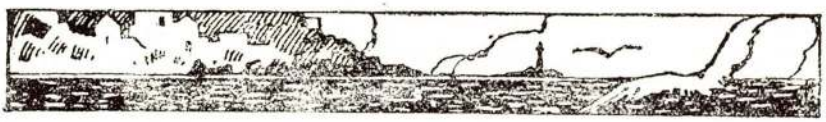
家（夏季）

蘆田秋双選

寢ころんで夏の月見る小家哉　大阪　二郎
新築の家の柱干割暑き哉　同　三可
噴井戸に瓜を冷せし小家かな　同　白濤
茂りの中に白聖の家の高き哉　同　紅濤
家の中に居れば涼しく蟬の聲　京都　石斧
家構ものくしさや夏木立　神戸　素天
落雷の燒松暑し岡の家　大阪　泉石
百性の家に泊りて蚊遣哉　同　午睡



車止に草高々と夏野驛　同　井雨
家の内は燈のともりぬて釣葱　同　支山
瓜番の小屋の灯影に涼み居り　同　工人
灯取虫家は宵から鎖しある　東京　青桐
家の裏は、すぐに青田や螢來る　大阪　窓下
家と家の間の空地や茨の花　同　雨色
倒れかゝりし家其儘や草茂る　同　樋音
家の燈をあてに夏野の夜を來て　京都　紫明
濱風が強く吹く家の香に涼む　大阪　尚巾
我家の普請なりけり蓼の秋　同　すゞ虫
涼む人に只燈がありぬ森の家　同　晴海
沖の灯の蚊帳を透すよ濱の家　同　海
蔦より氷運ぶや山の家　同　風涙
青簾夕餉する見ゆ小家かな　同　同
夏期休暇病める妹と濱の家　同　松風
高き家の窓の光りや松涼し　同　同
網干して漁夫の晝寢や濱の家　同　松葉
明け渡す家でありけり蟬しぐれ　同　同
家に灯の入りて青田の風となる　同　坂水
杜若流れに沿ふて家五軒　同　同
雨一過木犀匂ふ小家かな　同　井雨
普請小屋雨に淋しや蝸牛　同　同
家の内はすでに暮れたる涼み哉　同　烏白
行水の狹き我家に歸りけり　同　同
家の前はすぐ大河や蚊喰鳥　京都　白川
鴨川にのぞみ家建ち蚊喰鳥　同　同
家を出て森まで近く夕涼み　同　同
河岸の家舟から見られつゝ慈　同　同
蓮の香や明け放つ家の朝燈　住吉　澪子
家をめぐりて茂る木立どうにけり　同　同
住みなれし家の暗さや庭茂り　同　同
灯ともさで家に人ある納涼哉　同　同
夕燒の二階の窓や夏の海　大阪　大津
洋館の窓や涼しきポプラ風　同　同
山裾に草刈賣る家や柿若葉　同　同
夕立つ湖を眼前に見る二階かな　同　同
家々の灯水にゆらぐや橋涼み　同　司
裏庭が見ゆ透く家や午睡せり　同　同
山櫻の靜かさに居り晝寢哉　大阪　曉天
本堂の涼しさ疊數へけり　同　同



蔦茂り教會堂を支ふかな　同　同
工場の湯吐く流れに行水す　同　同
家廣し小供健かに柏餅　同　同
新築の家廣々と青簾　同　同
涼しさや青田の中の家一つ　東京　無外
江の口に家片寄りて青嵐　同　同
家並皆ポプラ蔭する涼しけれ　同　同
家々の燈に親しめる青田かな　同　同
砂原にみな向く家や草いきれ　同　同
馬に蚊帳吊れる家毎や栗の花　同　同
夕顔や家傳の藥ひさぐ家　同　同

人

東京牛込　早稻田大學理工科
馬に蚊帳吊れる家毎や栗の花　無外

地

大阪順慶町三　森方
家に灯の入りて青田は風となる　坡水

天

大阪博勞町四丁目
明渡す家でありけり蟬時雨　松葉

選者吟

両隣借家となりぬ門納涼
橋の上より見ゆる我家や夕納涼
雨の漏る家に住みけり蚊喰鳥
借家探がしに今日も出て行く暑さかな
家暑し蔭になる樹を伐られたる
我家のせまきになれて晝寢かな
家の狹きに多き子供や灯取虫

次號課題

◆課題　町（秋季結）
◆期限　八月十五日
◆句數　制限なし
◆用紙　隨意
◆住所氏名明記の事
◆締切と社會句稿と表記する事
◆天地人には徽景を呈す
◆投稿所

大阪市北區東梅枝町
蘆田秋双



〔時報〕

●都市計畫委員任命

左の通り都市計畫地方委員會委員の任命ありたり

内務監察官並內務省參事官　池田　宏
大阪稅關長　杉　一郎
陸軍騎兵大佐　高洲一萬太郎
海軍少將　布目　滿造
遞信局長　河合　鷲
大阪府內務部長　上田　萬平
大阪府警察部長　田中　千里
大阪市會議員　樋口伊之助
大阪府會議員　大橋房太郎
同　青田　勝晴
同　井上嘉兵衛
大阪市助役法學博士　關　一
大阪市港灣部長兼大阪市都市計畫部長工學博士　直木倫太郎
正四位勳三等　岡崎　芳樹
從四位勳五等醫學博士　佐多　愛彦
勳四等　今西林三郎
勳四等　秋岡　義一
從五位勳五等工學博士　岡　胤信
片岡　安　永田　仁助
山岡順太郎
都市計畫大阪地方委員會委員被仰付（各通）
鐵道院技師　高橋　三省
都市計畫大阪地方委員會臨時委員被仰付
大阪府技師　田中　吉二
大阪市技師　岩田　成實
都市計畫大阪地方委員會幹事被仰付（各通）
內務監察官兼內務省參事官　池田　宏
神戶稅關長　松本　脩
遞信局長　河合　鷲
鐵道局長　大道　亙太
兵庫縣內務部長　成毛　基雄
兵庫縣警察部長　山岡　國利
兵庫縣港務官　鈴木　寬
神戶市助役　乾　長次郎
神戶市都市計畫部長　濱野瀰四郎
正四位勳三等工學博士　武笠清太郎
勳四等　田村　新吉
正六位勳六等　河合　浩藏
正六位　川西清兵衛
從四位工學博士　立原　任
瀧川　儀作
兵庫縣會議員　山脇　延吉
同　上村　盛治
都市計畫神戶地方委員會委員被仰付（各通）
中西　鐵馬
鐵道技師　高橋　三省



噫、Josiah Conder 博士

日本建築協會名譽賛助員にして、東京帝國大學名譽教授内務省顧問勳三等工學博士なるジヨサイヤ・コンデル氏は曩に腦軟化症に罹りて爾來療養中、更に他症の併發に因り、終に、六月二十二日を以て永への眠りに入る、惜悼哀愁禁ぜざへむ。博士は、一八五二年英京倫敦に生れ、長じて建築學殊に建築意匠に造詣深く、年齒尚自立に充たずして夙くも我邦の召聘に應じ、明治九年初めて我内閣講武所技術課、工學寮、内匠寮等の出仕に任を負ひ以來四十有餘年間我邦の最高學府に其他建築育英の事に從ひ、學殖德望共斯界の重鎭たりき。而して、我邦に於ける大建築物にして博士の設計に仍り、現に雄渾華麗の蹟を遺せるもの鮮なからず、寔に以て我建築界如今の進展を成せること、蓋し博士の貢獻に負ふ處篤し。而して今や我建築界は斯の一明星を喪つて頓に寂漠の感莫きを得ず、我日本建築協會亦博士の指導に俟つ處多くして今は亡し、噫。我誌茲に英肖を具して、恭しく哀悼の赤誠を披瀝するに喃。

都市計畫神戸地方委員會臨時委員被仰付

兵庫縣事務官　一岡　二期
神戸市技師　淺見　忠次

都市計畫神戸地方委員會幹事被仰付（各通）

內務監察官兼內務省參事官　宮內事務官　高橋　其三
大阪稅務監督局長　樋　正篤
陸軍步兵中佐　島田　艮一
京都帝國大學事務官　岡本　一郎
遞信局長　河合　鷲
鐵道局長　大道　良太
京都府內務部長　大海原重義
京都府警察部長　藤沼　庄平
京都市會議員法學博士　大井　清一
同法學博士　佐藤丑次郎
京都府會議員　津田　明巖
同　中川新太郎
同　久保長次郎
京都市技師　永田兵三郎
從三位勳二等工學博士　田邊　朔郎
從三位勳三等法學博士　田島　錦治
勳二等　奧　繁三郎
從三位勳四等　內貴甚三郎
從五位勳學博士　小川達五郎
正六位勳四等　濱岡　光哲
正六位醫學博士　戶田　正三
松風　嘉定

都市計畫京都地方委員會委員被仰付（各通）

鐵道技師　高橋　三省

都市計畫京都地方委員會臨時委員被仰付

京都府技師　辺　新三郎
京都市技師　永田兵三郎

都市計畫京都地方委員會幹事被仰付（各通）

內務監察官兼內務省參事官　池田　宏
名古屋稅務監督局長　礫野定次郎
陸軍步兵大佐　奧村　拓治
遞信局長　中西　四郎
鐵道局長　村井二郎吉
愛知縣內務部長　小幡　豐治
愛知縣警察部長　新開　滌觀
名古屋市助役　淺山　正名
名古屋都市計畫部長　奧村　長作
從五位勳四等工學博士　武田　五一
勳四等　三輪市太郎
從五位勳六等　神山　和雄
上遠野富之助
瀧　定助
愛知縣會議員　石原秀治郎
同　藍川　清成
同　瀨川　喜助

都市計畫名古屋地方委員會委員被仰付（各通）

●都市計畫區域成案

都市計畫地方委員會第一回委員會は臨時議會閉會後開會せらるべき由にて其際內務大臣より諮問せらるべき問題は都市計畫地域執行年度割並之に伴ふべき財源調達等なるが先づ都市計畫の範圍を定むべき區域は豫て大阪府市當局者に於て協議內定の上內務省に具申したり大體之を基本として內務大臣より諮問ある筈なるが其區域は(一)北は神崎川に沿ひ國界線を連ね南豐島村の北西を猪名川に沿ひて上り岡町の北新免より更に三島郡千里村北界に至り(二)東は岸部村の一部を通じて吹田町を包含し淀川の北岸中島村に入り更に淀川を橫ぎつて守口町を連れ古宮村より寢屋川を渡り榎本村今津を通じ高井田村中河內郡に入り小阪村八尾町に至り(三)南は龍華村長吉村瓜割村數津村を連れたる大和川を以て界とし(四)西は海岸に到る範圍にして同區域內の道路に對する工事は

之を全然都市計畫の事業と爲すか或は區域内の道路と雖も府縣道に對しては府の事業として都市計畫の趣旨に副ひたる工事を施すか未だ確定し居らざるものゝ如きも多分府の事業として實施せらるゝに至るべく更に都市計畫執行年度割としては先づ第一期年度割を決定する筈にて道路計畫第一期事業は七箇年の繼續事業にして其豫算總額一億四千萬圓（其内三分の一は國庫補助）に上り舊道舖裝軒先切取等の爲に用ひられ之が財源に就ては市に於て夫々考案調査中なるが特別稅に關しては勅令の發布を俟たざれば確定に至らず。

●大阪市特別市制案

大阪市特別市制に就ては曩に大正六年十月期成同盟會成立し法律案作成の上委員上京運動の結果衆議院に於て建議案の提出となり七年三月二十日同院を通過し尚同年一月市會に於ても特別市制に關し建議案の提出あり可決上正副議長上京して當路の大臣各政黨首府に陳情するところありしが最近又聞附より市に對し諮詢するところありしかば答申の中に市長の改正意見として別記の如く大阪市に對する特別市制案を具し六月二十九日付附に提出せり迫て内務省に回附せらるべきが七月八日市より大阪市選出代議士に宛て從來の經過並に參考書を添へて特別市制制定に關し盡力ある樣依頼狀を發したり。

大阪市に對する特別市制

一、大阪市を府の縣區域外とし府縣と對立せしむること

二、大阪市は勅令の定むる所に依り其の市内に於ける衛生、交通、建築、消防並營業及市場の取締に關する警察事務を處理する事

三、他の法令に於て地方長官の職權に屬せしめたる事項は大阪市に付ては市長の職權に屬せしむること但し前項に揭ぐるもの以外の警察事務に付ては此の限に在らざること

四、市制中市稅の賦課に關する規定の外府縣稅及賦金に關する法令の規定を準用すること

五、大阪市の監督に付ては市制第百六十五條及第百六十六條の外府縣制第六章の規定を準用すること

六、市制中府縣知事又は府縣參事會の權限に屬する事項は内務大臣之を行ふこと

七、市制中府縣參事會の裁決に關し出訴し得べき事項に付ては其の裁決を經ずして直に行政裁判所に出訴することを得べきこと

八、市制中府縣參事會に於て市會又は市參事會に代りて處置すべき事項は内務大臣の許可を經て市長之を處置し次の市參事會に報告すべきこと

九、市吏員の懲戒に關しては別に勅令を以て之を定むること

十、前各項に規定するもの外は總て市制の規定に據ること

（理由）大阪市の如き大都市は人口僅に三四萬の都市と同樣に府縣の下に置きて二重の監督に服せしむるは市政運用上多大の障害を來し當を得たるものと謂ふべからず故に之に對して特別市制を施行し以て大都市行政の敏活と發展とを圖らむとするにあり

●大阪府人口及戸數

大阪大正八年十二月末現在大阪府人口及戸

數調査は過般漸く完了したるが其結果に依れば本籍人口總數百九十萬三千八百八十九人現在住人口總數二百八十七萬七千七百十八人現住戸數總數五十六萬三千三十三戸にして前年度に比して郡部は戸數に於て泉南中河内兩郡の減少したる外全部增加し居れるも太阪市に於ては各區共人口或は戸數に於て減少を來せるが這は經濟界の影響に依るものと云ふの外なかるべく區及郡市別左の如し

區	人口	戸數	前年度に比し人口戸數の增減	
西區	四三、四四七	八三、五七七	九、六六五減	一、六六增
南區	四九三、七〇七	一〇八、九三五	七、五七三減	一、八一〇減
東區	二九〇、八九三	五三、一六	二四、五一八減	四、九六三減
北區	三六八、六〇三	七一、五一九	七、九三三減	一、五九五增
計	一、五八三、六五〇	三一六、一七	四九、六八八減	五、〇六二減
堺市	七六、五四〇	一四、二四	一、六四〇增	一四三增
西成	二四九、六三七	五七、八七七	二九、七〇五增	七、一四一增
東成	二〇一、一〇一	四六、一二三	二一、〇九四增	三、五四三增
三島	八三、六五八	一五、三五五	一、六七五增	一四九增
豐能	六一、九一〇	一、六六七增	三六八增	
泉北	二九、五四八	三、四三七增	八〇九增	
泉南	一四九、四九八	二、一八一增	九四減	
南河內	一三三、六〇一	三、一〇五增	九增	
中河內	一二七、六九七	二、一三九增	一二減	
北河內	九〇、八七八	一、四〇八增	六增	
合計	二、八七七、七一八	五六三、〇三三	一、六三七減	五、九九三增

●土地差益稅課率

大阪市都市計畫財源に就いては此程來市財務課及都市計畫部にて調査中なりしが昨今具體的成案を得たるを以て政府に財政計畫上萬已むを得ざる場合には特別稅地租附加稅を賦課せんとする方針なりと然し都市計畫財源として賦課さるゝ土地增價稅の課率は未だ都市計畫施行令が發表されざる爲明確に決定し得ざるも大阪市が當局の意を受けて調査せる課率は土地增價額の百分の二十五にして是れに依つて市の土地增價稅收入を考案せば大正八年度には三百五十五萬圓に達する勘定となる而してこの土地增價額算出の基礎は現在市が不動産の移動に賦課せる歩一稅の課率が登記額の六十分の一にして八年度の其收入が百八十萬圓に上り其登記額は一億八百萬圓にして其三分の一を建物とし三分の二を土地價額とし土地增價額を平均二割とし是れに百分の二十ヵ即ち四分の一の土地增價稅を課せるものなり是れは最も昨年度に於ける財界の特殊事情の發生に依れるものにして大正三年度迄は三千萬圓位なりしが以降逐次增加し五千萬圓と見るときは最も安全にして其收入は百七十萬圓に達す市は此の危險率勘き土地增價稅を基本財源とし次いで間地稅を賦課す建坪の三倍以上宅地を占有するもの及空地の儘に放置するものに間地稅を

課せらるゝにあるが坪一箇年平均十錢とするも築港四百萬坪の空地のみで優に四十萬圓の稅源を得べし而して特別賦課は市區改正道路の土地所有者に賦課さるゝに在り事業年度は七箇年にして本年度は三百萬圓を起債に求むる豫定なるが起債に就いては市理事者に於て十分の確信ありといふ。

●大阪市下水政良計畫

大阪市は目下十年計畫を以て下水道の完成を急ぎつゝあるが福島、三軒家、築港方面は此の計畫以外に置かれあるも市當局に於ては此の設備をも必要とし今回其の計畫を立て都市計畫事業の一部として實施することゝなれり而して其の工法は從來市の他の部分に於て行はれたるものと同一にして雨水と汚水とを合流せしむるものと成し福島方面の下水は西野田新家西の町なる既設部に三軒家方面の下水は落合上渡附近に於て木津川へ築港方面の下水は甚兵衞渡下流に於て尻無川に放流すべく此の經費見積八百萬圓は目下財源捻出を考慮中又全市の下水道改良に關しては都市計畫事業に伴ひ市の面目一新するに至らば高層建築區域等に於ては到底現狀のまゝにて滿足すべからざれば之れに相應せる設備を以て部分を劃りて改良工事に着手すべしといふ尙目下渡歐中の直木都市計畫部長及び野田衞生試驗所長は大阪に適當せる下水道新式工法の研究について大なる使命を帶べりと

●道路材料試驗所

道路改良會は七月七日夜麴町區永樂町の事務所に理事會を開き作年來の懸案たる道路材料中央試驗所を內務省所管として設立するやう首、內、藏各相に建議することを決議せり右に就き同會幹事牧博士は語る『日本の道路には日本の氣候風土に適した材料を選擇せればならぬ其研究をしやらといふのが此の企ての眼目で設立地は未定であるが東京府下の瓦斯電氣に差支へない便利な場所にする積りだし約費は約三十萬圓を大正十年度の豫算に組んで貰ふ積りだ附帶事業としては道路に關する小雜誌全國の道路材料地圖をも發行して道路に關する通俗敎育の普及をも計り度い』云々と。



編輯

○前回編輯會議に於て決議せる事項は、前號より漸次實行致しまして、多少内容等に就ても一層充實したのでムいますが、本號も亦一般と改善した筈でムいます、折角御留意を希います。

○現に六百有餘を有する我會員各位の中には、隨分御研究になつた事項や、又は所謂『言はざるは腹ふくるゝ業ざ』なる御意見も多々御ありの事と存ぜられますが、折角本誌を是に提供してあるに御利用なき事は寔に遺憾な事ではあるまいかと存じます。

〔會報〕

會合

◉理事會

日時　七月七日午後六時半—九時半

會場　日本建築協會事務所

出席所　片岡、宗、舟橋、吉井、設樂　葛野、江村(編)

記事　(一)小川久太郎君外八名より入會希望申出に對して詮衡の結果、別項の通り入會を承認せり(二)明正社より申出に係る道路鋪裝作業の活動寫眞を日本建築協會主催として大阪市中央公會堂に於て開催することゝ及之が諸般の調査を爲すことを取り極む(三)吉井理事より、去る六月十六日編輯會議にて決議せる事項を報告し二三變更の外全部承認(四)舟橋理事より協會會計の現狀に就て報告あり(五)來る例會に於て波江悌夫君に前回に引き續き講演を請ふ事に決す(六)大阪府建築物取締規則中煖房機關設置距離及避雷針設置に就て規定取扱ひ手續の變更を求むべく第一部委員會開催を爲すことに決す(七)内藤第一部委員會委員長より『市街地建築物法施行規則修正案』に就て委員會の修正決議事項の報告あり

日時

◉第七部委員會

七月十二日午後六時半九—時半

會場　日本建築協會事務所
出席者　瀨戸(文)、小林、大原　須川、小笠原　置鹽、波江
記事　建築材料聯合調査會議案中前回に引續き審議す

◉第一部委員會

日時　七月十三日午後六時半—九時半
會場　日本建築協會事務所
記事　前記煖房蓮關避雷針の件に就て審議す

◉例會

日時　七月十七日午後六時半—十時
會場　日本建築協會事務所
出席者　小笠原、内藤、佐藤(彰)、竹中(景)、森(篤)、櫃雄、宗、高柳、竹田、谷、波江、大原、青田、置鹽、菱田、平島　井上(貫)、新澤、山本(辰)、村野、岡本、池村、江村(編)、
記事　(一)宗主記より別項七月七日の理事會に於て承認せる新入會員の報告あり(二)當日は出席者定數に充たざるも、會則第五條第二號中『金百圓以上』とあるを『金五百圓以上』と改正の件を附議して假決議となせるが『參百圓以上』との修正動議ありて採決の結果之に決す。(三)八月の例會は休止する事に決す(四)内藤第一部委員會委員長より、別項第一部委員會の決議に係る煖房機關及避雷針の件に就て決議事項の報告あり、追て大阪府當局に請願することゝなし　其辭句は理事者へ一任する事となれり。(五)右了りて、沈江悌夫君の『都市計畫に就て』と題する第二回講演ありき。

會員消息

◉新入會員

別項の如く詮衡の結果左記の通り新入會者ありたり

(會員)　小川久太郎君　西山　銀吉君
　　魚住　儀一君
(普通贊助員)　進藤　朝一君　山村　榮吉君
　　武貞　文三君　多賀　悌三君
(特別贊助員)　武安　笑吾君　村松　英一君

◉學位授與

當協會理事長片岡安君は今回工學博士の學位を授與せらるゝこと、成り、去る二十六日文部省に於て其授與式を行はれたり、仍て當協會より直ちに祝電を發せり。

◉住所移轉

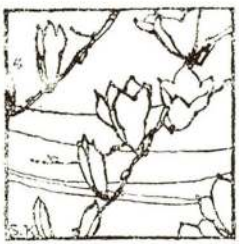
(會員)　(移轉先)
原田　俊雄君　上海東有恒路三六號
小寺　彌一君　大阪市東區北濱五丁目住友總本店營繕課
籠田　定憲君　南滿洲奉天滿鐵工務事務所
大橋　精一君　(移轉先)　西區市岡町六八六ノ二
(普通贊助員)
兒玉廣太郎君　京都市烏丸四條上る近江銀行支店建築場
影山　丈夫君　大阪市西區九條中通四丁目三九七九番地
東原市深川區越中島町五番地土村辰藏方
土村　壽吉君　廣島縣神石郡新坂村落合
時田泰三郎君　兩備水電株式會社派出所
靜岡縣田方郡三島野戰重砲兵第三聯隊新築工場大林組内
瀨上　友吉君　大阪府豐能郡中豐島村長興寺七一
山崎　孝麿君

圖書

◉寄贈

建築雜誌　第三四輯第四〇二號(建築學會)
建築世界　第十四卷第七號(建築世界社)
住宅　第五卷第七號
工業之大日本　第十七卷第七號(工業の大日本社)
電氣協會雜誌　第三八三號(電氣協會)
材木新聞(毎號)　(其社)
建築評論　第二卷第五號　(最築評論社)
工業の友　第一五八號(工手學校同窓會)
商工時報　第二十九號(大阪市役所)

巴里市衛生警察令



巴里市衛生警察令

巴里市衛生規則ヲ定ムル千九百〇四年六月廿二日附警視廳令予警視總監ハ千七百九十年八月十六日并ニ廿二日附ノ法律共ニ曆第八年十月(メシドール)十二日附總督ノ達并ニ千九百〇三年四月七日附ノ法律ヲ以テ改正セラレタル千九百〇二年二月十五日附ノ法律ヲ考量シ又千九百〇二年二月十五日附法律第一條ニ規定シタル衛生規則ニ關スル巴里市會ノ討議及ビ「セーチ」縣公共衛生會ガ發表シタル意見并ニ千九百四年一月廿七日并ニ同年三月二日附內閣總理大臣及ビ內務大臣ノ訓令ニ基キ左ノ條文ヲ布告スルモノナリ

第一節　交通ノ安全便利ニ關スル公道ノ清潔法

第一條　特ニ許可ヲ得タル場合ヲ除キ公道(町、廣場、埠頭、艀船場、堤等)ノ如何ナル場所ニ於テモ其性質ノ如何ヲ問ハズ其時刻ニ係ハラズ汚物ノ堆積ヲナスベカラズ又前記ノ場所ニ家屋ノ掃除ヨリ來ル汚物又ハ廢物ヲ棄ツベカラズ、又前記ノ場所ニ於テ四月一日ヨリ九月三十日迄ハ午前八時以後十月一日ヨリ三月三十一日迄ハ午前九時以後ニ於テ敷物、窓掛其他ノ巾ヲ持出シ其塵埃ヲ打拂ヒ掃除スルコトヲ禁ズ

第二條　家庭用若クハ其他ノ廢水ヲ下水渠ヲ備ヘタル公道上ニ棄ツルコトヲ禁ズ但家屋ノ前面、門、玄關、店ノ前面等ノ洗滌ニ使用シタル水ハ此限リニアラズ、撒水ヲ此等ノ洗滌ニ用ユベカラズ

公道若クハ其隣接地ニ於テ實行スル工事ノ請負人ハ其作業場ニ接近セル公道及ビ工事ノ爲メニ汚レタル公道ノ總テノ場所ヲ清潔ニ掃除スベキモノトス又公道ノ溝ノ流通ヲ阻害スベカラザルモノトス

第三條　地形工事ヨリ生ズル土及ビ撒物ハ其必要アル時ハ之レヲ消毒スベキモノトス而シテ如何ナル場合ト雖直チニ之レヲ芥捨場ニ運搬シ去ルベキモノトス

第四條　家屋ノ取壞ヲ爲ス時ハ豫メ穴藏、地下室、上下ノ各階段ヲ掃除スベキモノトス而テ種々雜多ノ芥、汚物、紙屑、古巾等ハ其場ニ於テ燒棄スベキモノトス

總テテ固定又ハ動スコトヲ得ル溜、井戸、流シ、腐敗スベキ物体ノ堆積セル爲メニ有毒トナリタル穴藏、私設ト水渠若クハ地下溝等ノ汲取浚渫埋立若クハ乾涸ナスベキモノトス又大壁及ビ間壁ノ消毒スベキモノトス其方法ハ假令ハ綠礬ノ溶解液ヲ撒布シ新タニ造リタル石灰水ヲ塗ルモ

ノトス、溜ノ汲取、井戸及ビ流シノ乾溷ハ現行法規ニ從ヒ殊ニ千八百三十八年七月二十日附警察令ニ從ヒ之レヲ行フベキモノトス

下層ノ床以下ニ於テ家ノ基礎ヲ取壞ハシ殊ニ穴藏ノ周圍古ルキ溜若クハ古ルキ下水其他總テ地下ニアル穴ノ取壞チナス時ハ其材料土中ヨリ出ツル瘴物、取出シタル有毒ナル土等ニシテ健康ヲ害シ公共ノ衛生ニ害ヲ及ボシ風土病、流行傳染病等ヲ釀ス恐レアリト認メラルヽモノハ消毒劑假令ハ一「メートル」立方ニ付生石灰一「キログラム」ト綠礬五百「グラム」ノ割合ニテ調合シタルモノヲ撒布シ消毒スルヲ要ス

取壞ヨリ生ズル瘴物及ビ土ハ芥捨場以外ニ之レヲ運搬スベカラズ、特別ノ場合(便所ノ溜及ビ古ルキ下水ヨリ漏レ出デタル汚水ノ爲メニ有毒トナリタル土)ニハ地上ニ少シモ遺棄スルヲノ恐レナキ蓋ヲ有スル車ニ入レ其筋ノ認可シタル肥料置場ニ之レヲ運搬スベキモノトス、近隣ニ埃ノ達スル恐レナキ樣必要ナル總テノ方法ヲ採ルベキモノトス、積込、運搬、積卸ハ其性質ノ如何ニ係ハラズ總テ公道ヲ汚スヲナク又通行人ノ妨害トナラザル條件ノ下ニ之レヲナスベキモノトス

第六條 上記ノ條文ニ示シタル規定ハ千八百五十三年九月一日、千八百六十二年七月廿五日千九百年七月十日(第三百六十九條)ノ警察令ニ示シタル規定ニ追加スルモノトス

第二節 家具附貸間ノ清潔法

第一章 在來ノ家具附貸間

第七條 一室ニ入ルヽヲ得ル借受人ノ數ハ其室內ニ含マルヽ空氣ノ量ニ比例スルモノトス、其分量ハ一人ニ付十四「メートル」立方ヲ決シテ下ルヲ得ズ、又天井迄ノ室ノ高サハ二「メートル」半ヲ下ルヲ得ザルモノトス

一室ニ入ルヽヲ得ベキ人數ノ最大限ハ之レヲ其室內ニ明示シ置クベキモノトス

第八條 下層以上ニ在ル各段階ノ床ハ阻水的ノ材料ニテ之レヲ造ルカ又ハ阻水的ノ材料ヲ以テ造ラザルモ之レニ阻水的ノ設備ヲ加ヘ阻水的ノモノトシテ屢々洗滌スルヲ得ベキ構造トナスベキモノトス

下層ニアル室、穴藏又ハ平地ノ上ニアル室ノ床ハ必ラズ阻水的ノ構造トナスベキモノトス

壁、間仕切、天井ハ漆喰ニテ塗リ清潔ニ之ヲ保存スベキモノトス猶又其上ニ「ペンキ」ヲ塗リ又ハ石灰水ノ上塗ヲ施コスヲ可トス「ペンキ」塗ハ毎年灰汁洗ヲ爲シ又其必要ニ應ジ塗替ヲ爲スモノトス

一室又ハ二室ノ寢臺ヲ有スル室ヲ除キテハ紙張ヲ爲スヲ得ズ而シテ張リタル紙ハ必要ト認ムル都度之レヲ張替スベキモノトス

第九條 室內ニ適當ナル通風ヲ爲サシムルヲ要ス

合宿室即チ四人以上ノ居住者ノ有スル室ニアリテハ一ケ所ノ煙突ヲ備フルカ若クハ他ノ永久的ナル通風法ヲ採用スベキモノトス

前記ノ合宿室ニ入ルヽヲ得ル人數ノ最大限ハ各室ノ入口又ハ其附近ニ「ペンキ」ヲ以テ明瞭ニ揭示スベシ

第十條 下層ニアル室ニシテ濕氣ノ形跡ヲ認メラルヽモノニアリテハ其室ノ壁ハ其下部ニ於テ少クトモ一「メートル」五十「センチメートル」ノ高サ迄壁ヨリ離レタ

ル板羽目ヲ設クルカ若クハ阻水的漆喰塗ヲ爲スベキモノトス

第十一條 直接ニ光線ヲ受ケザル室又ハ直接ニ光線ヲ受クル廣間又ハ中廊下ニ面シ空氣ト光線ヲ受ケザル室ヲ家具附ノ貸間トヲ爲スコトヲ得ズ

直接ニ光線ヲ受クル廣間又ハ中廊下ニ面シ空氣、光線ヲ受クル室ニアリテハ煙突ヲ設クルカ若クハ他ノ永久的通風法ヲ採用スベキモノトス、二人以上ヲ入ルヽ普通室及ビ合宿室ハ直接ニ光線ヲ受クルコヲ要ス

第十二條 地下室又ハ穴藏ヲ貸間ニシテ貸付クルコヲ禁ズ

第十三條 金屬製ノ煙出管ヲシテ寢室內ヲ通過セシムルコヲ得ズ

第十四條 便所ハ少クモ二十人ニ付一ケ所ノ割合ニテ之レヲ設クベキモノトス

第十五條 便器ハ亞鉛華ニテ之レヲ塗リ常ニ清潔ニナシ充分空氣ヲ流通セシメ又直接ニ光線ヲ引クコヲ要ス

水溜又ハ水管ヲ備ヘ洗滌ノ用ニ供スベキモノトス、水溜又ハ水管ナキ時ハ每日消毒液ヲ用ヒ消毒スベキモノトス其消毒液ハ假令ヘ綠礬五十「グラム」ト水一「リツトル」ノ割合ニテ造リ又常ニ此消毒液數「リツトル」ヲ便所內ニ備ヘ置クベキモノトス

便器ハ排泄物ノ重量ニ因リテ運用スルモノニアラザル自働閉塞機ヲ備フベキモノトス、所轄官廳ガ必要ト認ムル時ハ閉塞作用ヲ有スル水塞ヲ排出孔口ノ下ニ設クベキモノトス

便器ノ內部ハ阻水的ノ材料ヲ以テ之レヲ造リ下降管ノ方向ニ向ヒ自動塞機ノ上ニ液体ヲ流ガスニ便ナル傾斜ヲ有スル鉢形ニ之レヲ造ルベキモノトス

前記ノ三節ニ示シタル規定ハ藏尿ヲ直接下水渠ニ排出スル家屋ニハ之レヲ適用セザルモノトス

小便所ノ設ケアル時ハ其便器ハ阻水的ノ腐蝕セザル材料ニテ之レヲ造リ洗滌用迫水ヲ充分ニ流カスコトヲ得ベキ設備ヲナスベキモノトス、然ラザレバ之レト同等ノ或ル他ノ方法ニ依リ消毒シ排泄管ト連結スル前ニ永久的閉塞機ヲ備フベキモノトス

第十六條 中廊下、階段、階段ト階段トノ間ニアル場所、便所ハ蠟磨又ハ「ペンキ」塗ニアラザレバ室ノ爲メニ定メタル規定ト同一ノ規定ニ依リ屢々洗滌スベキモノトス

「ペンキ」ハ鮮明ナル色ヲ撰ムモノトス

家庭用水ノ流場ハ閉塞機ヲ備ヘ前條ニ於テ示シタル通リ之レヲ洗滌シ且消毒スベキモノトス、雨水及ビ家庭用汚水ヲ排泄スル樋、溝、管等モ亦同一ノ注意ヲ以テ手入スベキモノトス

第十七條 中庭馬屋馬車置場、流シ、水槽場洗面所又ハ化粧室風呂槽等ニ於ケル廢水ノ排泄孔口ハ各々下降管又ハ排泄管ト連結スル先キニ閉塞機ヲ備フベキモノトス

第十八條 家具附貸家ハ各々其衛生ト清潔ヲ確保シ借家人ノ必要ニ應ズルニ足ルベキ充分ナル飲料水ヲ供給スベキモノトス

第十九條 貸家內ニ傳染病又ハ流行病患者アル時ハ其都度所轄官廳ノ公醫ハ疾病ノ性質ヲ調査シ其傳染ヲ豫防スル爲メニ適當ナル手段ヲ採ラシムル爲メ出張スベシ家主ハ公醫臨檢ノ結果其筋ヨリ達セラルヽ命令ニ服從スベキモノトス

患者ノ隔離被服等ノ消毒及ビ室內ノ消毒

ニ關スル命令ハ特ニ之レヲ遵奉スベキモノトス

第二章　在來ノ家屋内ニ設クル家具附貸間

第二十條　家具附貸間ハ借受人ノ數ヲ標準トシ計算シタル空氣ノ立方量ヲ有スベキモノトス

一人ニ付最少限ノ空氣ノ量ハ若シ貸間カ下層又ハ二階ニ在ルカ又ハ直接ニ光線ト空氣ヲ受クル中廊下ニ向ヒテ窓ヲ有スル外他ニ窓ヲ有セザルトキハ十八「メートル」立方トス若シ貸間カ二階以上ニ在リテ直接ニ空氣ト光線ヲ受クルモノハ十六「メートル」立方トス

二人ニテ住居スル室ハ廿八「メートル」立方ノ空氣ヲ要ス而シテ三人ニテ住居セル室ハ四十「メートル」立方ヲ降ルコトヲ得ズ此等ノ室ニ於ケル空氣ノ量ヲ計算スルニ當リテハ十二才以下ノ小兒二名ヲ大人一人ト見做スモノトス

第二十一條　第一章ノ規定ニシテ前條ノ規定ニ抵觸セザルモノヨリ適用ス

普通室及ビ合宿室ハ適當ニ通風シ煙突若クハ他ノ永久的通風機ヲ備フベキモノトス

便器ノ排泄孔口ハ永久的ノ密閉機ヲ備ヘ下降管内ノ空氣ト便所内ノ空氣トノ流通ヲ全然防止スルコトヲ要ス、便所ハ排泄ノ都度便器ヲ洗滌シ汚物ヲ流カスニ足ル追水ヲ生スル爲メニ必要ナル水量ヲ便器ニ流スベキ設備ヲナスベキモノトス

第三章　此親則發布以後ニ建築セラルヽ家屋内ニ設クル家具附貸間

第二十二條　一人ニ對スル空氣ノ量ハ最少限廿「メートル」立方ト定ム

第二十三條　此等ノ貸間ハ又前記第廿二條ノ規定及ビ千九百〇二年八月十三日ノ大統領令及ビ「セーヌ」縣ノ衛生規則ノ規定ニ抵觸セザル限リ第一章並ニ第二章ノ規定ニ從フベキモノトス

第三節　傳染病ノ豫防

第二十四條　病氣ノ届出千九百〇二年二月十五日附法律第五條ニ基キ爲スベキ病氣ノ届出ハ警視廳（課生課）ニ宛差出スベキモノトス

第二十五條　患者ノ隔離――届出ヲ要スル傳染病ノ一ツニ罹リタル者ハ其空氣ヲ他人ニ傳染スルコト能ハザル樣隔離スベシ、

患者ニ接近スベキ人々ハ傳染ヲ避クル爲メニ必要ナル豫防法ヲ採ルベキモノトス

如何ナル場合ト雖モ衆人ノ出入スル場所ニ於テ患者ノ看護ヲ爲スコトヲ得ス

第二十六條　患者ノ運搬――届出ヲ要スル傳染病ニ罹リタル患者ヲ普通ノ馬車ニテ運搬スルコトヲ得ザルモノトス

特別ノ場合ニ於テ萬一普通ノ馬車ヲ以テ傳染病者ヲ運搬スルコトアル時ハ其馬車ハ直チニ消毒スベシ

第二十七條　種痘再種痘――乳母保姆若クハ里親ハ天然痘豫防ノ爲メニスル種痘ニ關スル法律ノ義務ヲ果タサヾル小兒ヲ預カルコトヲ得ザルモノトス

第二十八條　傳染病流行國ヨリ來ル旅人――傳染病流行地ト公認セラレタル國ヨリ來ル旅人ハ巴里到着後廿四時間以内ニ國境ニ於テ下付セラレタル檢疫証ニ自己ノ住所ヲ明記シ警視廳（衛生課）ニ送付スルコトヲ要ス檢疫醫ハ其人ノ健康狀態ヲ臨檢スベシ

第二十九條　船車ノ消毒――旅客輸送ノ爲メ共用ニ使用スル輸送材料、乘合馬車、鐵

道車、船、鐵道列車、地下鐵道列車等）並ニ
辻馬車ハ其筋ノ要求アル時ハ之レニ消毒
ヲ施スベキモノトス

第三十條　死骸ノ運搬――届出ヲ要スル疾
病ノ一ツニ罹リ死亡シタル者ノ遺骸ハ「
セーヌ」縣内ニアル墓地ノ一ツニ埋葬ス
ルモノトス

遺骸ヲ阻水的ノ金屬製ノ棺ニ納ムルニア
ラザレバ縣ノ管轄地域内ニ於テ其距離ノ
長短ニ拘ハラズ運搬許可狀ノ下附ヲ受ク
ルコトヲ得ズ

第三十一條　前記ノ規則ニ違反スル時ハ千
九百〇二年二月十五日並ニ千九百〇三年
四月七日附ノ法律ヲ適用シ處罰スルモノ
トス

第三十二條　第二部長、衛生總監督官、傳染
病檢疫醫官、家具附貸間衛生監督官、交通
運輸監督部長市警部長、巴里市警察官及
ビ其部下ニ屬スル巡査ハ各自其關係事項
ニ於テ此令達ノ規則ヲ實行スベキモノト
ス、本令ハ之レヲ公告シ且掲示スベシ

警視總監　レピーフ

警視總監ノ命ヲ奉ジ

書記官長　エー、ローラン

役員及職員

理事長　片岡安兵藏（主記）
理事　池田宗實（編輯）
　　葛野壯一郎（編輯）
　　吉井長七（編輯）
　　舟橋喜一（主計）
編輯補　設樂貞雄
　　波江悌夫
　　佐藤四郎
書記　江村郊
　　越山達
　　渡島繁

會員	一八三	會員（地方）	五四
名譽賛助員	七一	終身賛助員	四二
特別賛助員	一一	普通賛助員	二六二
合計	六二三		

本誌及廣告料定價表

本誌	冊數	定價	郵稅
	一冊	金五拾錢	貳錢
	十二冊	六圓	貳拾四錢

廣告料	種別	金額
	半頁	八圓
	一頁	拾五圓
特別頁モ料金一定シアリ御照會アリ度シ		

大正九年七月三十一日印刷（毎月壹回）
大正九年八月一日發行（一日發行）

大阪市北區相生町一三四
電話（東一八八三番）
發行兼編輯人　伊藤幸太郎

大阪市東區內淡路町地二丁目卅一番
印刷兼印刷人　大阪活版所

大阪市西區京町堀上通一丁目
不動貯金銀行ビルデイング內
事務所　日本建築協會
電話土佐堀一九七三番
振替口座大阪三九九七五

大阪市東區今橋一丁目一番地
發行所　片岡建築事務所內

大阪市西區京町堀羽子板橋北
特約販賣店　柳々堂書店
電話土佐堀二四〇番
振替口座二〇八四番

●第三集　第八号　掲載広告一覧（掲載順）

日本エレベーター製造
喜平商会
浅海商店
池田稔事務所
出浦建築事務所
新海工務所
葛野建築事務所
渡辺建築事務所
片岡建築事務所
横河工務所
宗建築事務所
真水工務所
真水三橋建築事務所
遠藤於菟
木子建築事務所
設楽建築工務所
茂、野村建築事務所

加藤工業事務所
国枝工務所
池田勘蔵
大倉土木組大阪出張所
橋本料左衛門
大林組
竹中工務店
長瀬兵馬
山本鑑之進工務所
山中建築部
山本組
鴻池組
松村組
小西組
安藤組大阪出張所
清水組大阪支店
木村組

清水工務店
銭高組
山縣組
熊取谷熊次郎
中岡商店
河村青写真調製所
矢橋商店
長宗吉太郎
松本陶業
青木化学製油所
松尾和助本店
山本窯業商店
内外土木建築材料
新田ベニヤ製造所
東京電気
日本商会
東洋鉄網製造

裳華房
東洋工業社
砂崎
コルク工業
村井工業所
野沢幸三郎商店
山本コンベス商会
大野正営業所
栄進社
日本石綿盤製造
須賀商会
有田製陶所
宇野沢組スティンド硝子製作所
東京建鉄大阪支店
川崎工場
北木島石材大阪出張所
萩原煖房工務所
高田商会銀座販売店
日本建築紙工

銀座建築用品店
共同建材製作所
浅野スレート大阪出張所
横河橋梁製作所
高田商会
米国貿易会社
別府ステンド硝子製作所
日本建築協会
日本水道衛生工事
大阪窯業
東洋建築材料
明正社